

平成 17 年度

財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報



2008





写真1 室町時代酒屋跡（平安京左京六条三坊跡）



写真2 特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園 方丈基壇







写真3 山科本願寺跡2 泉状遺構



写真4 旧閑院宮邸跡 旧池跡



平成 17 年度

財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報

2008



## 序

歴史都市京都は平安京建設以来の永くそして由緒ある歴史を蓄積しており、さらに平安京以前に遡るはるかなむかしの貴重な文化財もいまなお多く地下に埋もれています。

この古都京都の近代化が進む過程で、市内の整備・再開発に伴う埋蔵文化財の破壊や消滅を未然に防ぎ、遺跡や遺物の保存を図るため、昭和51年秋、わたしどもの財団法人京都市埋蔵文化財研究所が設立されました。以来、当研究所は平安京や周辺の多くの遺跡について発掘調査を実施し、多くの調査成果をあげており、それらを公表し普及・啓発するための事業もあわせ進めてまいりました。

当研究所は毎年、その年度に実施しました諸事業について紹介するための年報を発行しており、ご一覧いただくことで当研究所の活動について一層のご理解いただく一助になりますと念じております。その内容は市内の発掘調査事業の概要、試掘や立会調査の成果と概要、あわせて発掘資料整理に関して保存処理や復元彩色ならびに普及・啓発事業等について紹介しています。

なお、発掘調査に関しましては、本年報とは別に個々の遺跡の発掘調査概要報告書を刊行しておりますが、本年報ではその年度に実施しました発掘調査の全体について一覧していただけるよう、それらの内容を要約し紹介しております。

本書の内容についてご意見、ご批評をお聞かせいただけますようお願い申し上げます。

この年度の調査を実施するにあたり原因者の方々をはじめとし、京都市の関連諸機関の各位に多大なご協力をいただきました。ここに記し、厚く感謝しお礼申し上げます。

平成20年1月

財団法人京都市埋蔵文化財研究所  
所長 川上 貢

## 凡 例

- 1 本書は、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が平成 17 年度に実施した事業の年次報告である。発掘調査と試掘・立会調査（第 1 章）、資料整理（第 2 章）、普及啓発事業等報告（第 3 章）とした。
- 2 本書中に示した方位・座標値は、日本測地系（改正前）平面直角座標系VIによった。ただし座標値は単位（m）を省略している。座標および水準は、京都市遺跡発掘調査基準点と京都市水準点を使用した。
- 3 本書中の地図は、京都市長の承認を得て、同市発行の都市計画基本図（縮尺：1/2,500）、市街図（縮尺：1/30,000）を複製して調整した。
- 4 長岡京の条坊呼称は、新呼称に準拠した。
- 5 平安時代以降の土器編年の型式は、当研究所『研究紀要』第 3 号の「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」に従った。なお、「平安京 I～V 期」、「京都 VI～XIV 期」を「京都 I～XIV 期」で統一した。
- 6 各報告の調査位置図の方位は北を上配置した。黒塗り部分が、調査対象地である。縮尺は、1/5,000 ないしは 1/10,000 とした。
- 7 平成 17 年度調査のうち、文化庁国庫補助事業による発掘調査は、『京都市内遺跡発掘調査報告』に、同じく市内遺跡立会調査は『京都市内遺跡立会調査報告』（いずれも京都市文化市民局発刊）に報告されている。
- 8 掲載写真は一部を除き村井伸也・幸明綾子が撮影した。
- 9 本書の執筆は、各報告の文末に名前が記されているものは当該調査担当者が、その他のものは発刊された報告書などから編集したものである。
- 10 本書の作成にあたっては、編集・調整を資料課が行った。



# 目次

## 第1章 調査報告

I 平成17年度の発掘調査概要	1
1 平安宮中務省跡	7
2 平安京左京一条四坊跡	8
3 史跡二条離宮(二条城)・平安京冷然院跡	9
4 平安京左京二条二坊跡	10
5 平安京左京六条三坊跡	11
6 名勝滴翠園・平安京左京七条二坊跡	12
7 平安京左京八条三坊跡	13
8 平安京右京三条二坊跡	14
9 平安京右京二条四坊跡	15
10 平安京右京五条三坊跡	16
11 平安京右京七条一坊跡	17
12 平安京右京七条二坊跡	18
13 北白川廃寺	19
14 史跡賀茂御祖神社境内	20
15 白河街区跡・岡崎遺跡1	21
16 白河街区跡・岡崎遺跡2	22
17 上京遺跡	23
18 特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金閣寺)庭園	24
19 上里北ノ町遺跡	25
20 山科本願寺跡1	26
21 山科本願寺跡2	27
22 山科本願寺跡3	28
23 中臣遺跡	29
24 特別史跡・特別名勝 醍醐寺三宝院庭園	30
II 平成17年度の試掘・立会・確認・分布調査の概要	31
1 旧閑院宮邸跡	32
2 右京区京北遺跡分布調査	41
3 嵯峨折戸町遺跡	41
4 名勝 知恩院方丈庭園	44
5 史跡 高台寺庭園	50
6 史跡・名勝 嵐山	53

## 第2章 資料整理

I 保存処理	56
1 出土木製品の受入れ状況	56
2 木製品保存処理	56
3 金属製品の受入れと保存処理	56
4 ガラスの比重測定	56
5 骨の受入れと保存処理	56
6 遺構・遺物の取上げ	56
7 土サンプルの洗浄	56
8 修羅の保存処理	57
9 受託事業	57
II 復元彩色	57

## 第3章 普及啓発事業等報告

I 普及啓発事業報告	58
1 文化財講演会の開催	58
2 「2005年 発掘調査成果写真展」の開催	58
3 重要文化財指定「平安宮豊楽殿跡出土品」写真展の開催	58
4 現地説明会の開催, 他	58
5 報告書の刊行	58
6 「リーフレット京都」(No. 195 ~ No. 206)の発行	59
7 研究会等への派遣	59
8 全国埋蔵文化財法人連絡協議会への参加	59
9 講師等の派遣	60
10 実習生の受入れ	60
11 ホームページアクセス件数	60
II 京都市考古資料館状況	62
1 速報展の実施	62
2 特別展示の実施	62
3 平安宮豊楽殿跡出土品重要文化財指定に伴う記念展示の実施	62
4 第26回小・中学生夏期教室の開催	62
5 文化財講座の開催	62
6 考古資料の貸出	62
7 博物館学芸員課程実習生の受入れ	63
8 生き方探求・チャレンジ体験	63
9 修学旅行生の発掘調査体験学習の受入れ	64
10 教育機関の学外授業等の受入れ	64

11 関係機関等への協力	65
12 入館状況	65
III 組織構成	66

## 目 次

### カラー図版 1

- 写真 1 室町時代酒屋跡（平安京左京六条三坊跡）
- 写真 2 特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園 方丈基壇

### カラー図版 2

- 写真 3 山科本願寺跡 2 泉状遺構
- 写真 4 旧閑院宮邸跡 旧池跡

図 1	調査位置図	5
図 2	京北町区域調査位置図	6
図 3	平安宮中務省跡調査位置図	7
図 4	” 遺構実測図	7
図 5	” 1区第2面全景	7
図 6	平安京左京一条四坊跡調査位置図	8
図 7	” 江戸時代前期遺構配置図	8
図 8	史跡二条離宮（二条城）・平安京冷然院跡調査位置図	9
図 9	” 第1面遺構実測図	9
図 10	” 第3面遺構平面図	9
図 11	” 第4面遺構平面図	9
図 12	” 第5面遺構平面図	9
図 13	平安京左京二条二坊跡調査位置図	10
図 14	” 調査区配置図	10
図 15	平安京左京六条三坊跡調査位置図	11
図 16	” 第4面室町時代全景写真	11
図 17	名勝滴翠園・平安京左京七条二坊跡調査位置図	12
図 18	” 調査区配置図	12
図 19	平安京左京八条三坊跡調査位置図	13
図 20	” 第1面遺構平面図	13
図 21	” 鏡鑄型	13
図 22	平安京右京三条二坊跡調査位置図	14
図 23	” 遺構平面図	14
図 24	平安京右京二条四坊跡調査位置図	15
図 25	” 調査区配置図	15

図 26	”	遺構平面図	15
図 27		平安京右京五条三坊跡調査位置図	16
図 28	”	遺構平面図	16
図 29		平安京右京七条一坊跡調査位置図	17
図 30	”	遺構平面図	17
図 31		平安京右京七条二坊跡調査位置図	18
図 32	”	遺構平面図	18
図 33	”	遺構全景	18
図 34		北白川廃寺跡調査位置図	19
図 35	”	遺構平面図	19
図 36		史跡賀茂御祖神社境内調査位置図	20
図 37	”	遺構平面図	20
図 38	”	石敷 2	20
図 39		白河街区跡・岡崎遺跡 1 調査位置図	21
図 40	”	1 区平安時代後期～鎌倉時代初頭遺構平面図	21
図 41	”	2 区平安時代後期～鎌倉時代初頭遺構平面図	21
図 42		白河街区跡・岡崎遺跡 2 調査位置図	22
図 43	”	A-T1 区	22
図 44	”	B-T1 区	22
図 45	”	C-T1 区	22
図 46		上京遺跡調査位置図	23
図 47	”	全景	23
図 48	”	遺構平面図	23
図 49		特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園調査位置図	24
図 50	”	第 2 面全景	24
図 51	”	第 2 面遺構平面図	24
図 52		上里北ノ町遺跡調査位置図	25
図 53	”	遺構平面図	25
図 54	”	調査区全景	25
図 55		山科本願寺跡 1 調査位置図	26
図 56	”	遺構平面図	26
図 57		山科本願寺跡 2 11～13 次調査区配置図	27
図 58	”	遺構平面図	27
図 59		山科本願寺跡 3 遺構平面図	28
図 60	”	玉類	28
図 61	”	多彩磁器	28
図 62	”	青磁	28
図 63		中臣遺跡調査位置図	29
図 64	”	遺構配置図	29
図 65	”	遺構平面図	29
図 66		特別史跡・特別名勝 醍醐寺三宝院庭園調査位置図	30

図 67	トレンチ配置図	30
図 68	旧閑院宮邸跡調査位置図	32
図 69	トレンチ・遺構配置図	33
図 70	9～12 トレンチ断面図	34
図 71	旧池平面図	35
図 72	旧池 南岸・南西岸、洲浜断割断面図	36
図 73	旧池南西岸断面図	37
図 74	旧池井戸状遺構遺構実測図	38
図 75	11 トレンチ全景	39
図 76	井戸状遺構全景	39
図 77	旧池南岸洲浜	40
図 78	旧池南西岸洲浜断割	40
図 79	嵯峨折戸町遺跡調査位置図	41
図 80	調査地点図	42
図 81	断面図	43
図 82	名勝 知恩院方丈庭園調査位置図	44
図 83	方丈庭園平面図	44
図 84	北池平面図	45
図 85	北池調査区実測図	46
図 86	北池中央立面図	47
図 87	荷札木簡	47
図 88	調査区全景	48
図 89	1 トレンチ洲浜状遺構	48
図 90	2 トレンチ	48
図 91	3 トレンチ	48
図 92	4 トレンチ	49
図 93	5 トレンチ	49
図 94	6 トレンチ	49
図 95	東岸滝組	49
図 96	史跡 高台寺庭園調査位置図	50
図 97	調査区配置図	50
図 98	1 調査区実測図	51
図 99	2 調査区実測図	51
図 100	3 調査区実測図	51
図 101	1 調査区全景	52
図 102	2 調査区全景	52
図 103	3 調査区 雨落ち遺構	52
図 104	高台寺所蔵古絵図	52
図 105	史跡・名勝 嵐山調査位置図	53
図 106	基本層位図	54
図 107	遺構平面図	54

図 108	”	調査区全景	・・・・・・・・・・	55
図 109	保存処理	下鴨神社で出土した鍛造剥片と粒状滓	・・・・	57

## 表 目 次

表 1	平成 17 年度調査一覧表	・・・・・・・・・・	2
表 2	その他契約一覧表	・・・・・・・・・・	4
表 3	保存処理木製品一覧表	・・・・・・・・・・	56
表 4	彩色復元一覧表	・・・・・・・・・・	57
表 5	講師等派遣一覧表	・・・・・・・・・・	61
表 6	実習生の受入れ	・・・・・・・・・・	61
表 7	文化財講座一覧表	・・・・・・・・・・	63
表 8	新規貸出一覧表	・・・・・・・・・・	63
表 9	博物館実習受入れ一覧表	・・・・・・・・・・	64
表 10	市内中学生チャレンジ体験受入れ一覧表	・・・・・・	64
表 11	教育機関の学外授業等の受入れ一覧表	・・・・・・	65
表 12	関係機関等への協力一覧表	・・・・・・・・・・	65
表 13	入館者数一覧表	・・・・・・・・・・	66
表 14	役員名簿	・・・・・・・・・・	66
表 15	組織構成表	・・・・・・・・・・	66



## 第1章 調査報告

第1章は、発掘調査（Ⅰ）と試掘・立会・確認調査（Ⅱ）とした。

平安宮・平安京の調査位置図には、現段階での復元推定線を入れ利用の便をはかった。

### I 平成17年度の発掘調査概要

平成17年度に実施した発掘調査件数は、表1に示した通り30件であった。これに継続調査として発掘調査の扱いで報告してきた特別史跡・特別名勝醍醐寺三宝院庭園整備に伴う試掘・立会調査（Ⅰ-24）を含めた24件の概要を掲載した。以下、主な調査を紹介したい。

平安京左京二条二坊跡（Ⅰ-4）の高陽院の発掘調査では、これまで検出した池跡の南岸をはじめて検出することができた。その結果、1981年度に検出した北岸部から約140m南に南岸があることがわかり、方四町の敷地の中に広大な池が設けられていたことがわかってきた。

平安京左京六条三坊跡（Ⅰ-5）では、室町時代の酒倉とみられる多数の埋甕遺構を検出した。これまで少数のものは確認できていたが、これほど大規模なものは初めてで、中世京都の商業活動の一端を知ることができた。

平安京以外の調査では、北白川廃寺跡（Ⅰ-13）で大きな成果をあげることができた。これまで、東方基壇（金堂）および塔跡を確認できていたが、この間の距離があまりにも離れていることから別寺院との解釈もされたほどである。今回の調査で、金堂の西方で既に検出していた回廊状遺構が東に折れ曲がることがわかり、この回廊が、金堂を取り囲むことがほぼ確定でき、金堂院を形成していたことが予想できる状況となってきた。一方、塔跡についても、既往の調査で柵や溝が周辺で検出されていることから、これが塔院を形成する遺構として見直す必要がでてきた。さらに、寺域の範囲の問題についても今後の調査に期待していきたい。

史跡賀茂御祖神社（Ⅰ-14）の調査は、奈良の小川整備に関連した調査を継続して実施しているもので、今回も石敷遺構を検出した。この性格について、検出した遺構とこの石敷遺構を含めて、鴨社の祭祀に伴うものであることがわかった。

特異な調査としては、特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）方丈の解体調査に伴う調査（Ⅰ-18）があげられる。調査の結果、現在の方丈の前身建物、その下層に室町時代の2時期の礎石建物跡を検出することができた。

山科本願寺跡では近接して3箇所（Ⅰ-20・21・22）の調査を実施し大きな成果があった。中心区域である御本寺の範囲にあたり、土塁・土塁下を抜ける石組暗渠・泉跡などを検出した。さらにⅠ-22の調査では、主要建物うちの「御亭」に関連するとみられる遺構を検出するとともに、本願寺焼き討ちの際に火災層を確認し、ガラス玉・多彩磁器・青磁などを含めた特殊な遺物が多数出土した。

※ 報告の詳細については、研究所ホームページ

(<http://www.kyoto-arc.or.jp/>) - 活動内容 - 調査報告書（シリーズ）にpdf形式で公開しておりますのでご活用ください。

表 1 平成 17 年度調査一覧表 (1)

契約番号	遺跡名	略記号	調査住所	内容	担当者	面積	期間	本書番号	備考
H17-001	京都市内遺跡	2005BB-	京都市内一円	立会	吉本、堀内		2005.04.01 ～ 2006.03.31		報告
H17-004	京都市内遺跡 (京北町内)	2005UK- BP001	右京区京北全域	分布調査	加納・津々池		2005.04.01 ～ 2006.03.31	II -02	分布報告
H17-005	平安京跡 (左京六条三坊五・六町、楊梅小路、町尻小路)	2004HK- WD002	下京区楊梅新町東入上柳町 (旧尚徳中学校・楊梅幼稚園跡他)	発掘	丸川・ト田・能芝 (勉)・尾藤・モンベティ	2,250	2004.09.07 ～ 2005.07.08	I -05	2005-08
H17-006	中臣遺跡	2004RT- NK082	山科区勸修寺東栗栖野町地内	発掘	能芝 (妙)	45	2005.03.22 ～ 2005.04.08	I -23	2005-01
H17-007	白河街区跡・岡崎遺跡	2004KS- OJ001	左京区岡崎天王町地内	発掘	近藤 (奈)・木下・本・小檜山	1,277	2005.03.09 ～ 2005.08.03	I -15	2005-04
H17-008	平安京跡 (右京五条三坊三町)	2004HK- QP001	右京区西院矢掛町	発掘	東・長戸	494	2005.03.11 ～ 2005.4.28	I -10	2005-02
H17-009	長岡京跡 (右京二条三坊九・十六町)・上里遺跡	2005NG- EW003	京都市西京区上里南ノ町・長岡京市井ノ内北裏	発掘	上村・南出・モンベティ・ト田・長戸	5,478	2005.06.17 ～ 2006.06.09	2006	
H17-011	山科本願寺跡	2005RT- HG008	山科区西野山階町	発掘	柏田	121	2005.05.11 ～ 2005.05.25	I -20	2005-03
H17-012	嵯峨折戸町遺跡	2005UZ- SN002	右京区嵯峨苅分町地内	立会	堀内 (寛)		2005.05.18 ～ 2005.05.20	II -03	
H17-013	平安京跡 (右京六条一坊一町・二町)	2005HK- VH003	下京区中堂寺北町	発掘	加納・吉村	324	2005.11.10 ～ 2005.12.26	2006	
H17-015	伏見城跡	2005FD- FP001	京都市伏見区竹中町	発掘	山本、桜井、能芝妙、大立目	4,435	2005.06.03 ～ 2006.09.01	2006	
H17-016	白河街区跡・岡崎遺跡	2005KS- JC002	左京区岡崎南御所町 (岡崎通西車道部分)	発掘	吉村	76	2005.07.19 ～ 2005.09.15	I -16	2005-09
H17-019	山科本願寺跡	2005RT- HG009	山科区西野山階町	発掘	柏田	160	2005.05.30 ～ 2005.07.02	I -21	2005国補
H17-021	平安宮跡 (中務省)	2005HK- CM006	上京区千本通丸太町下る東入主税町	発掘	南出	44	2005.06.06 ～ 2005.06.24	I -01	2005国補
H17-022	史跡高台寺庭園	2005RT- KD001	東山区下河原町	確認	前田	20	2005.08.22 ～ 2005.09.02	II -05	
H17-023	平安京跡 (右京三条二坊十五町・三条三坊三町)	2005HK- RS003	中京区西ノ京東中合町・桑原町	発掘	ト田	88	2005.08.08 ～ 2005.09.02	I -08	2005-05
H17-028	平安京跡 (左京二条二坊十町)	2005HK- NY001	中京区竹屋町通油小路西入西竹屋町	発掘	平尾・山口	350	2005.07.06 ～ 2005.09.28	I -04	2005-07
H17-029	平安京跡 (左京八条三坊三町)	2005HK- ER001	下京区油小路通塩小路下る東塩小路町地内	発掘	東・布川	165	2005.07.28 ～ 2005.09.26	I -07	2005-10
H17-030	特別史跡・特別名勝鹿苑寺 (金閣寺) 庭園	2005RH- KK011	北区金閣寺町 1 番地 鹿苑寺 (金閣寺) 境内	発掘	小檜山	300	2005.08.03 ～ 2006.02.27	I -18	2005-17
H17-031	上京遺跡	2005RH- RS001	上京区小川通寺之内上ル本法寺前町	発掘	長戸	92	2005.07.11 ～ 2005.08.08	I -17	2005国補
H17-032	平安京跡 (右京七条二坊四町)・衣田町遺跡	2005HK- YK001	下京区西七条中野町	発掘	柏田	190	2005.08.03 ～ 2005.08.29	I -12	2005-06

本書番号欄： I - \* ・ II - \* は、本書第 1 章の報告番号を示す。  
2006 は、本書次年度以降にて報告することを示す。

表1 平成17年度調査一覧表(2)

契約番号	遺跡名	略記号	調査住所	内容	担当者	面積	期間	本書番号	備考
H17-033	市指定名勝知恩院方丈庭園	2005RT-TO001	東山区新橋通大和大路東入三丁目林下町400	確認	前田	38	2005.12.12 ～ 2005.12.28	II-04	
H17-034	上里北ノ町遺跡	2005NG-NS004	京都市西京区大原野上里北ノ町地内	発掘	卜田	128	2005.10.17 ～ 2005.10.28	I-19	2005-11
H17-035	平安京跡(右京二条四坊十五町)	2005HK-IZ003	右京区太秦安井西裏町地内	発掘	長戸	298	2005.10.11 ～ 2006.02.16	I-09	2005-13
H17-038	名勝滴翠園(滄浪池)	2005HK-WI013	下京区堀川通花屋町下る本願寺門前町地内	発掘・立会	近藤(奈)	20	2005.11.07 ～ 2006.03.31	I-06	
H17-043	常盤仲之町遺跡・上ノ段遺跡・広隆寺境内遺跡	2005UZ-SN003	右京区太秦一ノ井町～太秦青木元町地内	発掘	吉村・東・加納	1,216	2006.01.20 ～ 2006.06.30		2006
H17-044	平安京跡,旧二条城跡	2005HK-GX002	京都市上京区大倉町他(烏丸通出水～丸太町)	立会	堀内・吉村		2005.12.01 ～ 2006.05.31		2006
H17-045	北白川麿寺跡	2005KS-RS002	左京区北白川大堂町	発掘	布川	108	2005.11.09 ～ 2005.12.08	I-13	2005国補
H17-046	山科本願寺跡	2005RT-HG010	京都市山科区西野山階町	発掘	柏田	150	2005.11.11 ～ 2005.12.16	I-22	2005国補
H17-047	平安京跡(左京一条四坊九町)	2005HK-OO001	上京区京都御苑(京都大宮御所内)	発掘	木下	200	2006.01.06 ～ 2006.01.23	I-02	2005-14
H17-048	史跡旧二条離宮(二条城)・平安京跡(左京二条二坊六町)	2005HK-KR003	中京区竹屋町堀川西入二条城町地内	発掘	尾藤	38	2006.01.06 ～ 2006.03.01	I-03	2005-16
H17-049	平安京跡(右京七条一坊九町)	2005HK-XF020	下京区中堂寺栗田町	発掘	平尾	200	2006.02.01 ～ 2006.02.24	I-11	2005-12
H17-050	特別史跡・特別名勝 醍醐寺三寶院庭園	2005FD-DT007	伏見醍醐東大路町	試掘・立会	近藤(奈)	7	2005.12.14 ～ 2006.02.28	I-24	
H17-051	平安京跡(左京二条三坊十六町)・閑院宮邸跡・烏丸丸太町遺跡	2005HK-GW002	上京区京都御苑	試掘・立会	近藤(奈)・鈴木(久)	20	2005.11.17 ～ 2006.01.25	II-01	
H17-056	史跡・名勝嵐山	2005UZ-KA001	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町	試掘	小檜山	157	2006.03.06 ～ 2006.03.17	II-06	
H17-057	平安宮跡(朝堂院)	2005HK-KL001	上京区下立売通千本東入下る中務町・竹屋町通千本東入主税町	発掘	吉崎	58	2006.02.03 ～ 2006.02.15		2006国補
H17-058	平安京跡(右京三条二坊十四町)	2005HK-RV001	中京区西ノ京下合町	発掘	布川	489	2006.02.10 ～ 2006.04.01		2006
H17-059	史跡賀茂御祖神社境内	2005RH-UU005	左京区下鴨泉川町	発掘	鈴木(久)・近藤(奈)	75	2006.02.20 ～ 2006.03.31	I-14	2005-15
H17-060	淀城跡・長岡京跡(左京九条三坊十三町)	2005NG-YE004	伏見区淀池上町地内	発掘	尾藤	116	2006.05.08 ～ 2006.06.13		2006
H17-068	平安京跡(右京北辺三坊八町)	2005HK-JI001	右京区花園鷹司町	発掘	津々池	220	2006.03.31 ～ 2006.05.11		2006

## 備考欄:

2005-＊は、2005年度発掘調査分の京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告番号を示す。

2005国補は、『京都市内遺跡発掘調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年3月31日にて報告を示す。

2006国補は、『京都市内遺跡発掘調査概報 平成18年度』京都市文化市民局 2007年3月31日にて報告を示す。

報告は、『京都市内遺跡立会調査概報 平成17年度』京都市文化市民局 2006年3月31日(4～12月調査分)

および、『京都市内遺跡立会調査概報 平成18年度』京都市文化市民局 2007年3月31日(1～3月調査分)

にて報告を示す。

分布報告は、『京都市内遺跡分布調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006年3月31日にて報告を示す。

表2 その他契約一覧表

契約番号	内容	対象	所在地	担当者	備考
H17-002	遺物整理	埋蔵文化財出土遺物整理	京都市	中村 敦	
H17-003	遺物保管	埋蔵文化財出土遺物整理	京都市	中村 敦	
H17-010	測量	平安京跡	京都市中京区烏丸通三条下ル饅頭屋町	宮原健吾	
H17-014	測量	大報恩寺境内遺跡	京都上京区今出川通七本松上ル	宮原健吾	
H17-017	講師派遣	講師派遣	奈良大学	辻 純一	
H17-018	整理	山科本願寺跡	京都市山科区西野左義長町	小檜山一良	
H17-020	整理	山科本願寺跡	京都市西野山階町	清藤玲子	
H17-024	保存処理	東京大学構内	東京都文京区本郷	竜子正彦	
H17-025	水中調査	沈没船(19世紀の付り船)埋没地点	広島県福山市	吉崎 伸	
H17-026	写真撮影	長岡京跡	長岡京市	村井伸也 幸明綾子	
H17-027	保存処理	出島和蘭商館跡	長崎市	竜子正彦 村井伸也 幸明綾子	
H17-036	整理	山科本願寺跡	京都市山科区西野山階町	柏田有香	
H17-037	整理	平安宮跡	京都市上京区竹屋町通千本東入主税町	南出俊彦	
H17-039	測量	法性寺跡	京都市伏見区深草正覚寺町	宮原健吾	
H17-040	測量	美濃山王塚古墳	八幡市美濃山王塚地内	宮原健吾	
H17-041	整理	上京遺跡	京都市上京区小川通寺の内上ル本法寺前町	長戸満男	
H17-042	発掘調査支援	基地内遺跡	沖縄県宜野湾市	辻 純一	
H17-051	調査支援	平安京跡旧閑院宮庭園整備事業	京都市上京区京都御苑	近藤奈央 鈴木久男	
H17-052	整理	北白川廃寺	京都市左京区北白川大堂町	布川豊治	
H17-053	整理	山科本願寺跡	京都市山科区西野山階町	柏田有香	
H17-054	測量	平安京跡	京都中京区烏丸通御池下ル虎屋町	宮原健吾	
H17-055	測量	吉田本町遺跡	京都左京区吉田本町	宮原健吾	
H17-061	資料整理支援	基地内遺跡ほか	沖縄県宜野湾市ほか	辻 純一	
H17-062	測量	山本町遺跡	京都府八幡市山本	宮原健吾	
H17-063	写真撮影	八幡市	八幡市	村井伸也 幸明綾子	
H17-064	石材復元	特別史跡・特別名勝醍醐寺三宝院庭園	京都市伏見区醍醐東大路町地内	鈴木久男	
H17-065	写真撮影	長岡京跡	長岡京市	村井伸也 幸明綾子	
H17-066	写真撮影	長岡京跡	長岡京市	村井伸也 幸明綾子	
H17-067	報告書作成	17年度報告書	京都市域	中村 敦	

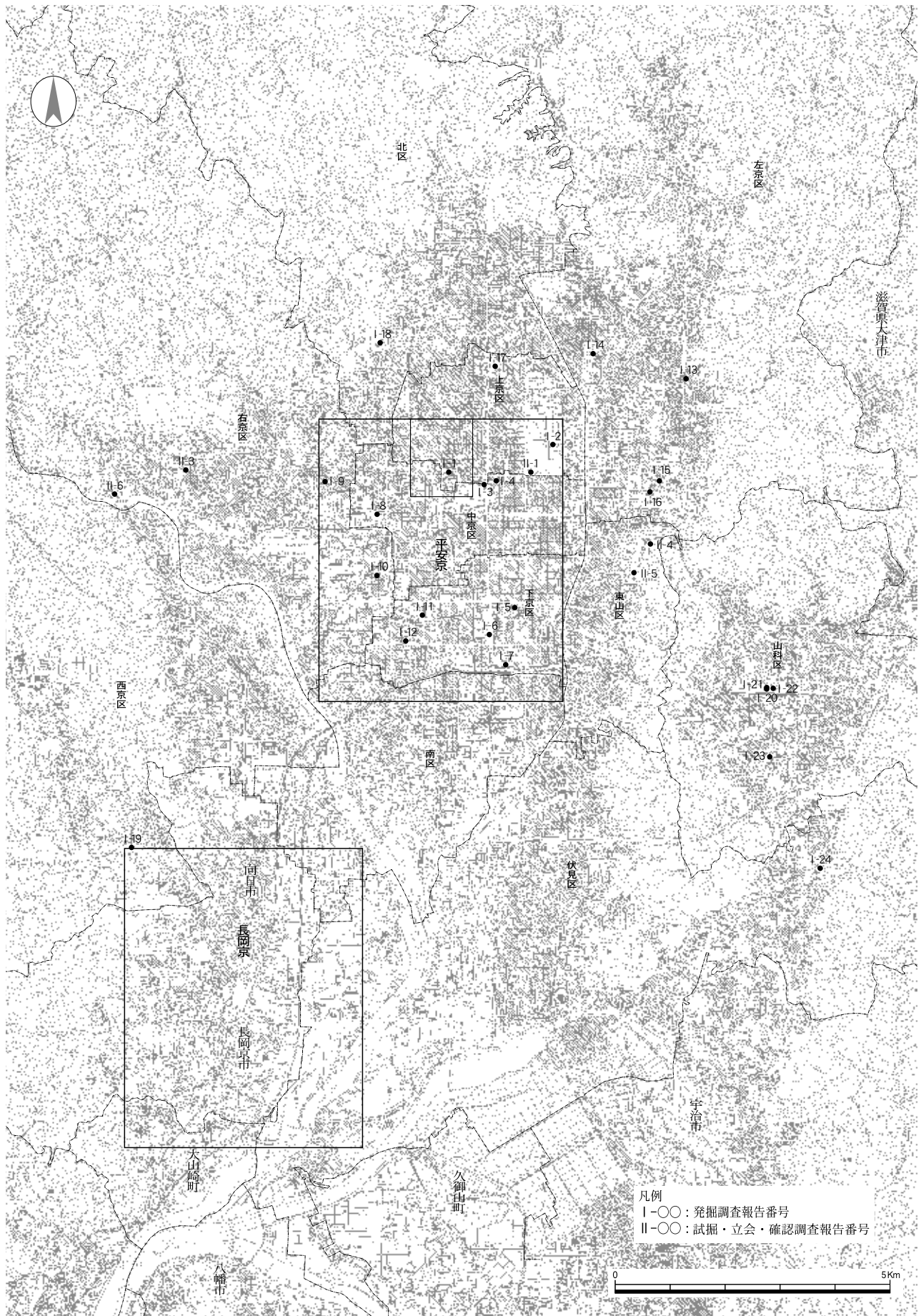


図1 調査位置図





図2 京北町区域調査位置図



# 1 平安宮中務省跡

報告書名：『京都市内遺跡発掘調査報告 平成18年度』京都市文化市民局 2007. 3.31

**経過** 調査地は、平安宮中務省跡と推定される箇所である。中務省跡の発掘調査は他の宮内に比べて調査が進んでおり、これまでに20箇所ほどで行われている。中でも平成元年度に行われた調査は当調査地に東接しており、その際に平安時代の建物跡や土壌などを検出している。

今回の調査では、平成元年度調査に検出した2棟の建物跡、土壌の全容を明らかにすること、中務省西面築地跡の検出などを目的とした。

**遺構** 1区で平安時代の遺構を検出した。建物1は東西1間分、南北3間分を検出した。それぞれの柱間は2.4mである。平成元年度調査で検出した建物跡(SB3)と今回検出した建物1は同一の建物で2間×3間の南北棟の建物に復元することができた。

土壌7は東西2.5m、南北2.3m、深さは20cmである。遺物は土師器、須恵器等の土器類や瓦類が多く出土した。

土壌20は東西約3m、南北約4mである。深さは70cmである。この土壌からも土器類や瓦類が多数出土している。

2区では中央で高まりを検出し、その位置は、ほぼ西面築地心想定線上となるため、この高まりを中務省西面築地跡と考えた

**遺物** 今調査で出土した遺物は平安時代の土師器、須恵器、緑釉陶器、瓦類が主でそれらは土壌などを中心に整地層からも出土している。

**小結** 平安時代中期の整地層は周辺の調査でも検出されており、平安時代中期に何らかの整備がなされたことを示している。以上のように狭い面積の調査にもかかわらず、成果を挙げることができた。平安宮内の調査は小規模とはいえ、このような調査を積み上げることが平安宮の研究に大きな役割を果たすものといえる。



図3 調査位置図

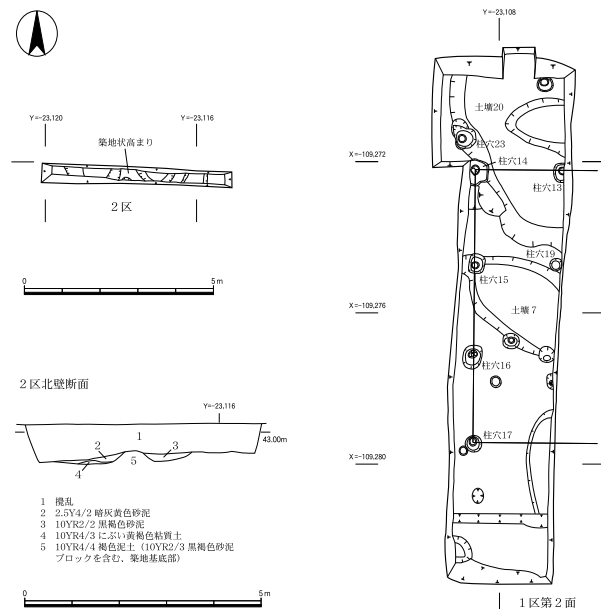


図4 遺構実測図



図5 1区第2面全景(北より)

## 2 平安京左京一条四坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-14『平安京左京一条四坊九町跡』2006. 3.24

**経過** 調査地は、京都市上京区京都御苑内の大宮御所の敷地内である。大宮御所（事務棟）整備工事に伴う調査である。平安京左京一条四坊九町、また、江戸時代初めに南に隣接する仙洞御所とともに造営された大宮御所にあまっている。そのため、工事に先立って遺構の残存状況を確認するために試掘調査を実施し、江戸時代の遺物包含層や焼土を検出した。そのため、発掘調査を実施することになった

**遺構** 1区では、遺構は検出できなかった。北壁沿いに設置した確認トレンチの土層観察・既設管撤去時の立会で、整地層と土壌1を確認している。遺構面が比較的浅かった2区北部で、大型の土壌2（廃棄土壌）を検出した。

**土壌1** 1区の南半の東壁（立会a地点）で検出した土壌である。赤貝・蛸などの貝殻とともに肥前磁器の京焼の椀、白磁の小型椀、土師器の皿などが出土している。

**土壌2** 2区で検出した土壌である。南側掘形のみを検出であるが、東西7m以上、南北3m以上の規模を持ち、完形の土師器（皿）を含む多量の江戸時代の遺物が出土している。他に貝殻や魚類の骨が出土している。

**遺物** 遺物の大半が、2区の土壌2（廃棄土壌）から出土したものである。土師器の皿が9割を占め、完形品も比較的多い。肥前磁器、京焼系陶器、瀬戸・美濃系の鍋・壺、信楽の播鉢、堺・明石系の播鉢、焼塩壺、土師質の炮烙・風炉・蓋、土製人形、銭貨、銅製品、鉄製品、骨製品、石製硯などがある。また、動物遺存体としてテングニシ、アカガイ、シジミガイ、ハマグリ、アワビの貝殻、魚類のタイ科、シイラの椎骨が出土している。

**小結** 今回の調査では、掘削深度に制限があったため、調査区の大半が遺構面に達しなかった。しかし、江戸時代の土壌（廃棄土壌）を2基検出し、多くの遺物が出土した。

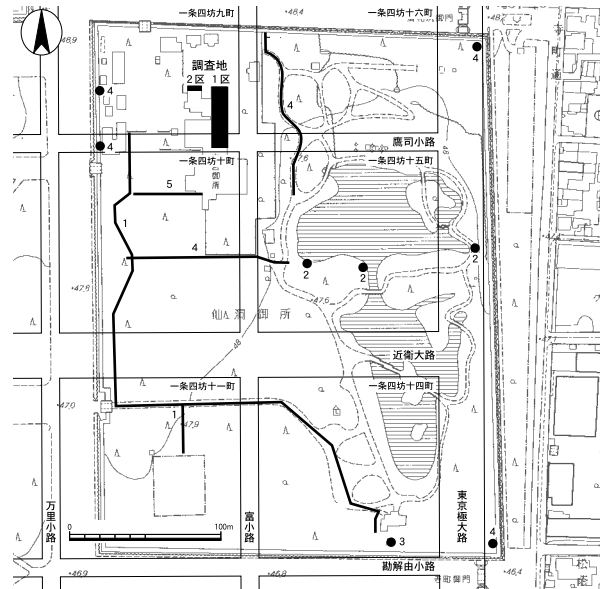


図6 調査位置図

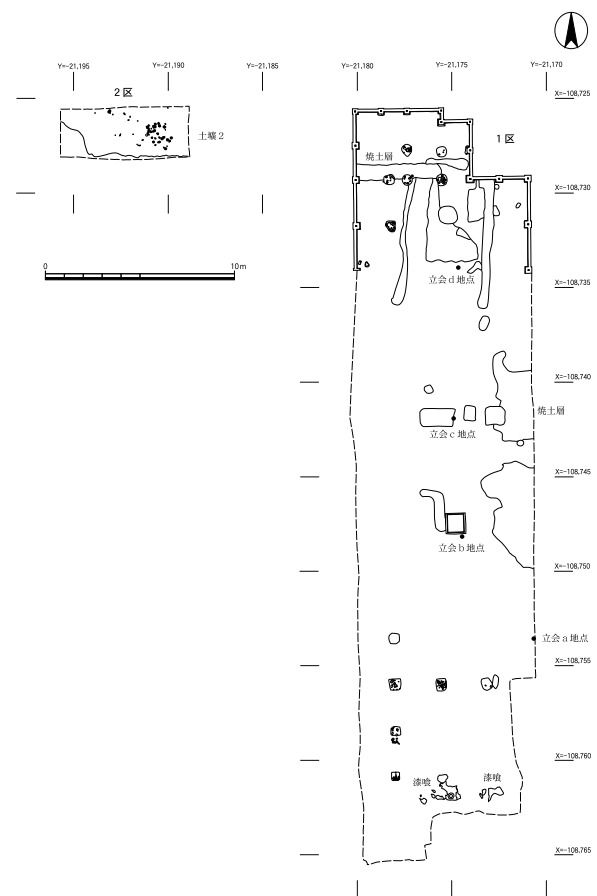


図7 江戸時代前期遺構配置図

### 3 史跡二条離宮(二条城)・平安京冷然院跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-16『史跡二条離宮(二条城)・平安京冷然院跡』2006. 3.31

**経過** 西堀川4号分流幹線公共下水道管布設工事に伴う竖坑部分の発掘調査である。今回は2002年度、2004年度に続く3次調査である。調査地は二条城の北東に位置し、江戸時代には二条離宮(二条城)内にあたり、平安時代には、平安京左京二条二坊六町、冷然院北東部に該当する場所である。

**遺構** 第1面では江戸時代末期から明治時代、第2面では江戸時代前期から後期、第3面では鎌倉時代から室町時代、第4・5面では平安時代の遺構を調査した。

第1面では路面、その南側には東西方向の溝、溝の南側には柵列を検出した。第2面でも路面を確認した。第3面では、土壌や柱穴を、第4面では、北東から南西に延びる溝、第5面では柱穴や土壌を検出した。

**遺物** 平安時代の遺物には、土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦がある。鎌倉時代の遺物では土師器が出土した。室町時代の遺物には、土師器、瓦器、天目、磁器などが出土した。江戸時代前半の遺物には、瀬戸・美濃産の施釉陶器椀、丹波産や信楽産の焼締陶器鉢・壺が出土している。

**小結** 1・2次調査に引き続き、平安時代から中世、近世にわたり3時期5面の歴史変遷を明らかにする成果を得た。平安時代には、溝90を検出している。平安時代の冷然院の池に伴う既往の調査で検出している遣水遺構と同様の規模を測ることから、この溝90は遣水の上流部分の可能性がある。鎌倉時代から室町時代には整地層上で溝や多くの柱穴を検出した。遺物は少ないが、遺構からは鎌倉時代、室町時代の遺物が出土しており、冷然院の廃絶後、二条城が創建されるまでの中世の遺構である。江戸時代には、寛永期の後水尾天皇の行幸に伴う上面に白砂を載せて丹念に整地された路面を検出することができた。

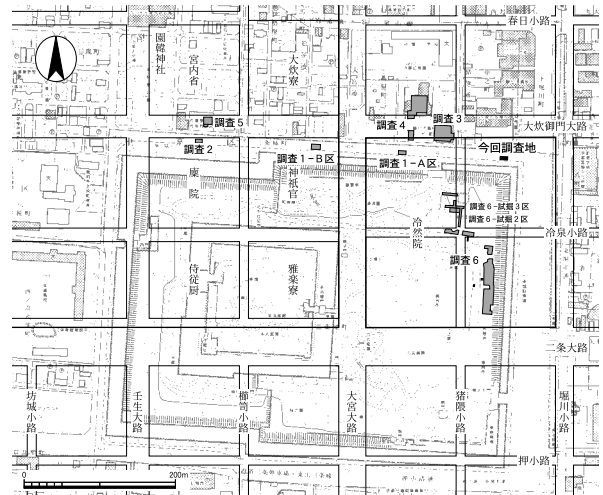


図8 調査位置図

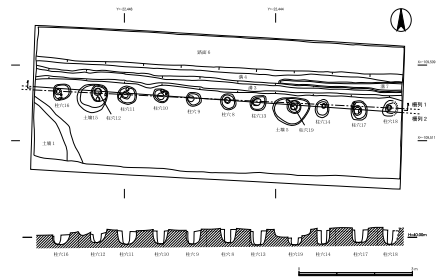


図9 第1面遺構実測図

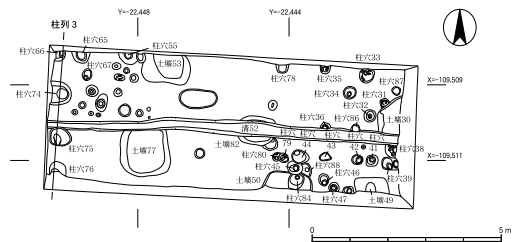


図10 第3面遺構平面図

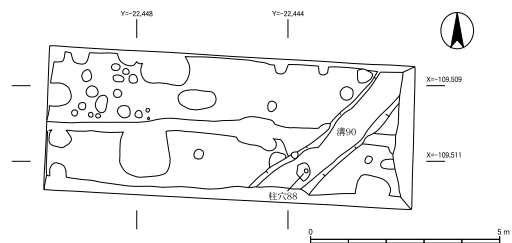


図11 第4面遺構平面図

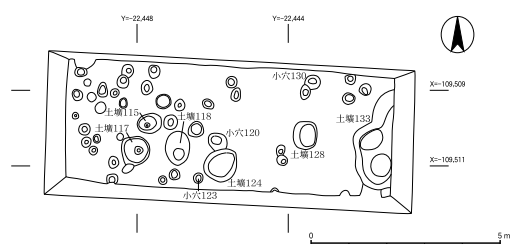


図12 第5面遺構平面図

## 4 平安京左京二条二坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-7『平安京左京二条二坊十町（高陽院）跡』2005.11.30

**経過** 調査地は、平安京左京二条二坊十町に位置し、藤原頼通の邸宅「高陽院」の南西部に該当する。また、調査対象地の南端付近では大炊御門大路の北築地・側溝の検出が予想された。「高陽院」に関する発掘調査はこれまでに7度実施しているが、いずれの調査でも池跡や景石など庭園に関する遺構や建物の一部を検出しており、遺構の残存状況が非常に良好であることが確認されている。

**遺構・遺物** 1・2・3区で池跡を検出した。1・3区では岸部は検出されず、2区北部で4時期の岸部を検出した。2区では、大炊御門大路北築地、大炊御門大路北側溝、大炊御門大路路面、十町の内溝などを検出した。

1・2・3区で検出した池は、出土土器の年代から高陽院の苑池と考えられる。2区最終段階の岸には拳大前後の礫を敷いた洲浜が造られていた。1・3区では調査区全域が池にあたるが、ほとんどの箇所池の堆積土は池底から0.1m前後と非常に薄い状況であった。

2区南端の大炊御門大路北築地の高まりの幅は約2m、大炊御門大路北側溝の溝幅は約1.1mで北肩は護岸の杭列が並び、ほぼ垂直に約0.5m立ち上がる。堆積土は9世紀前半代の土器片を多量に含む砂礫層で、短期に埋没した状況を呈する。

**小結** 藤原頼通が造営した高陽院の池跡およびその汀を4時期にわたって検出できたことや、その高陽院の南限である大炊御門大路の路面・北側溝・築地跡が確認できたことは大きな成果といえよう。高陽院の池については過去に数箇所の調査で確認しているが、今回検出した南岸部は1981年度に検出した北岸部から約140m南に位置する。

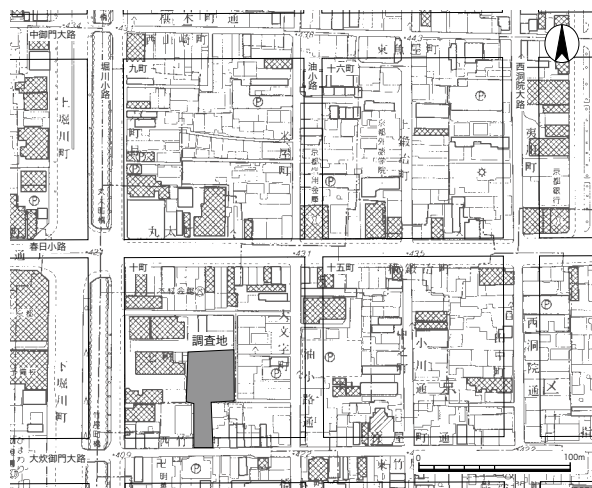


図 13 調査位置図

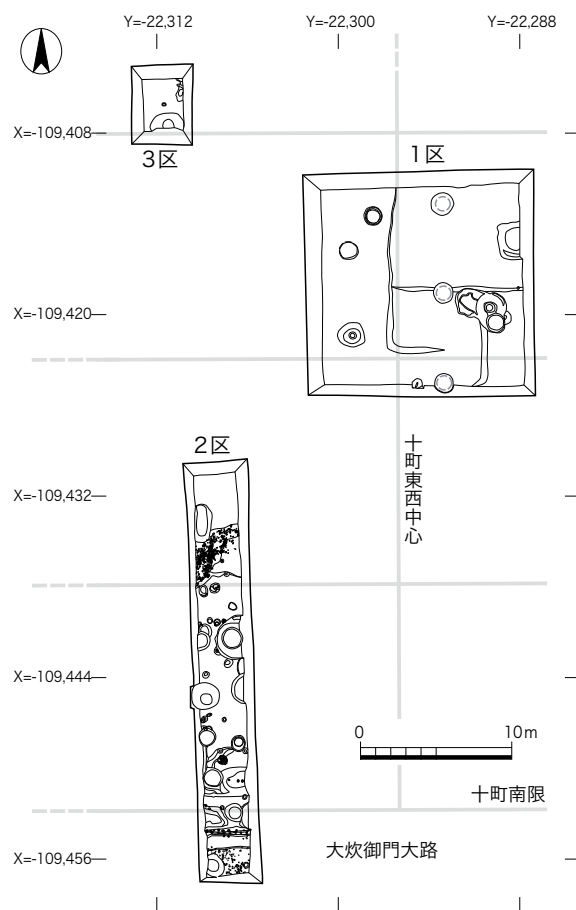


図 14 調査区配置図



## 5 平安京左京六条三坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005- 8 『平安京左京六条三坊五町跡』 2005.12.28

**経過** この調査は、尚徳中学校地に5学区を統合し仮称下京中学校を建設することに伴うものである。調査地は平安京左京六条三坊五町の北端、六町の南西隅、並びに楊梅小路と町尻小路に当たる。

**遺構・遺物** 第1面では、近・現代の攪乱は少なく、幕末期の町屋遺構が良好に残存していた。第2面では、江戸時代後期の町屋の遺構を検出した。第3面は、江戸時代前期の遊里から町屋へと変遷する時期にあたるが、それらの遺構は明確でなく、大規模な土壇（ゴミ穴）が各所に掘られている状況であった。第4面では、室町時代の甕据付穴を多数検出した。室町時代の下京は、各所に酒屋・麴室が所在したことが史料にみえ、今回検出した遺構はそれに該当する可能性が高い。第5面では、平安時代の楊梅小路の路面上で土器を廃棄した土壇などを検出した。路面はそれらを覆うかたちで厚く堆積することを確認した。南側溝は想定位置で検出できたが、北側溝は明確にできなかった。第6面では、平安時代以前の遺構を調査し、南東部で流路1条、北西部でも流路2条を検出した。流路のひとつからは、弥生時代後期の土器がまとめて出土した。

**小結** 調査区中央で室町時代の埋甕遺構を検出したことで、ここに甕を並べた倉が存在したことが明らかとなった。甕の内容物に関する資料は得られなかったが、室町時代の下京には数多くの麴室・酒倉が営まれていたことが知られており、検出した埋甕遺構は酒を醸造するための甕を並べた酒倉の遺構と考えた。酒屋に関する史料のうち最も著名な史料としては、北野神社文書にある応永33年（1426）の酒屋名簿があり、洛中洛外の酒屋347軒が掲載されている。その中の1つに「楊梅室町西南類之倉」と記した文書があり、今回検出した埋甕遺構はここにみえる「倉」に該当する可能性が高い。

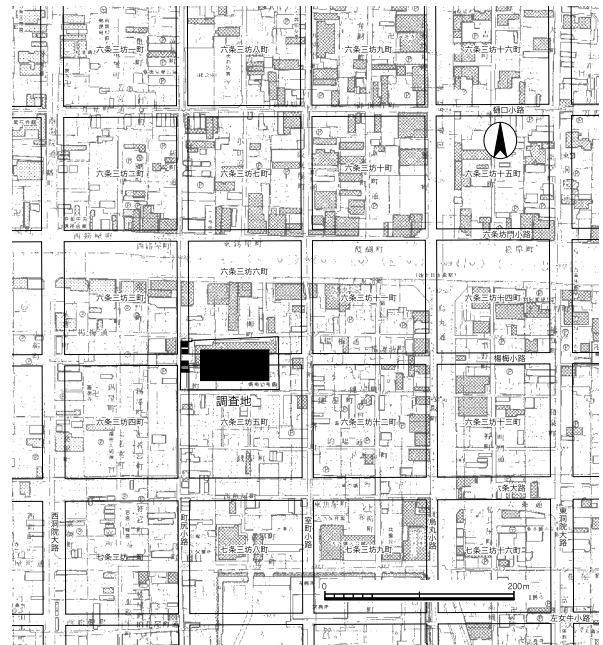


図15 調査位置図

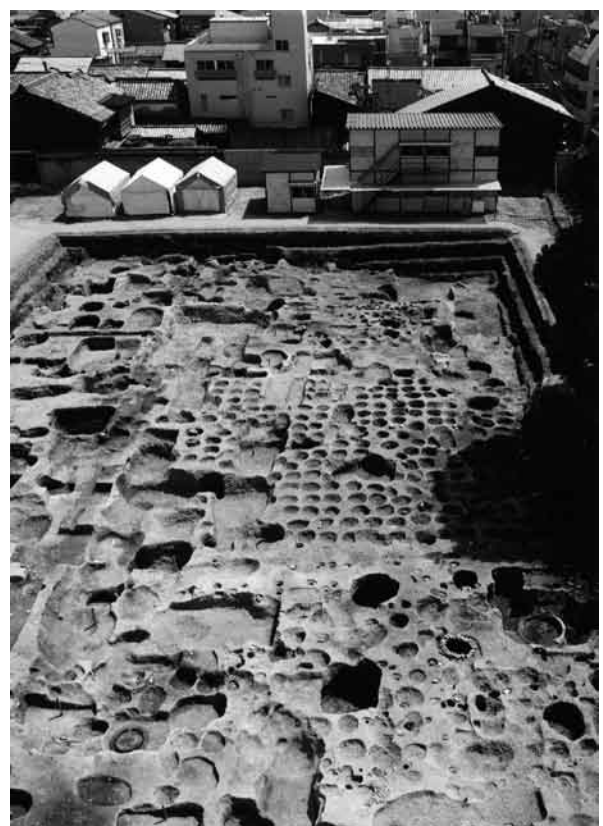


図16 第4面室町時代全景写真（西より）

## 6 名勝滴翠園・平安京左京七条二坊跡

**経過** 西本願寺名勝滴翠園保存整備事業に伴う埋蔵文化財の発掘・立会調査である。調査は 1996 年度から継続しており、今回は第 10 次調査となる。今年度は、整備工事に並行して実施した立会調査とこれに先行して小規模な発掘調査を実施した。調査区は、鐘楼西側に 2 箇所、踏花塙橋下の流れ、滄浪池西南岸に各 1 箇所を設定した。

**遺構** 鐘楼西側の 2 箇所の調査区では、江戸時代の南北方向の石列を検出した。北側で 2 列、南側で 1 列を確認した。方向は、おおむね現園路と平行している。踏花塙橋下の流れ部分の調査では、昭和になってからの改修痕跡のみであった。滄浪池西南では、鼠廊北側石垣の調査を実施したが、石垣の裏込めなどはみられず、石垣自体が旧池の堆積の上に築かれていることがわかった。江戸時代の改修とみられる。他の立会調査などでは大きな成果はみられなかった。



図 17 調査位置図

**遺物** 小規模な調査で遺物の出土はないが、灯籠の一部とみられる石造物が出土している。

**小結** 踏花塙橋下の流れは、昭和の改修であったが、何度も意匠が変更されていることがわかった。鼠廊北側の石垣は、『滴翠園十勝絵』(1812 年)にも描かれている。

(近藤 奈央)

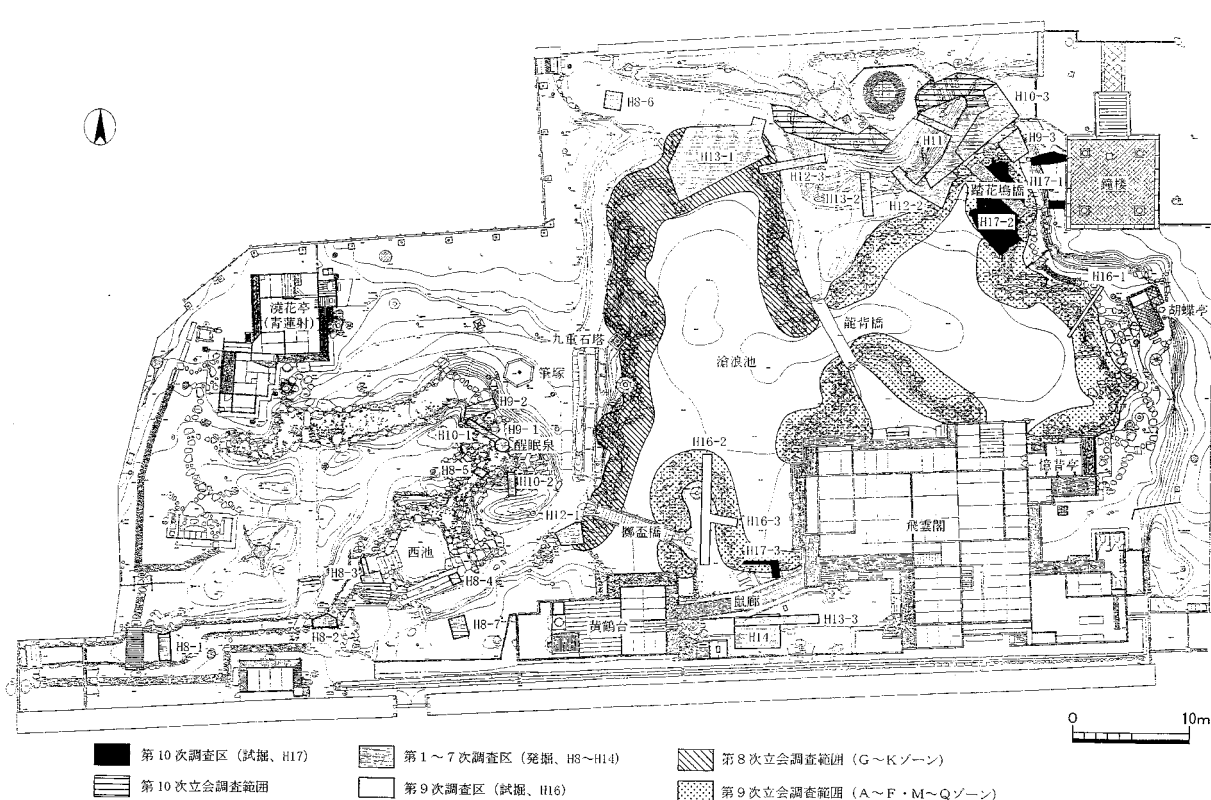


図 18 調査区配置図



## 7 平安京左京八条三坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-10 『平安京左京八条三坊三町跡』 2005.12.28

**経過** 調査地は、左京八条三坊三町内の一行六門・二行六門の境界付近にあたる。この八条三坊の中央部は、京都駅再開発に伴って数次にわたる調査が実施され、ほぼ全域から鎌倉時代から室町時代初頭にかけての鑄造関係遺物（鏡・銭・刀装具・仏具・埴埴・羽口・銅滓など）が多く出土している。

**遺構** 第1面では、14世紀初頭前後の鑄造関係遺物（鏡の鑄型・埴埴・羽口・砥石・銅滓など）が多量に埋まった土壙や井戸などを検出した。第2面では、13世紀初頭前後の土器類が多量に埋まっていたL字形溝、第3面では、流路を検出し、堆積したシルト層から平安時代前期から中期の遺物が出土した。その下は砂礫・砂層からなり、石器や磨滅した古墳時代の須恵器・土器が出土した。

**遺物** 中世の出土遺物の組成・量に関しては、近隣の調査とほぼ同一の傾向を見せており、13世紀前半から14世紀前半がピークをなす。第1面の鑄造関係遺物が多量に出土した土壙94・井戸130の埋土を篩にかけ洗浄したところ、総計2,172点、11,858gの真土・粗型・屏風・火口・砥石・銅滓・鉄滓に選別できた。

**小結** 当地は、第2面の13世紀初頭前後には町屋として開発されたことがわかった。13世紀前半の鏡鑄型が出土した西隣に位置する六町と対照的である。14世紀初頭前後の遺構には、鑄造関係遺物が多く混じるようになることがわかった。

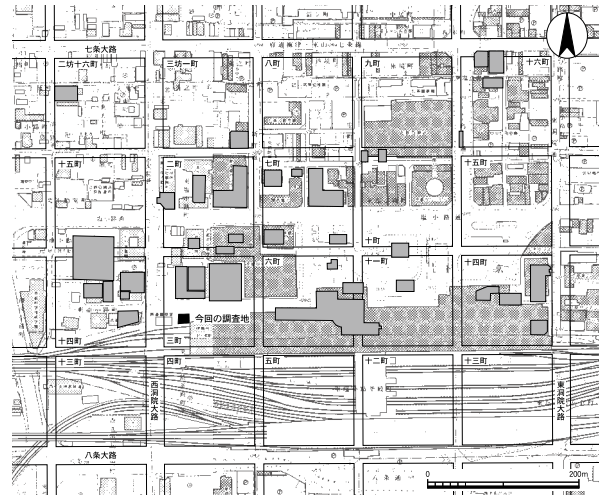


図19 調査位置図

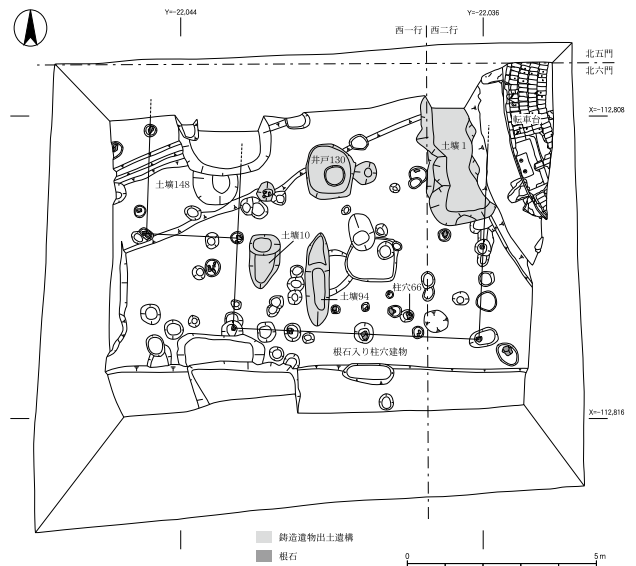


図20 第1面遺構平面図



図21 鏡鑄型

## 8 平安京右京三条二坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-5『平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡』2005.10.27

**経過** 京都市営地下鉄東西線西大路駅出入口の新築・整備事業工事に伴い京都市立西京高等学校（以下、1区と呼ぶ）、および中京区西ノ京桑原町島津製作所（以下、2区と呼ぶ）で調査を実施した。1区は平安京右京三条二坊十五町、2区は平安京右京三条三坊三町にあたる。

**遺構** 1区では平安時代の溝3条を検出した。このうち、溝1は、道祖大路東築地内溝の推定地で検出したもので、幅約1.1m、深さは約0.4mを測る。

2区では平安時代の2条の溝と川を検出した。溝25は、道祖大路西側溝みられる南北溝で、調査区北端で幅1.5m、深さ0.3mある。川29は、幅約6.5m以上で、検出した部分の深さは0.3～0.8mである。溝26は、東西溝で、幅1.0m、深さ約0.5mを測る。三条坊門小路南側溝と考えられる。

**遺物** 平安時代の前期から中期の土器類が主に出土している。溝1（道祖大路東築地内溝）や溝26（三条坊門小路南側溝）の遺物は、9世紀後半～10世紀までにおさまる。川29・溝2からの遺物には、I期新頃の遺物が含まれており、他の溝より古い様相を示している。

溝25（道祖大路西側溝）の遺物は、Ⅲ期古・中に相当し、10世紀前半代につくられた様相を示している。

**小結** 今回の調査地の2区には、道祖大路西築地心推定ラインと三条坊門小路南築地心推定ラインが通り、大路・小路がまじわる所に位置し、1区では、調査地のすぐ西側に道祖大路東築地心推定ラインが通る。調査の結果、1区では溝1（道祖大路東築地内溝）、2区では南北に流れる川29、溝25（道祖大路西側溝）、溝26（三条坊門小路南側溝）などを検出する成果を得た。

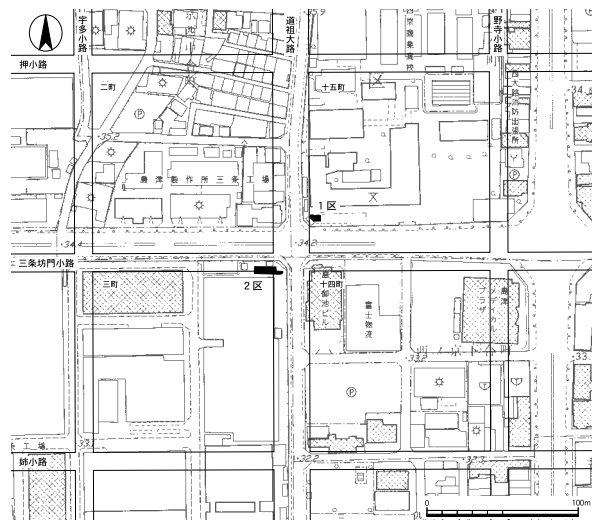


図 22 調査位置図

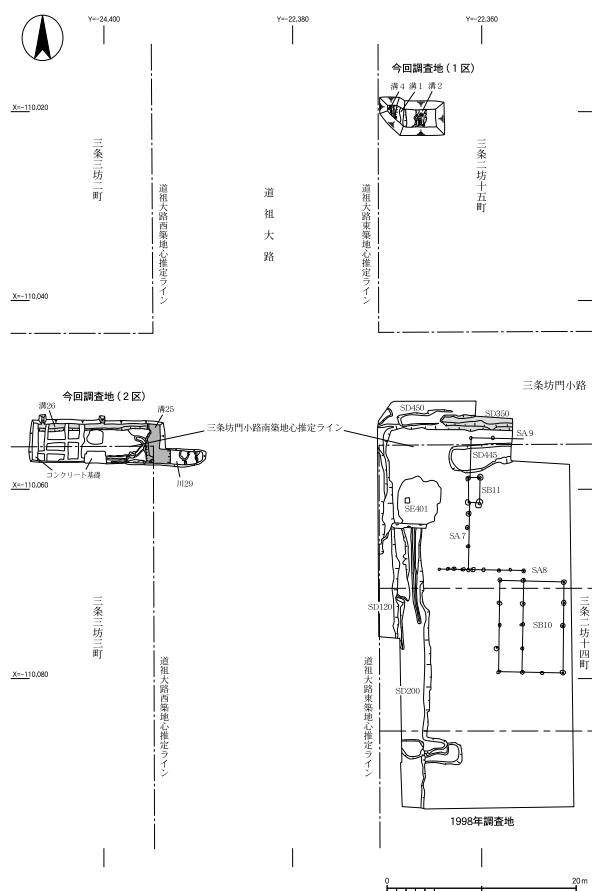


図 23 遺構平面図

## 9 平安京右京二条四坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-13『平安京右京二条四坊十五町跡』2006.3.17

**経過** 太秦安井公園整備事業に伴う発掘調査である。京都市右京ふれあい文化会館の東側に位置し、1997年度の文化会館建設に伴う二条四坊十五町および安井西裏瓦窯跡の調査では、平安時代中期（11世紀代）から室町時代後期（15世紀代）の西京極大路路面、平安時代後期（12世紀前半）の西側溝を検出している。

**遺構** 平安時代の遺構は、西京極大路の東西両側溝と推定される南北方向の溝を検出した。鎌倉・室町時代の遺構は、春日小路路面および南側溝と推定される遺構の他、溝、柱穴、土壇、ピット、落込などを検出した。江戸時代の遺構は溝、土壇、ピットなどを検出した。

**遺物** 平安時代、鎌倉・室町時代、桃山・江戸時代の土器類・瓦類が出土した。西京極大路西側溝と推定した溝1（1-1区）では、土師器（皿）、須恵器（鉢）、瓦器（鉢）、緑釉陶器、焼締陶器（甕）、軒平瓦、丸瓦、平瓦、板状鉄製品、鉄滓などが出土した。

**小結** 西京極大路の確認については、検出規模が狭小であり、残存状況も良好とはいえなかったが、両側溝とみられる南北溝を確認した。また春日小路についても路面および南側溝とみられる東西溝を確認できた。

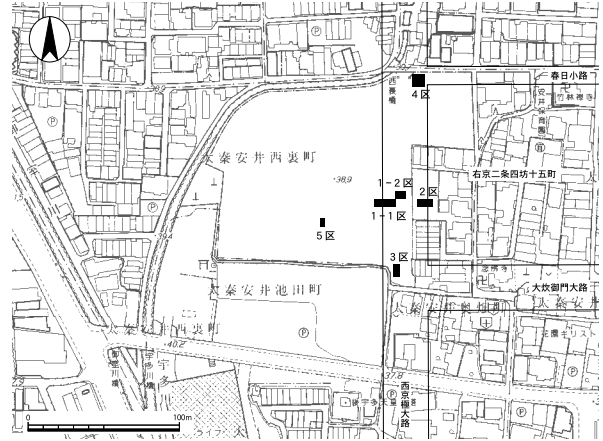


図24 調査位置図

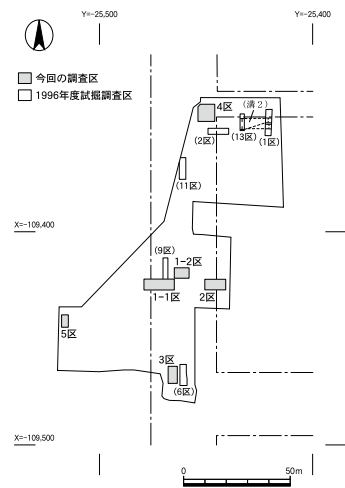


図25 調査区配置図

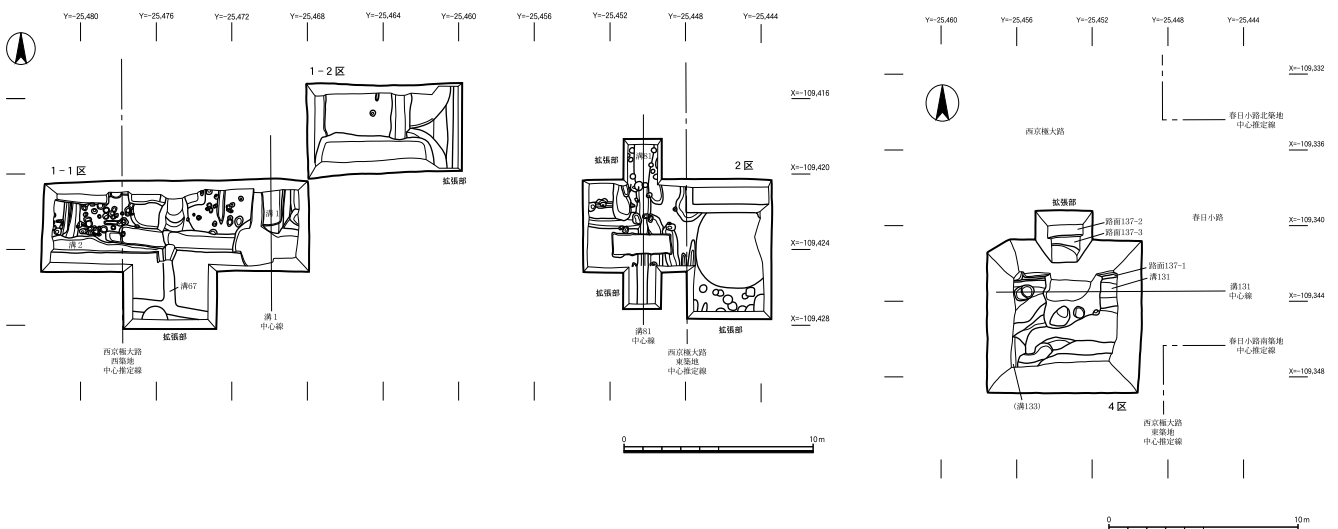


図26 遺構平面図

## 10 平安京右京五条三坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-2『平安京右京五条三坊三町跡』2005. 6.30

**経過** 建物建設に伴う調査である。調査地は平安京右京五条三坊三町にあたり、三町の東半中央部分に位置する。また1町内を区分する「四行八門制」では三町内の「東一・二行、北四・五門」の4戸主分に該当する。鎌倉時代に作成された『拾芥抄』収録の「西京図」によれば、「小泉荘」となっている。

**遺構** 10世紀前半以降に形成された耕作溝を除けば平安時代前期から中期に限定できる掘立柱建物8棟・埋納遺構3箇所・溝3条・柵1列などを検出した。建物1・2・6・7は南北棟、建物3・4・5・8は東西棟の可能性が高い。これらの建物群は、柱痕跡ないし柱根が残存する建物1・5・6・7と、柱が抜き取られたものに大別できる。さらに抜き取り穴があるものは、焼土や赤く変色した壁土で埋め戻した建物4・8と、石・瓦などで埋めた建物2・3に分かれる。調査区中央北側で検出した東西棟建物3・4・5・8は、ほぼ同じ場所に重複して建て替えられていた。建物3・4は東一・二行境、北四・五門境の2本の推定ラインを跨いで建っている。建物5・8は東一・二行境を跨ぎ北四・五門境北側に沿って建っていた。

**遺物** 遺物の大半は溝1～3からの出土で、須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・緑釉陶器・青磁・白磁・瓦などがあり、器種も豊富で供膳形態の土器類を中心に円面硯・風字硯などがある。また建物1の柱抜き取り穴から出土した9世紀初頭の須恵器杯に「口長」・「井」墨書がある。建物4・8の柱抜き取り穴から出土した壁土の上塗り白土に火山灰を用いていたことが明らかとなった。建物4・8の柱抜き取り穴に詰まっていた赤化したサス入りの粘土魂は、始良火山灰を主体とする白土（ガラス質80

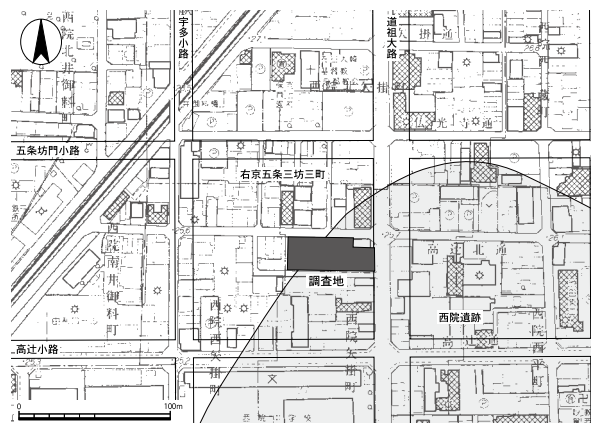


図 27 調査位置図

%) を仕上げに塗った壁土であることが判明した。

**小結** 今回の調査では、平安京造営期から10世紀半ばまでに収まる遺構群を検出し、平安京右京衰退の一端を示す資料となった。宅地班給に関しては、最小区画境界（東一・二行の境・北四・五門の境）を建物3・4・5・8が跨いで建っていることから、少なくとも三町の東半で4分の1町以上の占地とみられる。また、この東一・二行の境は三町東半分の東西中軸ラインとなり、その中軸上に10世紀半ばまでに同位置に少なくとも建物3・4・5・8の4回の建て替えがあることがわかる。

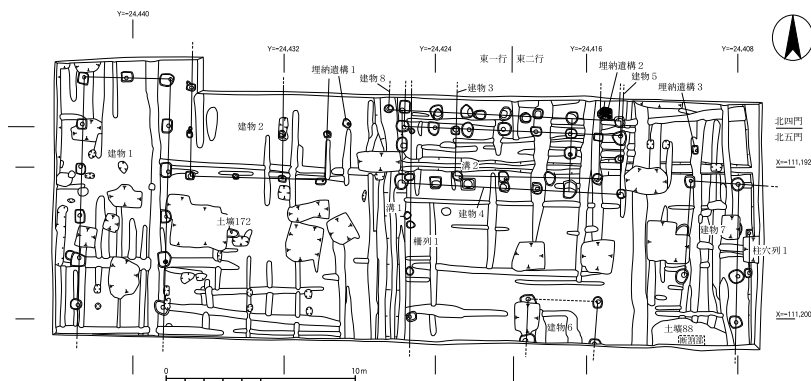


図 28 遺構平面図



## 11 平安京右京七条一坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-12『平安京右京七条一坊九町跡』2006.4.28

**経過** 調査対象地は大阪ガス京都工場跡地の南端付近に位置する。平安京の条坊では右京七条一坊九町の北部とその北を東西に通る六条大路の一部に該当する。

**遺構** 調査区のほぼ全域が、表土下約1.2～1.3mまで大阪ガスおよびその前身の京都瓦斯関連の建物基礎や埋設管掘形による削平を受けており、遺構の残存状況は極めて良くなかった。想定されていた六条大路関連の遺構も、南側溝に該当する位置に近代の東西溝SD02が開削されていたことや、さらにその北側には、この溝に流れ込むような湿地状の堆積(SX06)があり、路面の状況も不明瞭であった。ただ、調査区北西部の一部で小礫を含んだ硬く締まった面を検出しており、これが一時期の六条大路路面(SF05)の整地かと思われる。

**遺物** 遺物の大半がSX06およびSD02から出土した瓦類で土器・陶磁器類はわずかである。瓦類の大半は平瓦・丸瓦だが、軒丸瓦と文字瓦が1点ずつある。

**小結** 調査区の北側に当たる右京六条一坊三町・四町・五町・六町・十一町・十二町・十三町・十四町では、これまでに多数の発掘調査が実施されており、平安時代前

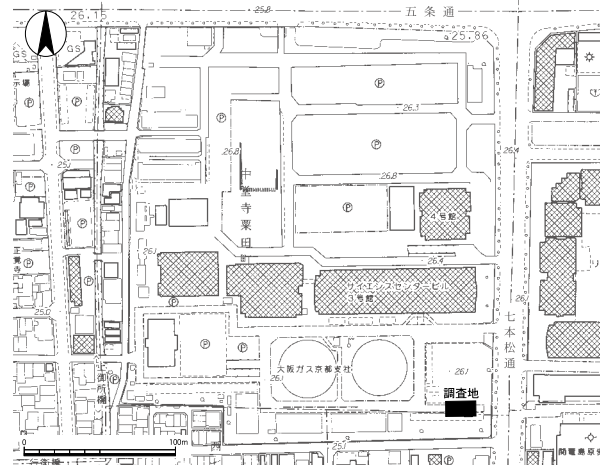


図29 調査位置図

期の条坊遺構や建物、井戸、溝など邸宅に伴う多くの遺構が検出されている。大阪ガス旧京都工場跡地での調査としては第20次にあたる今回の調査では試掘調査の結果から、六条大路の遺構の検出を主目的にしたが、大阪ガス旧京都工場やその前身である京都瓦斯関連の建物基礎や埋設管掘形などのため遺構の残存状況は悪く、中世の路面の一部を検出するに留まった。

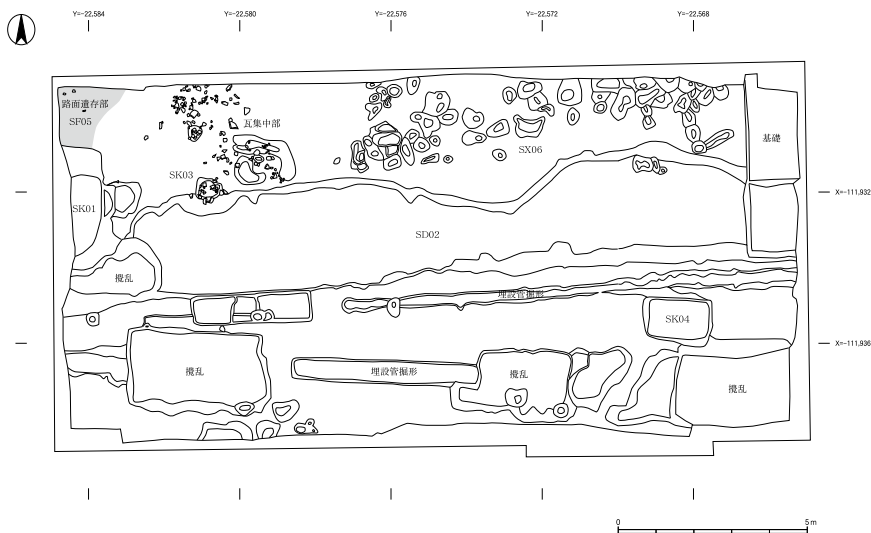


図30 遺構平面図

## 12 平安京右京七条二坊跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-6『平安京右京七条二坊四町（西市）跡』2005.10.31

**経過** この調査は、マンション建設に伴うものである。平安京右京七条二坊四町にあたり、平安京西市「市町」跡に推定されている。西市は、右京七条二坊三町・四町・五町・六町に「市町」、七条一坊十三町・十四町、七条二坊二町・七町・十一町・十二町、八条二坊一町・八町に「外町」があったと推定されており、調査地は「市町」の南東隅にあたる。

**遺構** 18～19世紀（江戸時代中・後期から近代）、17世紀（江戸時代前期）、14世紀後半～16世紀（室町時代）、12世紀後半～14世紀前半（平安時代末期から鎌倉時代）の各時期の遺構に分けられる。出土遺物が乏しく時期を決定できない遺構を除いて、江戸時代の遺構が最も多く、次いで室町時代の遺構が多いが、それ以前の遺構は少ない。江戸時代中期から後期（18～19世紀半ば）に属する遺構には、土壇 25・34・98・99 がある。室町時代（14世紀半ば～16世紀）の主な遺構には、土壇 16、溝 56、土取り穴 84、溝 119、柱穴列 178、その他柱穴群がある。平安時代末期から鎌倉時代（12世紀後半～14世紀前半）の遺構には、土壇 116・152 と、その他柱穴がある。

**遺物** 江戸時代のものが最も多く、時代が遡るにしたがって出土量は少なくなる。種別では、土器・陶磁器が大半を占めるが、瓦や木製品、石製品、金属製品も少量ながら出土している。

**小結** 今回の調査では、直接的に西市と関連付けられる平安時代前期に遡る遺構は検出されなかった。しかし、出土遺物に関して言えば、後世の遺構への混入ではあるが、9世紀代にまで遡る土器や瓦が出土している。

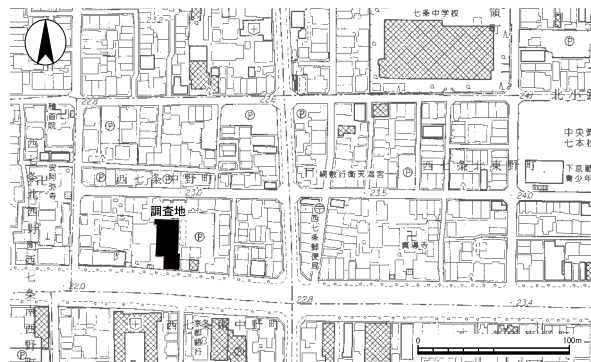


図 31 調査位置図

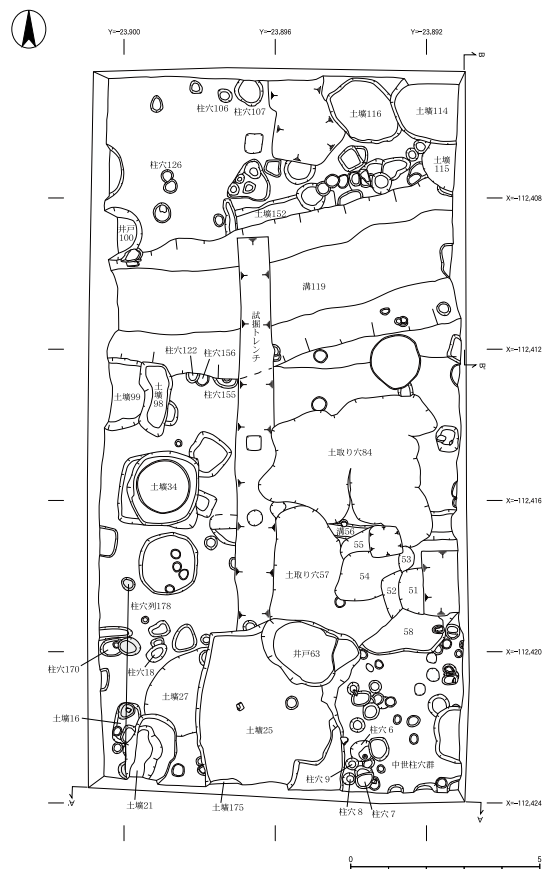


図 32 遺構平面図



図 33 遺構全景（北より）

### 13 北白川廃寺

報告書名：『京都市内遺跡発掘調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006. 3.31

**経過** この発掘調査は、小規模共同住宅新築工事に伴うものである。調査地は、北白川廃寺東方基壇の南西、1980年調査地の南隣にあたり、既に検出している回廊の礎石列や、その基壇の南延長部の確認を目的として実施した。

**遺構** 西面回廊 西面回廊は瓦葺き単廊の礎石建であることが既にわかっている。基壇幅は、明確ではないが、ほぼ7mであることがわかる。回廊の梁間寸法は約3.8m、桁行寸法が約3.2mであることも残存礎石より判明している。今回検出した西面回廊の遺構は、これらに続くもので、基壇および礎石据付穴を2箇所と基壇内溝を検出した。

**南面回廊** 西面回廊から東に折れ曲がる南面回廊と考えられる東西方向の基壇を検出した。基壇幅については、南辺が調査区外にあり不明である。礎石据え付けに関係する明確な遺構は確認できなかった。

**遺物** 瓦類が大半を占め、軒丸瓦は3種8点、軒平瓦は6種21点が出土した。土器類は、7世紀から10世紀頃までのものが出土しているが、7世紀後葉から8世紀前半のものが比較的多い。種類は、ほとんどが土師器と須恵器であるが、灰釉陶器、緑釉陶器と思われるも

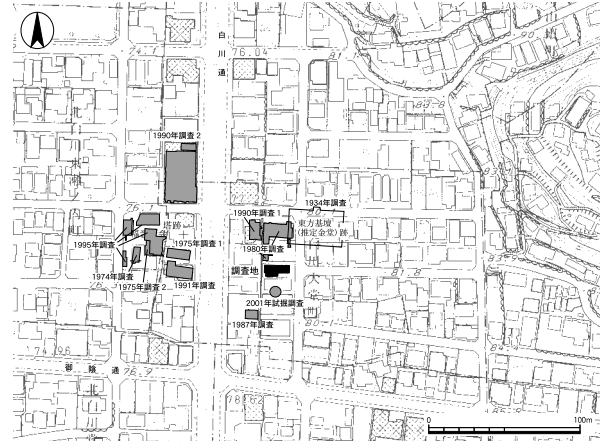


図34 調査位置図

のも数点出土している。

**小結** 今回の調査地北隣、1980年の調査で、東方基壇（金堂）とされた建物基壇の南西部、その西側で版築を施した南北方向の基壇跡を検出した。さらに、1990年の調査では、この基壇跡の西で南北溝を検出したことから、この基壇跡が回廊であることがわかった。今回の調査では、その西面回廊が東に折れ曲がることから、この回廊が東方基壇（金堂）を囲む回廊であることを明らかにすることができた。

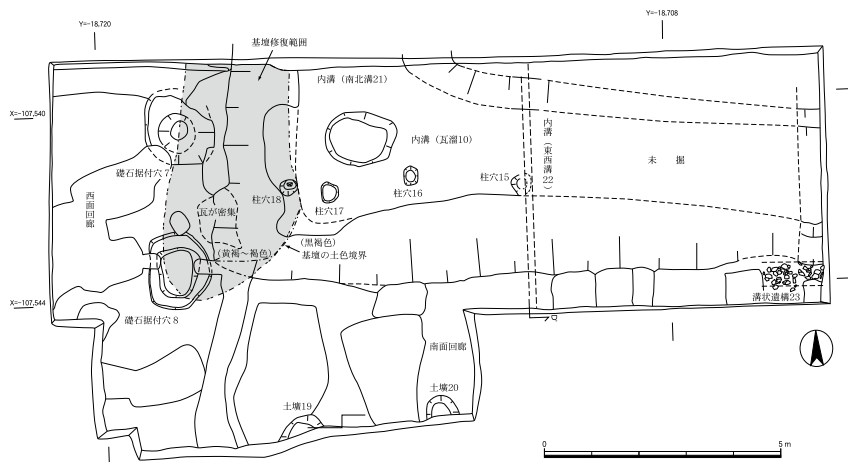


図35 遺構平面図



## 14 史跡賀茂御祖神社境内

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-15 『史跡賀茂御祖神社境内』 2006.3.31

**経過** 調査地は、復元された奈良の小川の南岸中央付近で、泉川の西にあたる。今回の調査は、昨年度調査の結果を受けて、石敷遺構 1 東辺部の確認と石敷遺構 2 の性格・時代・規模を確定することを目的とした。調査区は平成 16 年度調査区の東半分（平成 3 年度調査区南半分を含む）と、この調査区の東側に 2.5 ～ 3.5 m、南側に約 1 m 拡張して設定した。

**遺構** 検出した遺構は、昨年度検出した祭壇状遺構と石敷遺構 1・2 に加え、石敷遺構 2 の立石遺構（下層遺構を含む）、石敷遺構 1 南東上面で石敷遺構 3、石敷遺構 3 礫上面で集石遺構 1～3、石敷遺構 3 の構築面で集石遺構 4～7、石敷遺構 2 の一部を壊して造られた柱穴 1・2、現代の土壌の 15 基である。時期としては、平安時代後期以降江戸時代にかけてのものである。

**遺物** 遺構に伴う遺物は、ほとんど出土していないが、石敷遺構 1 の整地層と考えられる土層から平安時代後期の遺物（土師器片、須恵器片は器種不明）が細片であるが出土している。鎌倉時代から室町時代の丸・平瓦片が少量出土している。時期不明のものに、集石遺構 2 から鉄滓、石敷遺構 3 周辺から鉄釘や器種不明鉄製品がある。その他、特徴的な遺物として、調査区周辺で縄文時代に相当すると考えられる石錘が出土している。

**小結** 石敷遺構と祭壇状遺構は古代祭祀の形態を残し

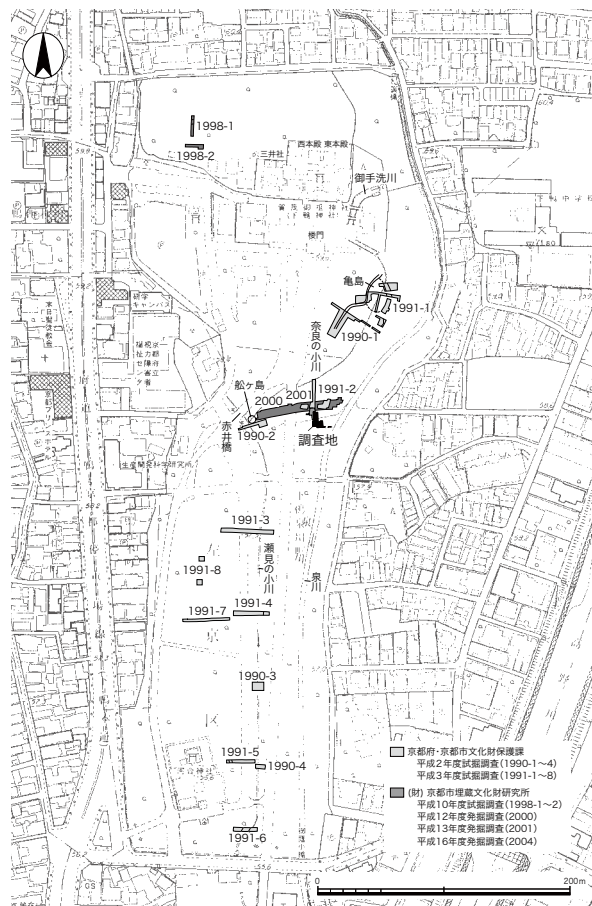


図 36 調査位置図

つつ、神社祭祀として確立し、旧奈良の小川が埋没する江戸時代までの間、使用され続けた遺構と考えられる。集石遺構群の存在は、石敷遺構とは祭祀形態が異なり、小規模な祭祀が行われていたことを示唆する。

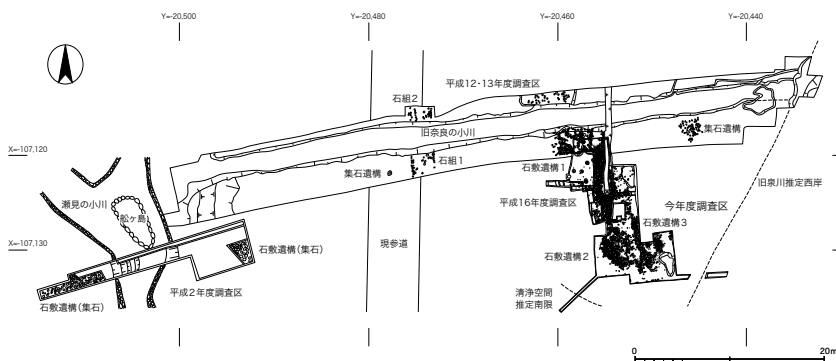


図 37 遺構平面図



図 38 石敷 2 (南より)

15 白河街区跡・岡崎遺跡1

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-4『白河街区跡・岡崎遺跡』2005. 9.30

経過 調査は、京都市東天王町市営住宅新築工事に伴い実施した発掘調査である。平安時代後期に白河殿や六勝寺が造営されたことに伴い、寺院や邸宅として開発された白河街区の一部に該当する。

遺構 1区では、古墳時代後期の土壘、溝、落込み、平安時代後期から鎌倉時代初頭の井戸、土壘、白河街区の南北区画内外溝と推定できる溝、室町時代後期の建物跡、柵、井戸、土壘（土壘619など）、溝、江戸時代後期から近代のカマド、井戸、土壘、区画溝、耕作溝群である。2区では、平安時代以前の

遺構として落込み、溝がある。平安時代後期から鎌倉時代初頭の遺構として井戸、溝、土壘、室町時代後期の遺構として建物、柵、井戸、土壘などがある。江戸時代末から近代の遺構としてカマドがある。

遺物 縄文時代、古墳時代、平安時代から鎌倉時代、室町時代、江戸時代から明治時代の遺物が出土した。大半は土器・瓦類である。

小結 今回の最大の成果は、平安時代後期の白河街区の区画溝と室町時代後期の邸宅跡を検出でき、付近一帯にも街区が広がっていたことを確認できたことである。また、縄文時代の土器やサヌカイト剥片が出土し、岡崎遺跡が縄文時代までさかのぼる可能性がでてきたことがあげられる。

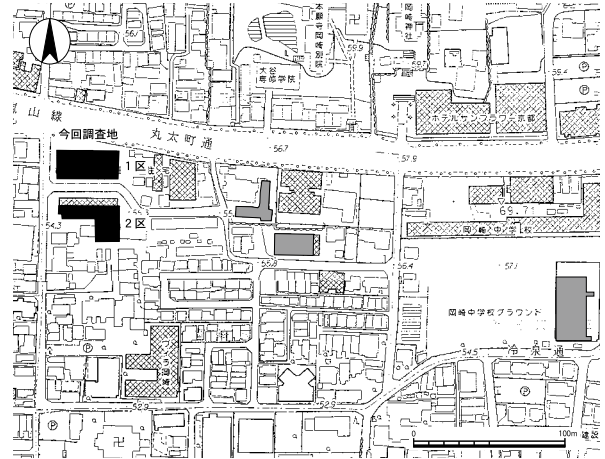


図39 調査位置図

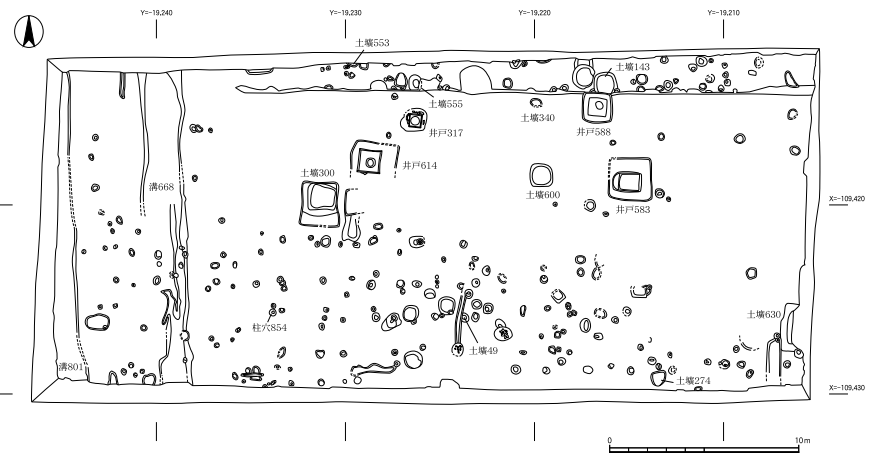


図40 1区平安時代後期～鎌倉時代初頭遺構平面図

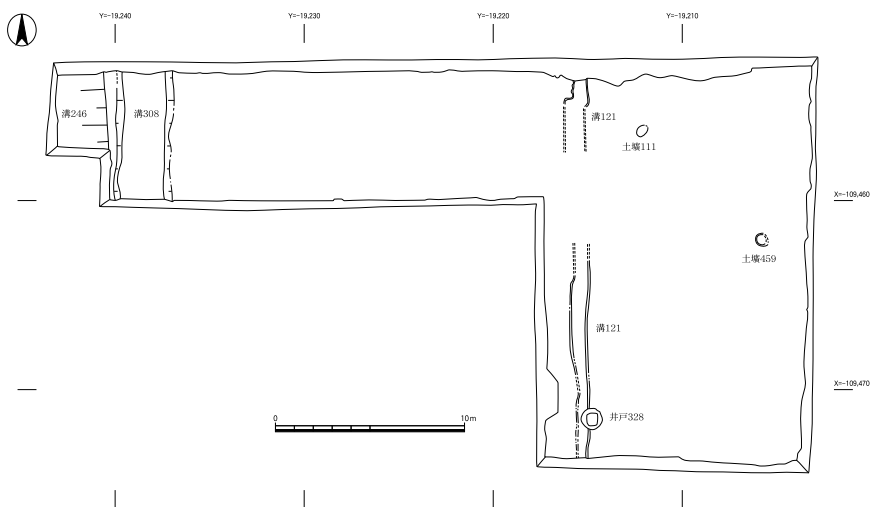


図41 2区平安時代後期～鎌倉時代初頭遺構平面図

## 16 白河街区跡・岡崎遺跡 2

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-9『白河街区跡・岡崎遺跡』2005.12.28

**経過** 調査は、通称岡崎道と呼ばれる南北方向の道路内の配水管の布設工事に伴うもので、旧管部分と新規に布設する部分があったことから、新規部分についてのみ調査を実施することになった。当地は、白河街区跡の法勝寺と最勝寺の間の街路と想定される部分にあたる。全線をA区・B区・C区の3区に区切って行い、さらに各区を2～3箇所に分割して調査を進めた。

**遺構** 検出した遺構は、弥生時代末から古墳時代初頭とみられる土壌1基を検出した以外は、すべて近代のものであった。

**遺物** 弥生時代から古墳時代、平安時代、江戸時代から近代の各時代の遺物が出土した。量的に多いのは、近代の遺物と平安時代の瓦類である。ほとんどの遺物は、古い水道管の埋め土の中より出土した。瓦類もこの中に混入していたもので、近代の遺物と共伴しており原位置を保っていない。ただし、土壌1出土の土器は、混入が認められない良好な一括遺物といえる。

**小結** 今回の調査は、全トレンチの中央部を古い水道管が貫き遺構面を破壊していたため、限られた部分の調査になってしまった。その結果、六勝寺に関する遺構は残っていないが、岡崎遺跡の遺構を検出し、江戸

時代の土地利用についての知見を得ることができた。また、六勝寺関係の多数の瓦類を採集できたことは、周辺に遺構が存在する事を示唆していると言えよう。

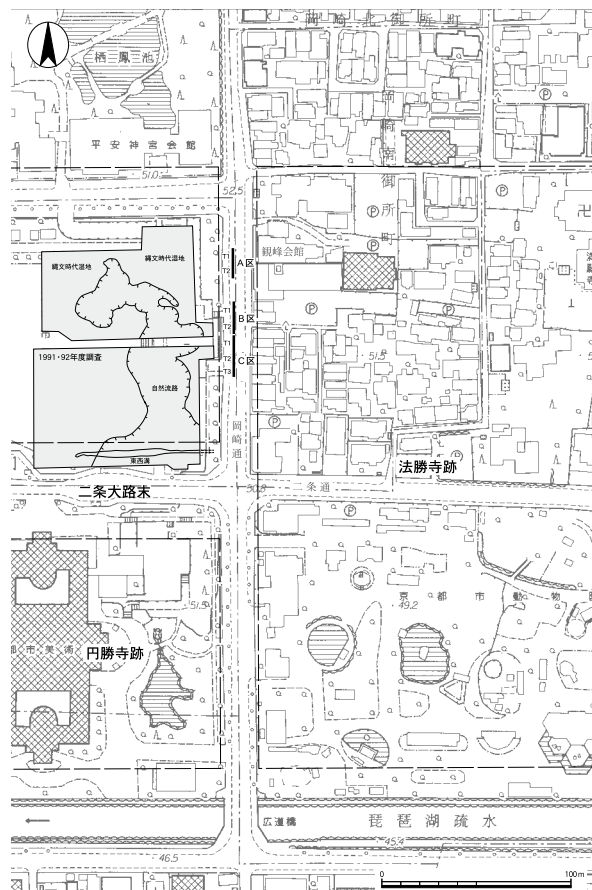


図 42 調査位置図



図 43 A-T1 区 (北より) 図 44 B-T1 区 (北より) 図 45 C-T1 区 (北より)



## 17 上京遺跡

報告書名：『京都市内遺跡発掘調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006. 3.31

**経過** 本調査は、上京遺跡内に位置する個人住宅の新築工事に伴う発掘調査である。調査地点は、寺之内通の北方約130m、小川通に西面する裏千家今日庵の敷地内北西部に位置する。上京遺跡は、平安京の北辺に隣接する中世の都市遺跡であり、上御霊前通以南、烏丸通以西、一条通以北、智恵光院通以東を境として、約1km四方に広がる遺跡である。

**遺構** 調査前段階では周辺の調査成果から中世の遺構が多数を占めると予想されたが、今回の調査では中世よりも近世の遺構が多数を占めた。室町時代の遺構はいずれも後期に属すると推定される溝1条、井戸1基、土塋4基、ピット群などを検出した。江戸時代の遺構は石室1基、石組1基、埋納遺構2基、井戸4基、土塋、柱穴、ピットなどを検出した。室町時代の主な遺構としては、溝9、井戸27、土塋5・45・47を検出した。江戸時代の主な遺構としては、石組43、石室6、埋納遺構7・12、井戸24・38、柱穴21を検出した。

**遺物** 今回出土した遺物は、室町時代後期、桃山時代、江戸時代のものであるが、江戸時代のもものが大半を占める。土器類、瓦類、金属製品、石造品などがある。

**小結** 南北溝9は、断面逆台形状を呈し、幅1.2m、深さ0.7mの溝で、敷地境界などを示す区画溝であろう。時期は土師器皿の編年型式から16世紀初頭から中頃と

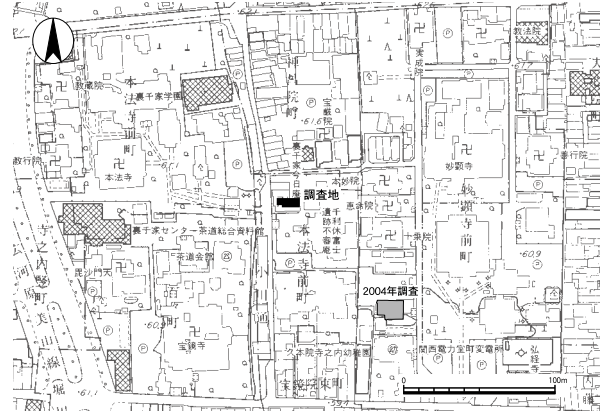


図46 調査位置図



図47 全景（西より）

位置付けられる。この溝は、柳原御所の西限を画する溝であると推定され、現小川通および小川の各幅員を考慮すると室町時代の油小路東側溝である可能性が高いといえる。

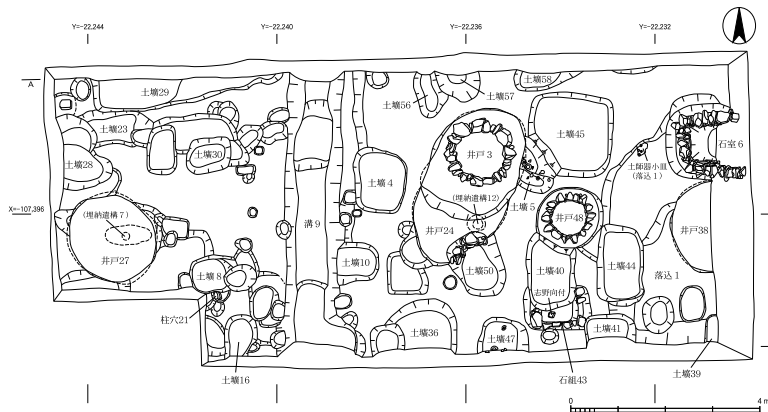


図48 遺構平面図

## 18 特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2007-17『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園』2006. 3.31

**経過** 特別史跡・特別名勝鹿苑寺（金閣寺）庭園内の鹿苑寺方丈の解体修理に伴う調査である。調査の主要な目的は、1、方丈の規模とその変遷を調べる、2、下層の室町時代の北山殿、鎌倉時代の北山第、さらに平安時代の遺構が想定されるので、これらの遺構の確認と記録を行うことであった。なお、調査では現在据え付けられている礎石および束石については、可能な限り移動を避け、必要最小限の調査区の設定を行った。

**遺構** 調査では、方丈解体後の現基壇上の四半敷範囲内の面を第1面とした。この面には、多くの礎石や礎石（束石）抜き取り穴が遺存している。厚さが約0.6mある延宝期整地層下の第2面では、江戸時代初期（慶長期）の建物基壇と礎石などがある。その下層の第3面では、室町時代後期の基壇と礎石などを検出し、さらに第4面では、室町時代中期の基壇と礎石などを検出した。

**遺物** 土器・瓦類が大部分を占め、他の遺物は少ない。調査では第1面から第4面のそれぞれの段階で遺物を採集したが、3面および4面は部分的な小面積の掘下げにとどめたことから出土遺物は少量となった。

**小結** 今回の調査から、現在の方丈基壇下の土層堆積状況は、延宝期・慶長期（以上、江戸時代）・室町時代後期・同中期の整地層がほぼ水平に広がりを見せており、各時代の遺構が良好な状態で遺存していることがわかった。調査の成果としては、現在の方丈基壇面の成立時期が判明したことや、江戸時代初期の前身方丈跡の検出、さらに、その下層から室町時代の2時期の礎石建物跡を検出したことなどがある。

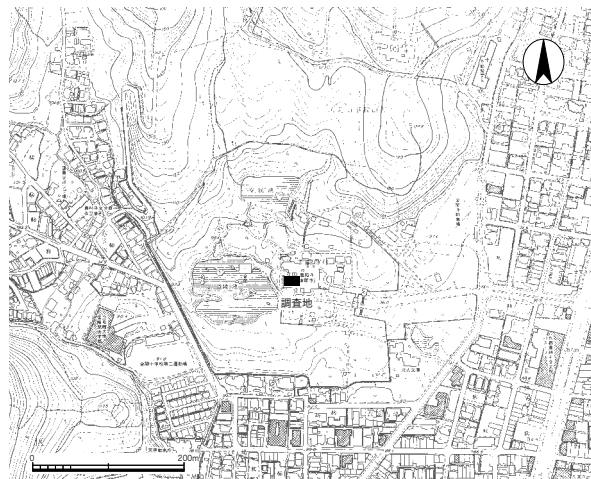


図 49 調査位置図



図 50 第2面全景（南東より）

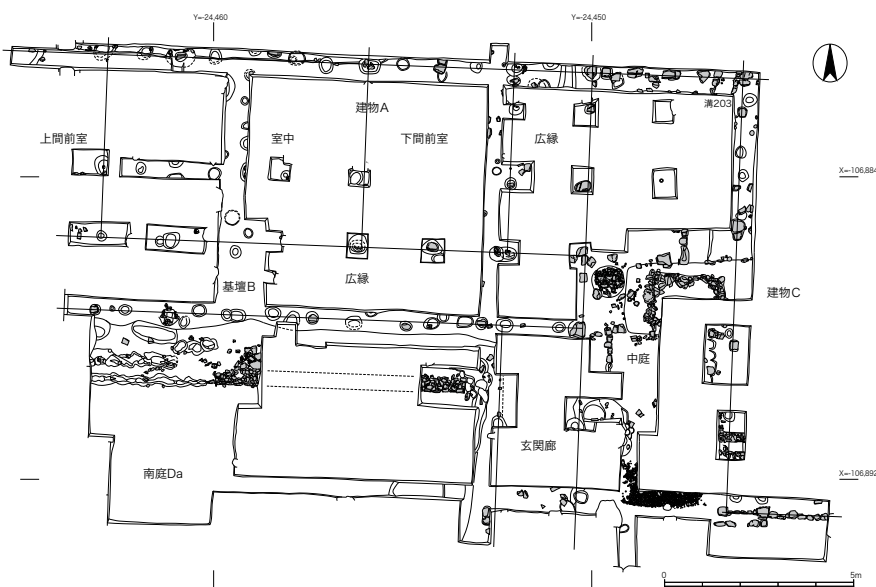


図 51 第2面遺構平面図

## 19 上里北ノ町遺跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-11 『上里北ノ町遺跡』 2006. 1.31

**経過** 今回の発掘調査は、都市計画道路中山石見線の道路新設工事に先立って、当研究所が実施した調査である。当地は、古墳時代から室町時代の散布地である上里北ノ町遺跡にあっていることから、遺跡の状況を明らかにすることに主眼をおいた。上里北ノ町遺跡は、西山丘陵の東にあり、洛西ニュータウンの南側、小畑川とその支流の善峰川の合流する西方に位置する。調査地は丘陵の裾部と小畑川の段丘が接するところであり、南西から北東に向かって緩やかに下がる。

**遺構** 調査の結果、遺構は無く、地山面で竹林の客土とするための土採取穴とみられる落ち込みを数箇所検出した。地山面は、調査地南西端で標高 53.30 m、北東端では標高 52.50 mで、南西から北東へゆるやかに下がる緩斜面であるが、調査地南西部で東へ下がる大きな段差がある。この段差は、もともとの斜面を竹林の手入れの際に削ったものと考えられる。

**遺物** 平安時代から江戸時代の土師器・須恵器・瓦器・瓦などが出土した。いずれも小片であった。

**小結** 調査では、丘陵斜面を開削した段差と、竹林の客土として利用したとみられる土採取の落ち込みと、竹林の手入れの結果できたと思われる近世の遺物包含層を検出したに留まり、他の時代の遺構は検出できなかった。今回の調査で遺構が検出できなかったのは、もともと斜面であるため、竹林として土地利用されるに留まったと考えられる。

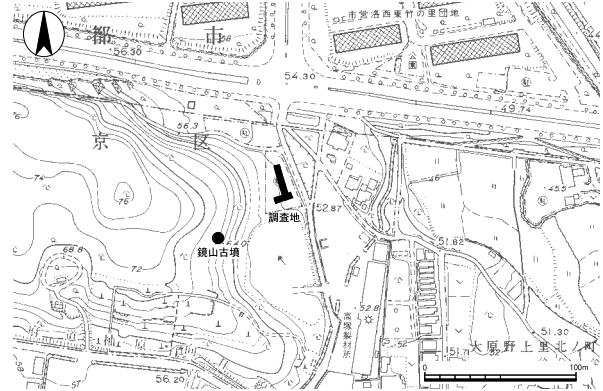


図52 調査位置図

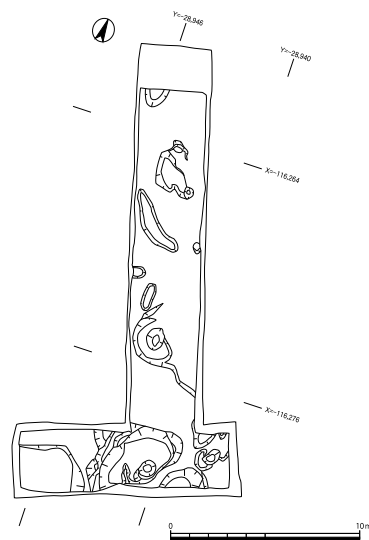


図53 遺構平面図



図54 調査区全景（北より）



## 20 山科本願寺跡 1

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-3 『山科本願寺跡』 2005. 7. 29

**経過** 調査は、ビル新築工事に伴うもので、山科本願寺跡関連では、12次調査となる。調査地は、国道1号線の北側に位置しており、山科本願寺跡の西辺にあたる。光照寺に残る「野村本願寺古御屋敷之図」などの古絵図をもとにした復元図によると、「御本寺」を囲う南北方向の土塁の東側斜面に該当すると推測された。なお、この南北方向の土塁は調査地の北側で東に折れ東西方向に向きを変える。この東西方向の土塁は一部が現在も残存している。

**遺構** 山科本願寺跡に伴う土塁の一部、石組み溝、石組み溝から土塁下を抜ける石組み暗渠の一部を検出した。南北方向の石組み溝4の幅は側石を含めて約1m、内法では約0.4m、深さは約0.3mである。暗渠5は検出した範囲では南側の側石と底石は全て抜き取られており、北側側石の一部が残存するのみであった。側石は直径25～30cmの扁平な石を4段以上積み上げている。残存する溝の幅は約1m、深さは約0.7mである。

**遺物** 室町時代の土師器・瓦質土器・施釉陶器・輸入陶磁器・鉄釘・鉄滓・茶臼などが出土した。

**小結** 隣接する11・13次の調査成果とともに復元すると、土塁に関しては、今回検出した石組み溝4を内側の裾とした場合、土塁基底部の幅は約13.5m、西側（堀側）の傾斜角度は約35度、東側（内側）の傾斜角度は約20～25度である。上部は削平されており、高さは不明であるが、北側に残存する土塁の高さから復元すると、堀側の基底部からの高さ約7m、内側の基底部からの高さは約5.7mとなる。北側の土塁も削平されていることから、本来はそれ以上の高さがあったと推測される。暗渠に関しては、13次調査B区と合わせての検出長は約9.5m、底石を南北に2石並べて敷き、側石は4～5段積み、天井石は2～3石を組み合わせて積んでいる。内法で幅約40cm、高さ60cmである。

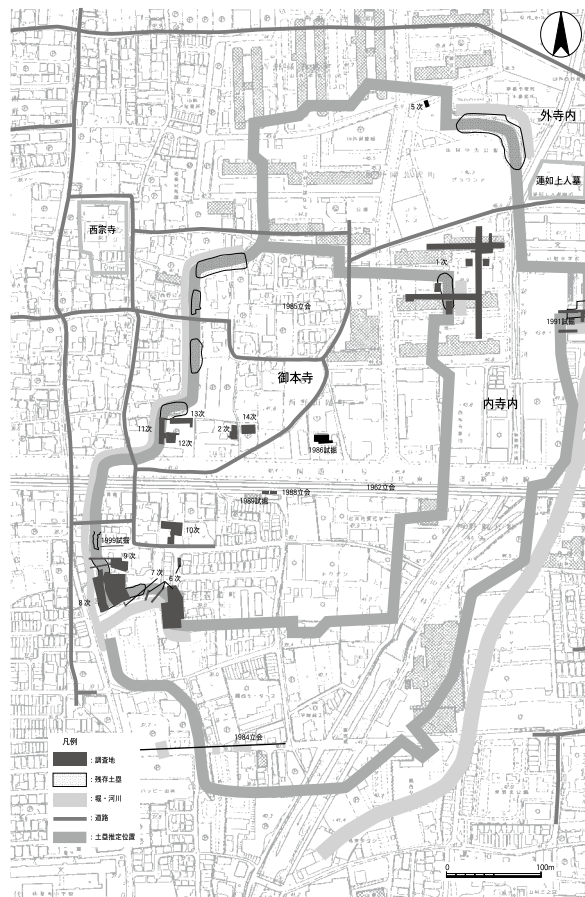


図 55 調査位置図

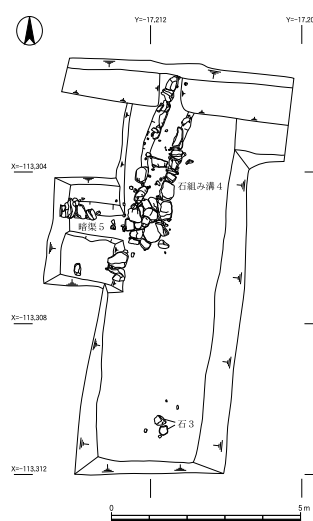


図 56 遺構平面図



## 21 山科本願寺跡 2

報告書名：『京都市内遺跡発掘調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006. 3.31

**経過** この調査は、駐車機械設置に伴い実施したものである。山科本願寺跡関連では13次調査となる。調査区は、屈曲する土塁のコーナー部および東西方向の土塁の内側裾を検出することを目的としたA区と、11次調査で検出された暗渠の出口部分を確認するためのB区の2箇所を設定した。

**遺構** 土塁2・土塙3・炉跡4・土取り穴群5・泉状遺構6・排水溝8の各遺構を検出した。また、泉状遺構6内部に土器集中部7が認められた。これらの遺構は、それぞれの切り合い関係や断面の堆積状況の検討、遺構の性格などから2時期に分かれると考えられる。すなわち、土塁2が築かれ、炉跡4・土取り穴群5・土塙3が存在した時期と、これらの遺構を埋めてさらに整地し直し、泉状遺構6・排水溝8を作った時期である。

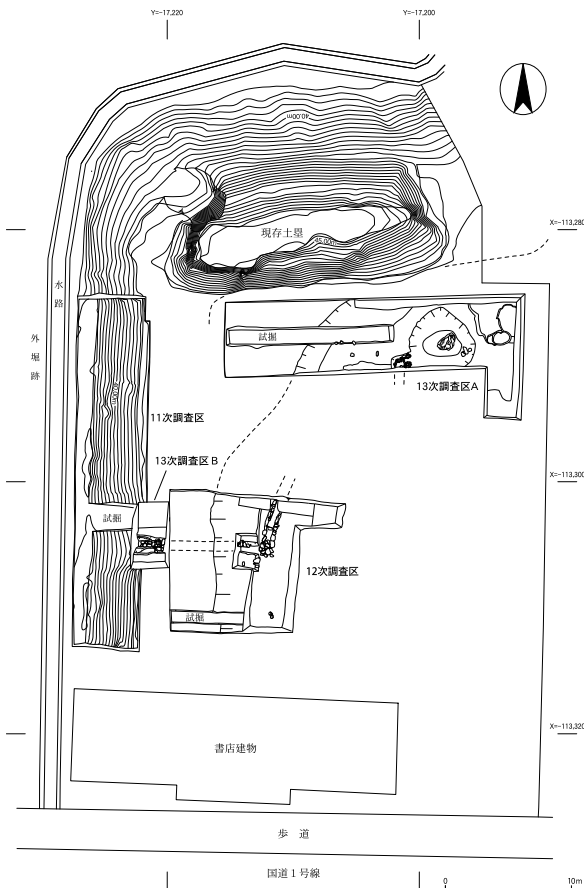


図57 11～13次調査区配置図

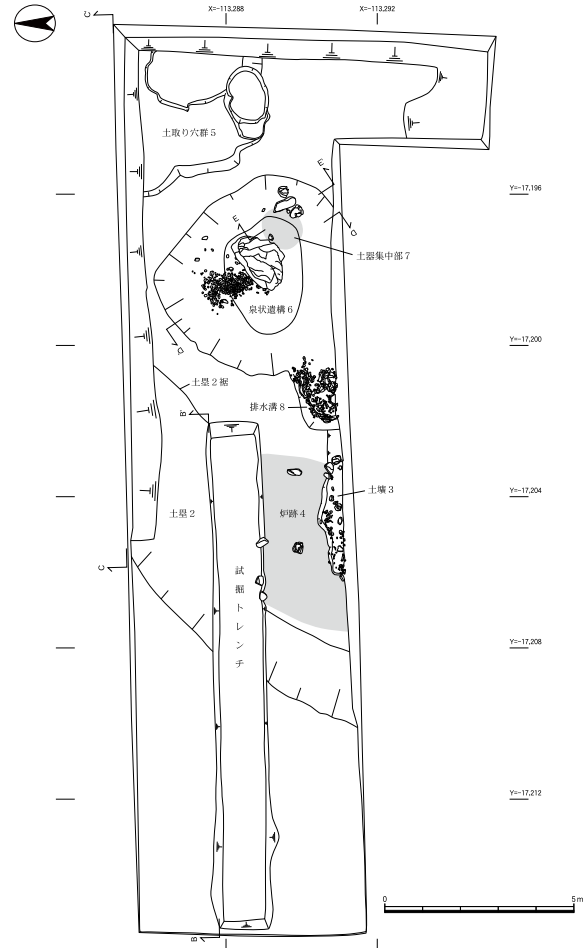


図58 遺構平面図

**遺物** 室町時代の土師器・瓦質土器・施釉陶器・輸入陶磁器・鉄釘・鉄滓・道具瓦・壁土などが出土した。

**小結** 泉状遺構6と排水溝8は、位置関係から12次調査で検出された石組み溝に続く可能性が高く、最終的には今回B区で検出した暗渠から土塁の外堀に排水される仕組みになっていたと考えられる。また、泉状遺構6の内部には巨大な景石が据えられるなど、これら一連の遺構は、景観を意識して作られた園池の一部であると考えられる。

## 22 山科本願寺跡 3

報告書名：『京都市内遺跡発掘調査報告 平成 17 年度』京都市文化市民局 2006. 3.31

**経過** この調査は、共同住宅建設に伴い実施したもので、山科本願寺跡関連では 14 次調査となる。調査地は、国道 1 号線の北側に位置し、「御本寺」の中心部分にあたる（図 55）。当調査地の西に隣接する敷地では、1974 年に山科本願寺跡寺内町調査団によって発掘調査が行われ、石室や石組み溝、柱穴などの遺構が出土している。

**遺構** 近世の整地層下で広い範囲に焼土層が認められた。厚いところでは 5 cm 以上堆積しており、15～16 世紀代の輸入陶磁器が大量に含まれる。また二次被熱を受けたものが多いことから、1532 年の山科本願寺焼き討ちに伴う焼土層と考えられる。この焼土を除去し遺構面を検出した。調査区東寄りで見出した南北方向の柱列 180 を境にして、それより西側の遺構は、柱列や井戸、溝や池からなる庭園遺構など、何らかの建物とそれに付随するものと考えられるが、東側は焼成土壌 1 や土壌 3 が単独で存在しており、遺構の性格に違いがみられる。

**遺物** 焼き討ちに伴うと想定される焼土層や、焼土層で埋まる遺構からは大量の輸入陶磁器が出土した。また土壌 3 からはガラス玉などが出土したため、埋土を全て水洗篩別作業を行った。その結果、大量の玉類、彫漆や金蒔絵等の漆器片、金銅製品などの特殊遺物を抽出することができた。

**小結** 調査地は「御本寺」の中心部に位置すること、輸入陶磁器類の出土比率の高さ、ガラス玉、漆芸品とい

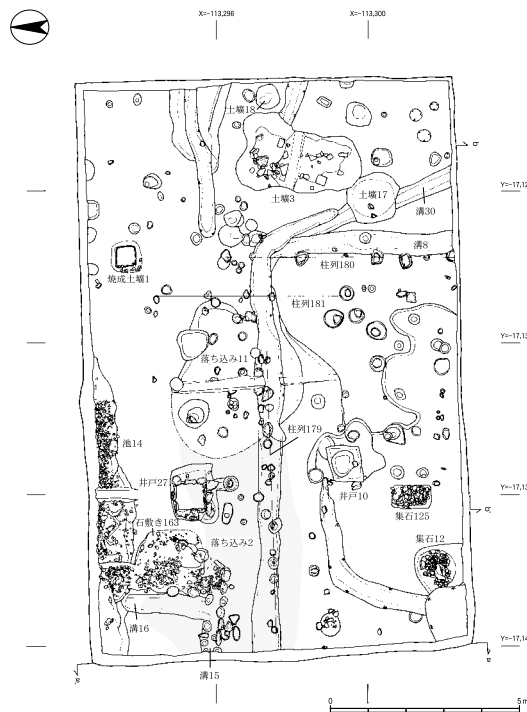


図 59 遺構平面図

った出土遺物の特異性から考慮して、重要な建物あるいは、施設が存在した可能性が高い。このような建物の性格に関しては櫻井敏雄氏の研究に詳しい。それによれば、仏事と遊興を行う、公的と私的な 2 つの側面があり、將軍家や禅宗寺院における会所的役割をもつ建物であるとされる。庭や会所飾りに相当する青磁などの輸入陶磁器類や硯、漆器、茶事を行う茶道具などの出土からみて、この建物は、「御亭」に関連する施設である可能性を考えておきたい。



図 60 玉類



図 61 多彩磁器



図 62 青磁

23 中臣遺跡

報告書名：京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-1 『中臣遺跡』 2005. 6. 30

**経過** 本調査は、都市計画道路改築工事に伴う発掘調査である。調査地は、新十条通と府道勤修寺今熊野線交差点に区切られた御陵六地藏線道路で、中臣遺跡 82 次調査となる。勤修小学校正門前から府道勤修寺今熊野線交差点までの南半部の調査は平成 10 年度に実施し、同小学校正門前から新十条通間の北半部は、平成 11 年から 12 年にかけて対象地の大部分を実施した。

**遺構** 調査区北側で柱穴 2・3・6・17 で構成される掘立柱建物、調査区西端では溝 1 を検出した。掘立柱建物は、桁行 1 間 (1.2m) 以上、梁間 1 間 (2.7m) で座標北に対して東へ若干振れる。柱穴 17 付近で平安時代中期の土器が出土しており、同時期の建物の可能性が高い。4 個の柱穴は、掘形が径約 50～70cm、深さ約

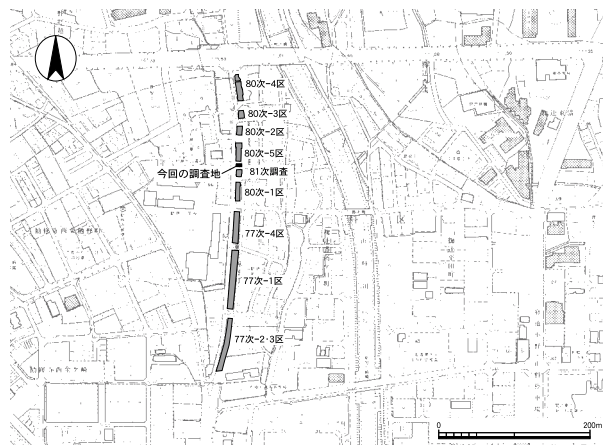


図 63 調査位置図

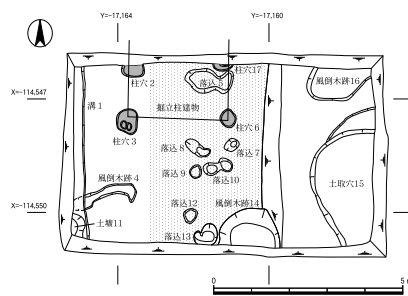


図 65 遺構平面図

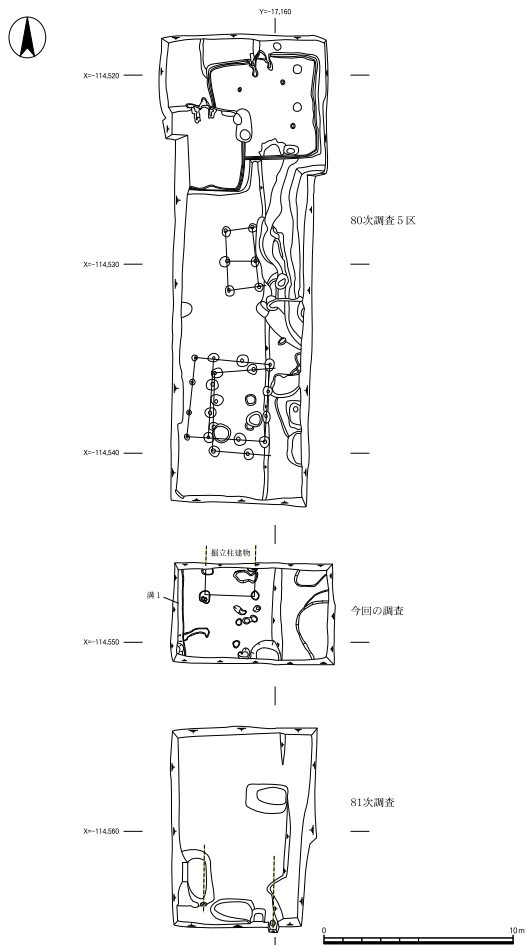


図 64 調査区配置図

4～20cmの不定形を呈する。柱痕跡は柱穴 3・6・17 で検出し、径約 10～24cm、深さ約 8～20cmある。

**遺物** 6～7世紀の遺物は、土取穴 15 から出土した土師器長胴甕と須恵器甕がある。平安時代の遺物は、柱穴 17 周辺から出土した土師器皿、調査区西側の遺構検出中に出土した黒色土器碗がある。

**小結** 今回の調査で検出した掘立柱建物は、80・81次調査で検出している掘立柱建物群と同方位の振れをもつことから、同時期のものであると考えられる。今回、平安時代中期の土器類が出土したことにより、80・81次調査終了時には時期不明とされていた掘立柱建物群の成立年代が平安時代である可能性が強まった。

## 24 特別史跡・特別名勝 醍醐寺三宝院庭園

**経過** 特別史跡・特別名勝醍醐寺三宝院庭園の庭園修復事業に伴う試掘・立会調査である。平成 14 年度から調査を開始し、今年は 4 年度目になる。今年度は、昨年度の調査で検出した旧排水施設の木樋東端と西端の確認と、旧排水管の位置確認を目的として、現排水溝の東・西端に調査区を設定して試掘調査を行った。同時に、今年度の護岸修復工事による天端石再設置と下部工の行われる南岸の立会調査を行った。

**遺構** 今年度の主な調査成果としては、以下のことがわかった。

- ・木樋西端は水門直下に位置し、土管に継ぎ替えられている。
- ・木樋東端は階段状積み石西端直下で、垂直に切り落とされた後、板で蓋がされていた。
- ・旧排水溝西端は、何度も改修が行われていた。
- ・南岸景石の修復時の裏込めには、瓦片が多用された時期があった。
- ・南岸景石の一部には、江戸期の修復状態を留めているものがある。

**遺物** 出土した遺物は、土師器皿細片と瓦片がその大部分を占める。土師器皿細片は時期不明なものが多く、瓦片は江戸時代の棧瓦が南岸の天端石と陸部の上に裏込めとして使用されていたため大量に出土している。南岸出土の遺物の中で、層に対応していると考えられる遺物は、裏込めとして使用されていた棧瓦と肥前磁器碗、土師器皿である。その他の遺物は、堆積土や修

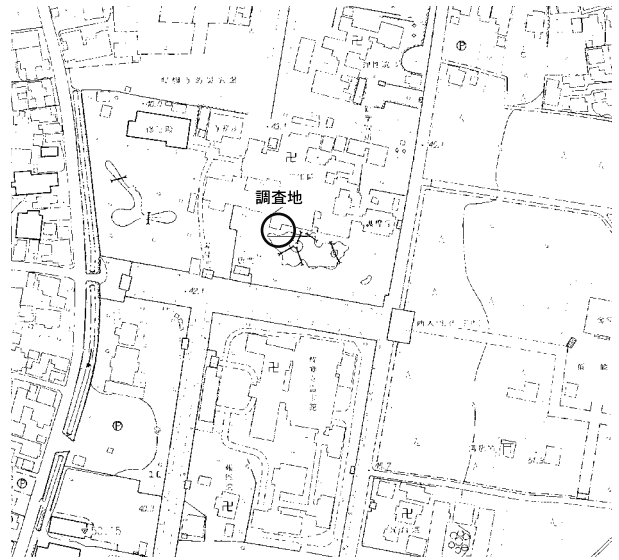


図 66 調査位置図

復時の埋め戻し土に混入したものと考えられる。

**小結** 今年度は、藤戸石前の南岸と昨年度の調査を受けて木樋周辺の調査を行った。南岸では東と西で大きく層位が違ってくるのが分かり、木樋東側の断割では改修された痕跡を確認した。(近藤 奈央)

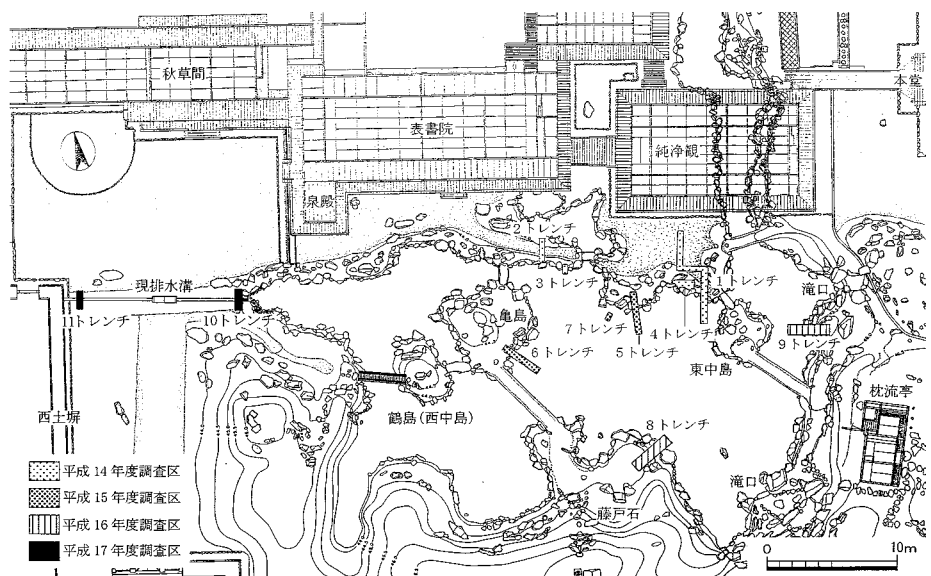


図 67 トレンチ配置図

## Ⅱ 平成17年度の試掘・立会・確認・ 分布調査の概要

平成17年度に実施した試掘・立会・確認調査は、表1に示した10件である。このうち、京都市内遺跡を対象とした立会調査の報告については、多数の件数におよび、別途報告書が発刊されておりそちらを参照いただきたい。10件のうち、6件の報告を本書で掲載した。

今年度の特徴は、現存する庭園に関する試掘調査や確認調査が実施されたことである。このうち、「Ⅱ-1

旧閑院宮邸跡」の調査は、宮邸の池の整備に伴うもので、調査成果をもとに復元整備され、現在一般公開されている。近世の作庭になるが古式ただよう洲浜や中島で構成されていたことがわかった。同じく、「Ⅱ-4 名勝知恩院方丈庭園」、「Ⅱ-5 史跡高台寺庭園」でも庭園の調査を実施し、多くの知見を得ることができた。

「Ⅱ-2 右京区京北遺跡分布調査」は、京北町合併に伴う遺跡台帳作成のための分布調査を実施したものである。新たに確認した遺跡も加わることとなった。



## 1 旧閑院宮邸跡

**経過** 旧閑院宮邸跡庭園整備事業に伴う埋蔵文化財調査である。調査地は、京都市上京区京都御苑の南西角に位置し、江戸時代中期から明治時代初頭にかけて閑院宮邸が所在したところである。平安京の条坊では、左京二条三坊十六町に該当し、平安時代末期には関白藤原基房の邸宅「松殿」があったとされる。また、縄文時代から飛鳥時代にかけての集落遺跡である烏丸丸太町遺跡の範囲にも含まれる。

京都御苑保存協会事務所として使用されていた木造建物をコンクリート造りの現保存協会事務所の南に広がる庭園は、江戸時代中期に新設された閑院宮邸の庭園遺構と考えられている。しかしながら、その成立と変遷についての詳細は、絵図や地図などでわずかに確認できる程度であり、規模や意匠などについては不明なことが多い。

平成 16 年度の試掘調査では、8 箇所の調査区を設けて、汀の旧状、築山の状態、景石の据え付け状況などの調査を行った。その結果、現状の池の下に意匠のまったく異なる池（旧池）が存在していたことが判明した。旧池は北岸が礫敷き、南岸が粘土上に礫を貼り付けた洲浜状になり、現状と同様の位置に中島が配されていた。旧池の作庭時期は、18 世紀中頃と考えられ、19 世紀前半には荒廃が進み、幕末にはほぼ埋没していたと考えられる。現状の池が掘削されるのは、近現代であったことがわかった。なお、鍵層となる江戸時代の火災層や火災処理土（閑院宮は 1788 年と 1864 年に被災）は、すべての調査区で検出することができなかった。

今回の調査は、平成 16 年度の調査で、洲浜状遺構を南岸でしか確認しておらず、保存復元整備の資料とするには形状的に無理が生じたため、北岸の旧状を確認することを目的として行った。北岸の陸部に 4 箇所の調査区を設定した。また、整備を行うに際して、池の堆積土を取り除いたところ、池底南東部に旧池が良好に残存していることが判明し、この部分の調査を実施した。

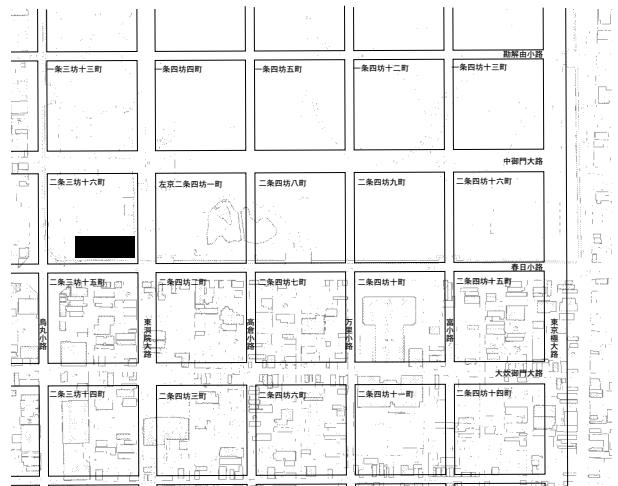


図 68 調査位置図

**遺構** 遺構は、現状の池と旧池、今回新たに検出した井戸状遺構がある。現状の池には調査区を 4 箇所、旧池の洲浜には 2 箇所の断割を入れた。以下、個別に概要を述べる。

### 1. 現池北岸の調査（図 69・70）

#### ① 9 トレンチ

池の北西部に設定した調査区である。陸部と池底の比高差は、約 1.6 m であった。層序は、植栽の根を多く含む黒褐色粘質土、暗灰黄色粘質土、植栽の根を多く含むオリーブ黒色粘土混礫、焼土塊と炭化物を少量含む暗褐色粘質土、池底である灰黄褐色粘質土、灰色粘土混粗砂礫である。調査区北側の表土下約 0.4 m のところで、花崗岩が風化した緑石状のものを検出した。1～3 層目までは、昭和に入ってから盛土と考えられ、池造営当初の北岸は 4 層目の可能性が高い。

#### ② 10 トレンチ

旧管理事務所南西角近くの池北岸に設定した。陸部と池底の標高差は、1.6 m である。層序は、植栽の根を多く含む暗灰黄色粘質土、池底近くで植栽の根を多く含むオリーブ黒色粘質土、黒褐色粘質土、炭化物を多く含む焼土塊と土師器片を少量含む灰色粘質土混微砂、焼土塊と炭化物を少量含む暗褐色粘質土、炭化物と土師器片を多く含む黒色粘土混礫、地山である黒褐色粘質土である。1～3 層は昭和の盛土、4 層は池が造られた後に北



岸を削平した土、5層は池当初の北岸と考えられる。6層は、堆積土層であることや、東西方向の溝状遺構になること、出土遺物などから平安時代後期の溝になる可能

性が高い。

③ 11 トレンチ (図3)

池北岸中央にあった階段全域を掘り下げた。調査区範

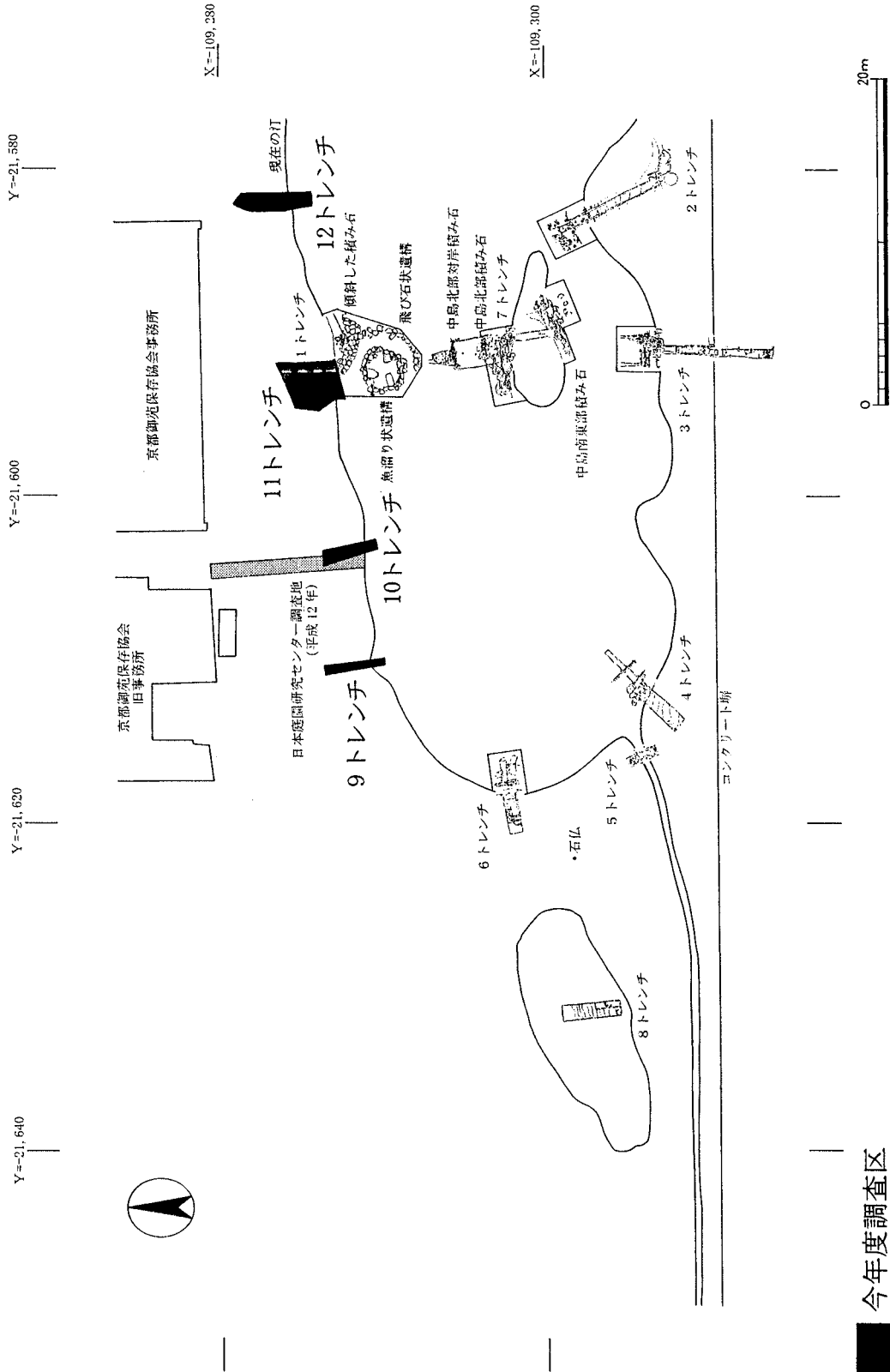
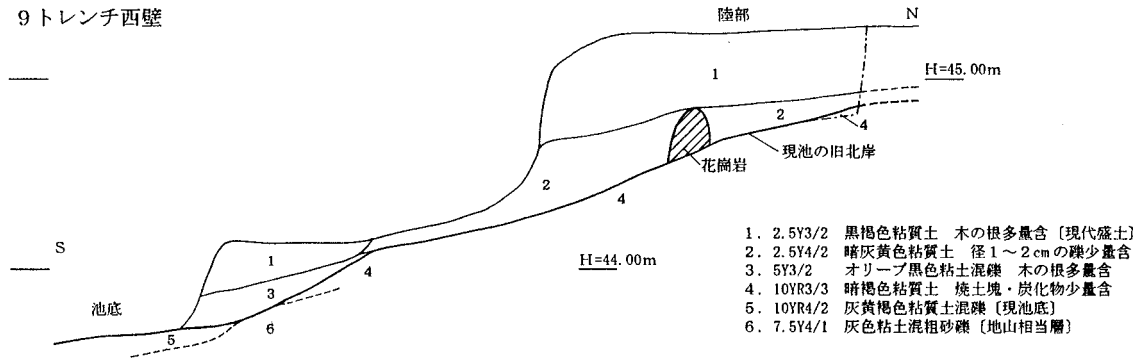


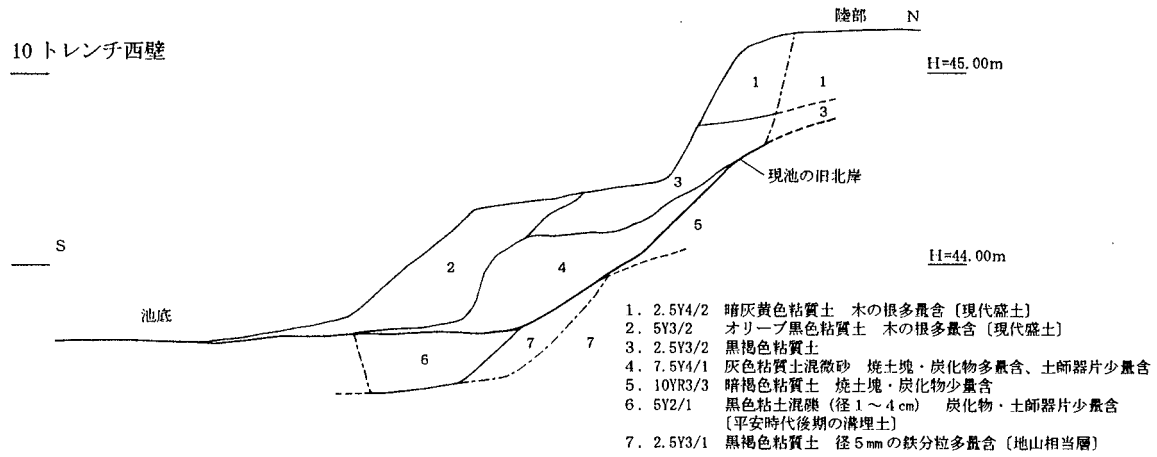
図69 トレンチ・遺構配置図

II 平成 17年度の試掘・立会調査概要

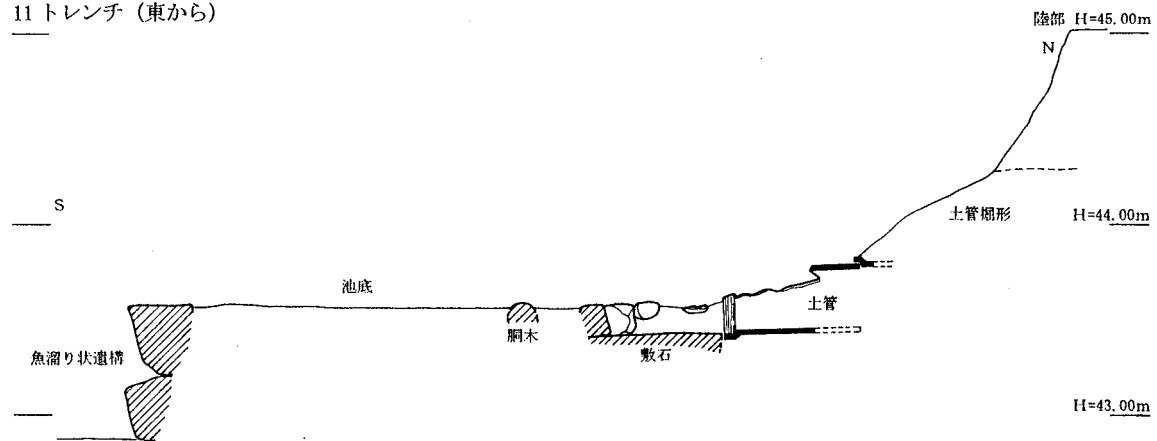
9 トレンチ西壁



10 トレンチ西壁



11 トレンチ (東から)



12 トレンチ西壁

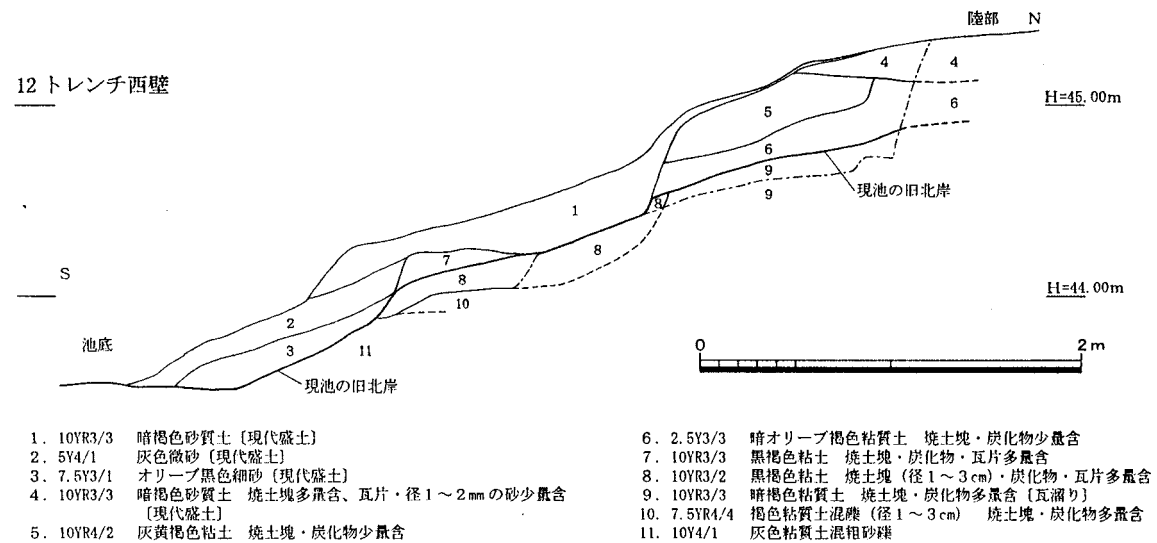


図70 9~12 トレンチ断面図

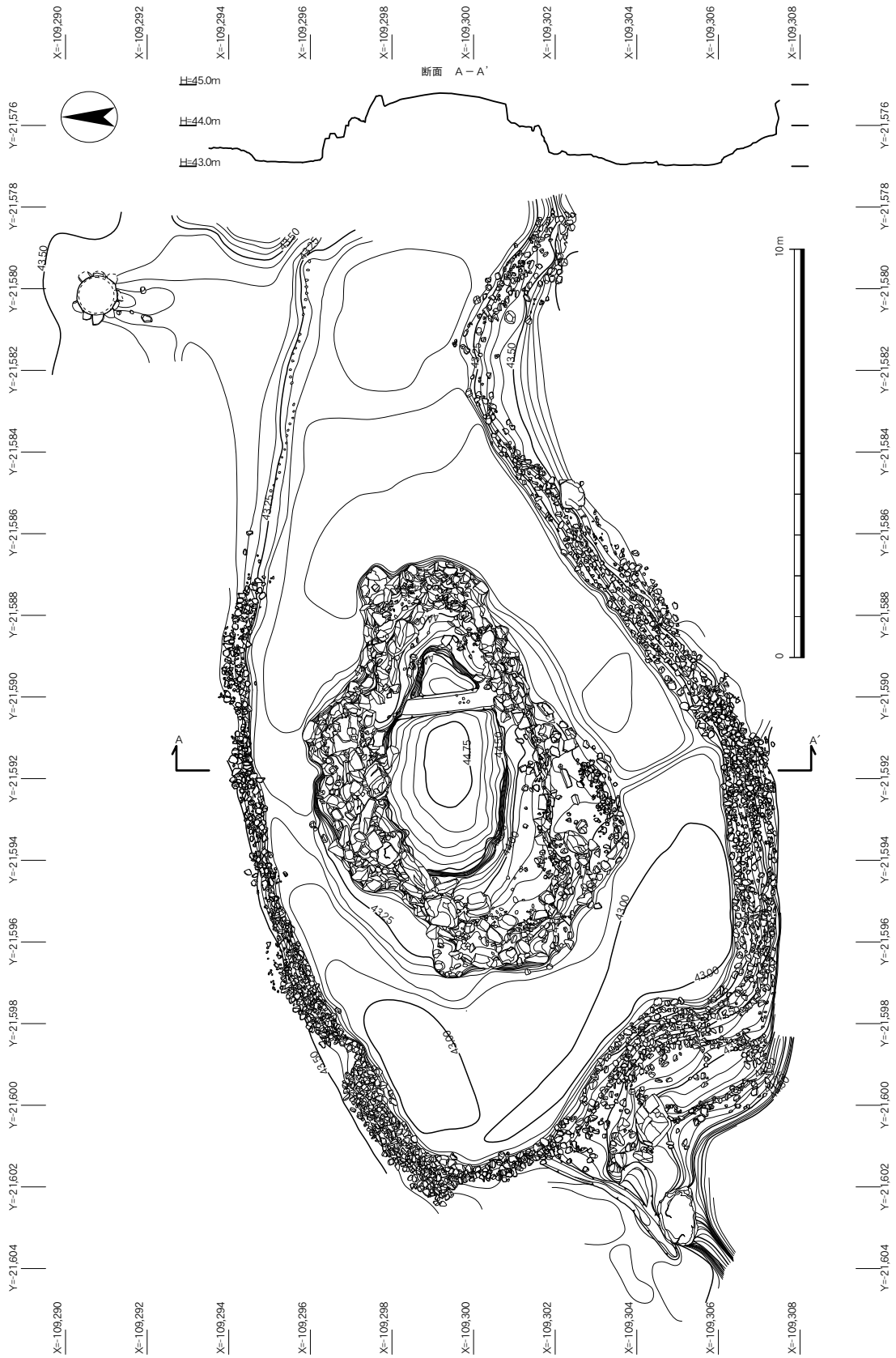


図 71 旧池平面図

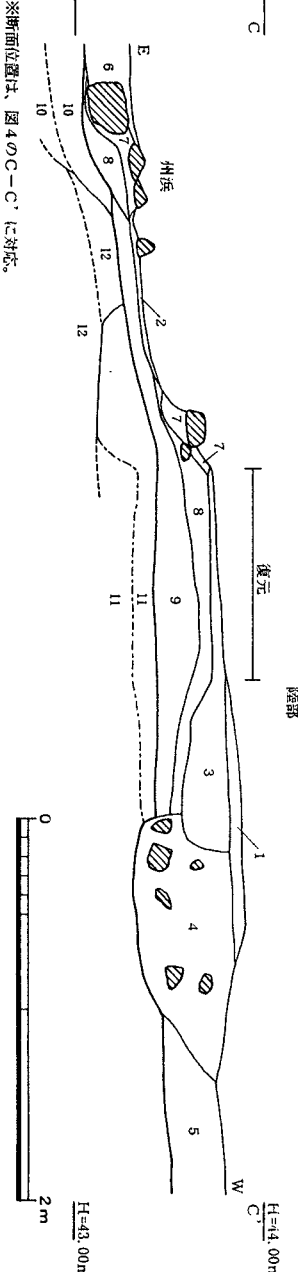
旧池南岸断面



1. 10YR2/2 黒褐色砂質土 (表土)  
 2. 10YR4/3 黒褐色砂質土混雑 (径1~4cm) (旧コンクリート基礎の掘形)  
 3. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土  
 4. 5Y3/2 黒褐色粘質土 径5mmの焼土塊少量含  
 5. N2/ 暗オリーブ褐色粘質土混雑 (径3~10cm)  
 6. 10YR3/3 暗オリーブ褐色粘質土混雑 (径3~10cm)  
 7. 2.5Y3/3 焼土塊少量含、瓦片少量含  
 8. 5Y2/2 オリーブ黒色砂 照直途中の植物遺体少量含  
 9. 10YR2/2 黒褐色粘土  
 10. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土混雑砂礫 (径2~7cm) 径0.5~1cmの焼土塊・炭化物少量含

11. 5Y4/1 灰色砂 植物遺体少量含 (池中堆積土)  
 12. 5Y4/1 灰色粘土 (池中堆積土)  
 13. 5Y4/1 灰色粘土 (池中堆積土)  
 14. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土 焼土塊・炭化物少量含  
 15. 10YR3/3 暗褐色粘質土 焼土塊・炭化物・径2~5cmの礫少量含  
 16. 2.5Y3/2 黒褐色粘土  
 17. 2.5Y3/1 黒褐色粘土  
 18. 2.5Y6/6 明黄褐色細砂  
 19. 7.5Y4/1 暗緑灰色粘土  
 20. 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土混雑 2.5Y3/2 黒褐色粘砂 固い層  
 21. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土混雑 (径0.5~1cm)  
 22. 7.5Y4/1 灰色粘質土混雑砂  
 23. 10YR2/1 黒色粘質土混雑シルト 焼土塊・炭化物・ブロッカ状の2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土少量含  
 24. 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 焼土塊・炭化物・径0.5cmの礫少量含  
 25. 10YR3/1 黒褐色粘質土 焼土塊・炭化物少量含  
 26. 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 炭化物・水分少量含  
 27. 2.5Y3/2 黒褐色粘質土 焼土塊・炭化物少量含  
 28. 10YR3/2 黒褐色粘質土 焼土塊少量含、炭化物少量含

旧池南西岸断面



1. 10YR2/2 黒褐色粗砂 (表土)  
 2. 10YR2/2 黒褐色粘土混雑砂  
 フロツカ状の7.5Y4/1 暗緑灰色粘土少量含 (表土)  
 3. 10YR3/1 黒褐色粘質土 焼土塊・炭化物・炭化物少量含  
 4. 7.5YR3/1 瓦・陶磁器片少量含 (土塊)  
 5. 7.5YR4/2 灰色粘質土 焼土塊・炭化物・陶磁器片少量含  
 6. 2.5Y2/1 黒褐色粘質土 (池中堆積土)  
 7. 2.5Y3/1 黒褐色粘土 (川原石を固定するために使用)  
 8. 7.5Y4/1 暗緑灰色粘土 炭化物少量含 (漏水防止用)  
 9. 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土 (漏水防止用)  
 10. 5G7/1 暗オリーブ黒色粘砂  
 11. 2.5Y4/1 暗オリーブ灰色粘土混雑砂礫  
 12. 7.5Y4/1 暗オリーブ灰色粘質土混雑砂

※断面位置は、図4のC-C'に対応。

図72 旧池 南岸・南西岸、洲浜断面剖面図

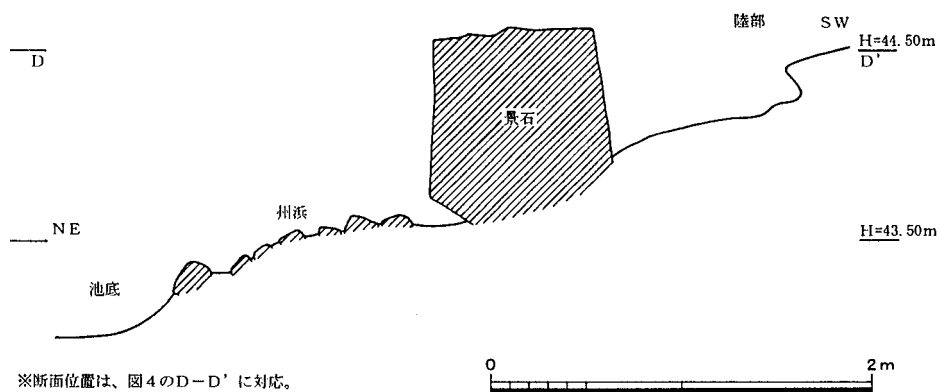


図73 旧池南西岸断面図

囲には、平成16年度1トレンチを東側に含む。調査区南側を約0.5m下げた際に、旧階段を検出した。この階段は昨年度調査において階段③としたものであり、その後の調査で飛び石状遺構の続きであると確認したものである。明治時代以降に造られたものと推定したが、下層遺構の確認が目的であったため、取り崩して更に下層へと掘り進んだ。その後、上層階段中央付近から、南北方向の土管とその排水口に造られた石組み遺構を検出した。石組み遺構の検出面の高さは、魚溜り状遺構と同じであり、飛び石状遺構の直下であった。土管の掘形は幅約0.7mあり、表土から約0.7m付近から掘り込んでいた。土管の排水口には、南北方向0.6m以上、東西方向0.59mくらいの板石を敷き、廻りを高さ約0.2m、長辺約0.2m、短辺約0.1mの石を数個使用して側面を造っていた。側石は、南北方向ではなく、北西から南東に向かって並べられていることから、南東に排水するように造られたものと考えられる。石組み遺構周辺には、拳大の礫を敷詰めていた。

土管の法量は、長さ約70cm、直径約35cm、厚さ約2cm、内法径約30cm、接合部長さ約7cmである。2本分の土管を検出している。中に、土は詰まっていなかった。

#### ④12 トレンチ

池北岸東端の調査区で、陸部と現池底の高低差は約1.9mである。層序は、暗褐色砂質土、灰色微砂、オリ

ーブ黒色細砂、陸部側の焼土塊と炭化物を少量含む灰黄褐色粘土や暗オリーブ褐色粘質土、焼土塊と瓦を多く含む黒褐色粘土などが続き、池底近くで灰色粘質土混粗砂礫となる。調査前に間知石護岸があり、それを除く際に攪乱された層が1層目、2・3層目は間知石以前の護岸、4～6層目は陸部の盛土、7・8層目はある時期の護岸裏込め、9～11層目が池を造った際の北岸と考えられる。9層目は焼け瓦を多量に含む火災処理土であるが、1788年の火災によるものであるのか、1864年の火災によるものであるのかは特定できなかった。

#### 2. 池南岸の調査

洲浜の構造を明らかにするために、南岸と南西岸に断割を入れて調査を行った。また、南西岸にある景石の据え付け状態を確認するために掘り下げたところ、約0.2mの深さまで径10～20cmの礫を含む灰色粘土が入っており、その下は炭混じりの黒褐色粘質土となった。約0.2m四方の範囲を調査しただけであったので、礫を含む灰色粘土が古い洲浜の残骸であるのか、景石の掘形埋土であるのかを確認することはできなかった。以下に、断割部分についての説明を行う。

##### ①南岸

昨年度調査の3トレンチ西側の洲浜に、0.1～0.2m幅の断割を入れて土層観察を行った。その結果、地山相当層の黒褐色粘質土に杭(径2～3cm)を打ち込んで、土留めを行い、その上に暗緑灰色粘土で漏水防止を行っ



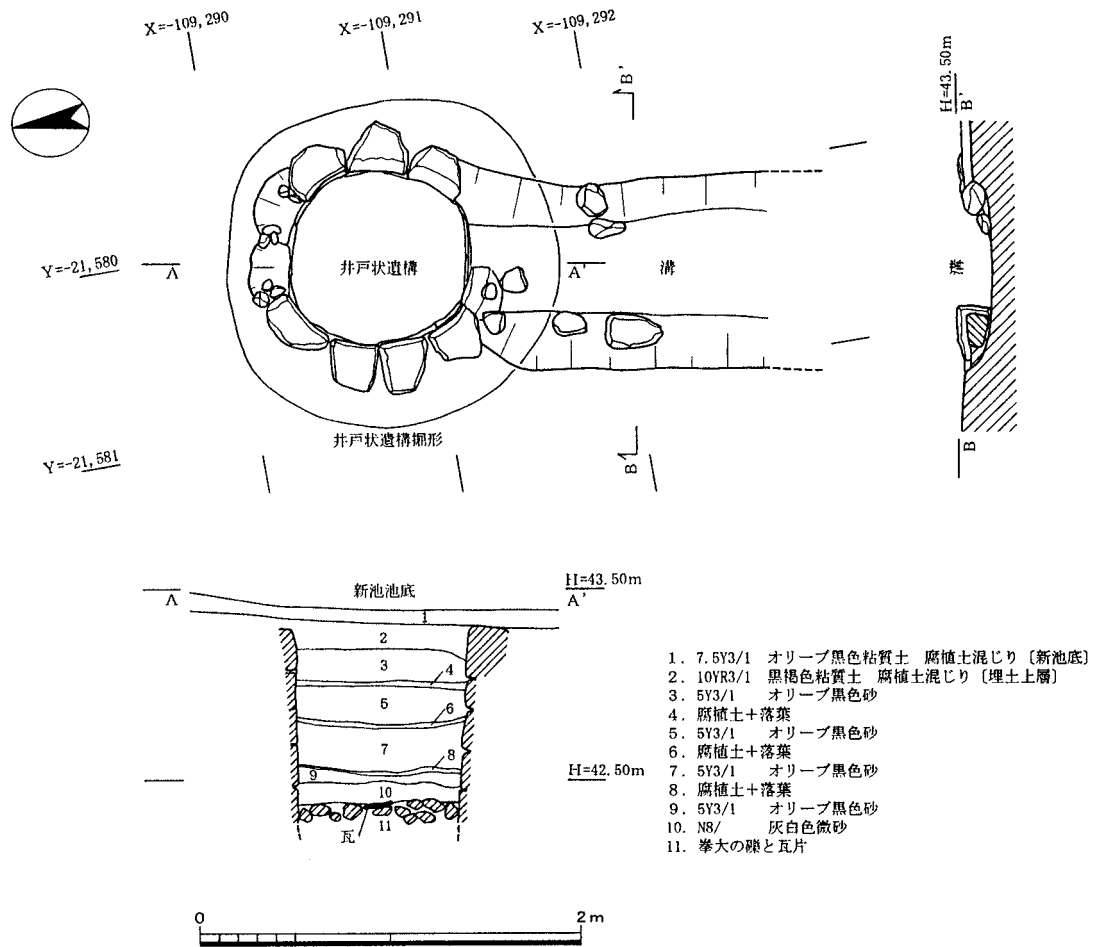


図 74 旧池井戸状遺構遺構実測図

た後、黒褐色粘土に洲浜の玉石を貼り付けていたことがわかった。陸部側では、昨年検出した胴木上面まで池の堆積土があり、その直下層である焼土塊や炭化物を少量含む層（非常に強く叩き締められている）に胴木が置かれていることを再度確認した。

②南西岸 (図 73)

洲浜の玉石は、南岸と同様の造り方であった。漏水防止の暗緑灰色粘土下に、オリブ褐色粘土が入っていた。この2つの層はほぼ平行して汀から陸部にかけて入っていたが、西端を江戸時代の土壌に切られているため、どこまで続いていたのかは不明である。オリブ褐色粘土の汀近くの直下から池底に向かって落ち込むオリブ黒色微砂層がある。この層が汀の旧構築土であると考えられることから、オリブ褐色粘土は漏水防止用に入れられた可能性が高い。

3. 井戸状遺構 (図 74)

旧池の北東に位置し、現池の池底表面を約 0.1 m 下げた際に検出した。一辺 20 ~ 25cm の花崗岩製間知石を使用した、内法径約 0.9 m の円形石積み遺構で、掘形は径 0.4 ~ 0.5 m の規模である。北側上部の 2 石と南側上部の 2 石が、他の石より約 0.2 m 低い位置に据えられている。また、南側には南北方向の深さ約 0.15 m、幅約 0.8 m の溝が見つかった。この溝の両端の所々に川原石が据えられているが、石のない部分は抜かれたものか、最初からなかったのかは確認できなかった。層序は、現池底の腐植土混じりのオリブ黒色粘質土、埋土上層の腐植土混じりの黒褐色粘質土、約 0.2 m 厚のオリブ黒色砂と約 0.02 m 厚の落葉と腐植土の混じった層の互層、オリブ黒色砂の直下に白色微砂が堆積し、それより下



図75 11 トレンチ全景（南西より）

には拳大の礫と瓦片が詰まっていた。礫と瓦片の上層に堆積している白色微砂は、非常に綺麗な砂であることから、この井戸が自噴していた可能性も考えられる。拳大の礫が入っている上面（深さ約1m）までを掘削したが、更に深くなることが判明したため、掘下げを中止した。現在の池を造る以前の井戸または、旧池に水を供給するための泉のような遺構と考えられるが、正確な用途は不明である。

遺物 遺物は整理箱に1箱出土した。各トレンチから出土した遺物のほとんどが、土師器皿や陶磁器類であり、時期は江戸時代を中心とする。桃山時代末から江戸時代前期の遺物は、現池底や旧池を断ち割った際に出土していることから、旧池は江戸時代前期の遺構や包含層を切り込んで造られていることを改めて確認することができる資料となった。平安時代後期の遺物は、10 トレンチ最下層で検出した東西方向の溝から出土している。

小結 今回の調査では、旧池の全体像を掴めたことが大きな成果である。昨年度調査で確認していたように、



図76 井戸状遺構全景（北より）

南岸の洲浜については良好な状態で残存しており、北岸から西岸にかけての洲浜についても、上部は削平されているものの、下部の残存状態は良好であった。北東の護岸では、洲浜を確認することができなかったが、汀の延長線上に杭列を検出している。この杭列は、作庭時の土留めまたは作業単位の指標もしくは、井戸状遺構から水を引いていた場合に、この杭列が堰のような役割をしていたものとも考えられる。なお、杭列は南岸の洲浜断割で検出している。中島は、現石積み中島の南西側で検出した。中島の川原石の多くは、粘土が外れたとみられ、石の並びが整然としていなかったが、岸同様に洲浜敷きであったと考えられる。このように、旧池は中島も含めて洲浜が敷かれた、東西に細長い園池であったことが判明した。

次に、焼け瓦を大量に含む火災処理土を北岸で確認できたことは、建物と池の新旧関係を考える上で、欠かせない成果である。12 トレンチの火災処理土上面は、表土下約0.5 mからの検出であり、他のトレンチについて

も同様の深さから、焼土塊や炭を含む層を検出している。この層は、現池陸部北西の立会調査で<sup>註1</sup>検出した2層分の焼土層（上層のものが19世紀頃、下層のものが18世紀後半頃）に相当している。現池はこれら19世紀頃の焼土層を掘り込んで造られていることから、この火災処理土の上面付近が、現池が造られた当初の北岸に相当するとみられる。現状の地表面から0.2～0.4m下がったところが、現池造営時の陸部と考えられ、池底から修復された建物までの勾配は緩やかであったことが推測できる。そして、同立会調査の最下層で検出された石組溝（検出面の標高44.20m）と今回の調査結果から、旧池の陸部は標高43.70～44.20mの間に納まるとみられる。現況からはほとんど不明であった建物と旧池の関係が、ある程度推測可能となった。

その他に、平安時代後期の遺構を池底で検出したことから、現池底や陸部下層には当該期の遺物を含む遺構が良好な状態で保存されていることを確認することができた。（近藤 奈央）

註1 吉本健吾 2007「平安京左京二条三坊十六町」『平成18年度 京都市内遺跡立会調査報告』京都市文化市民局



図 77 旧池南岸洲浜（北東から）



図 78 旧池南西岸洲浜断割（北西から）

## 2 右京区京北遺跡分布調査

**経過** 調査は、2005年4月1日に、京都府北桑田郡京北町と京都市が合併したことに伴い、京北町全域（図2参照）の既知遺跡の現状確認と、新規遺跡発見のための分布調査および道路新設・拡幅工事が計画されている予定地の遺跡分布調査の必要性を認め、実施することとなったものである。広域にわたる分布調査で詳細については、報告書を参照されたい。

**遺構** 遺跡確認・分布調査では、遺跡の分布を上桂川流域、弓削川流域、大堰川流域に大別して実施した。縄文・弥生・古墳・奈良・中世・近世の遺跡の分布を追認あるいは新規に確認することができた。

道路建設予定地の分布調査では、予定されている道路拡幅・延長事業の3路線について、事業予定地とその周辺を踏査し、一部で遺跡の広がりが見えてきた。

**遺物** 採取遺物は整理箱に1箱である。土器類が大半である。下弓削遺跡の道路際の遺物包含層から採取した土師器皿は、8世紀前半に属する。また、岩ヶ鼻では現代の共同墓地の墓道で、奈良時代とみられる須恵器杯の高台部破片などを採取している。東山遺跡隣接地の共同墓地内で採取した土師器皿片はいわゆる「へそ皿」で、室町時代とみられる。

**小結** 遺跡の確認・分布調査では、京北地域でこれまで確認されていた遺跡の総数は101である。今回の調査で、再度大半の遺跡の現状を確認し、新たに推定地を34箇所確認することができた。

道路建設予定地の調査では、弥生時代の遺物散布地である卯滝谷遺跡の区域で遺跡の広がりが立地条件から予想されることがわかった。

報告書：『京都市内遺跡分布調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006.3.31

## 3 嵯峨折戸町遺跡

**経過** JR嵐山線太秦・嵯峨嵐山駅間の複線化による路盤新設他工事に伴い、立会調査を実施することになった。ただし今回は、工事工程の都合により工事掘削との並行ではなく調査のみの掘削を先行する形で実施した。

調査地は嵯峨折戸町遺跡（平安時代を中心とする集落跡）の東端にあたり、平安京城外の西北に位置する旧下嵯峨村に属した地域である。古代は葛野郡川辺郷に属する嵯峨地域の一部である。東側に斎川とも称された有栖川が南流し、古くから氾濫が頻発した土地であることが今回の調査でも明らかとなった。

調査地周辺では1989年6月～1991年1月にかけて、油掛町・折戸町・冑塚町・中又町を対象に広範囲な立会調査が行われ、飛鳥時代・平安時代後期・鎌倉時代・室町時代後期・桃山時代といった各時代の土壌・溝・路面・柱穴・遺物包含層などが検出されている。今回の調査地に最も近接した南側の立会調査では、平安時代後期の柱穴及び土壌が検出されている<sup>註1</sup>。

**遺構** 掘削範囲は、線路北側の複線化予定地に沿って東西150m区間である。掘削規模は幅0.7m、長さ2

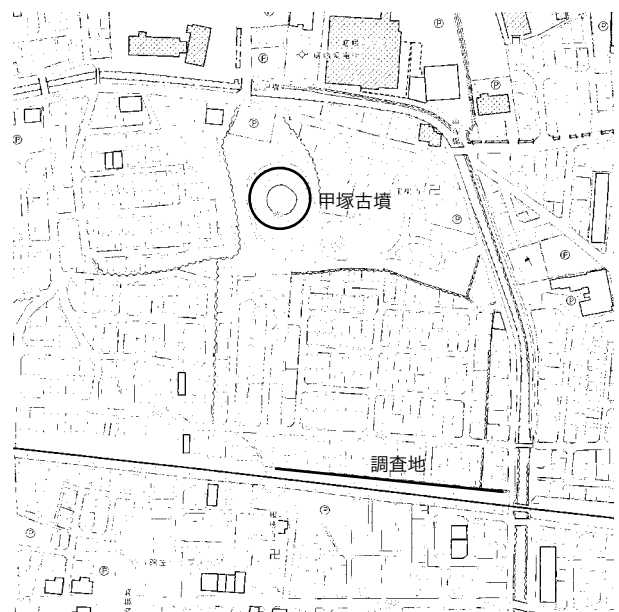


図79 調査位置図

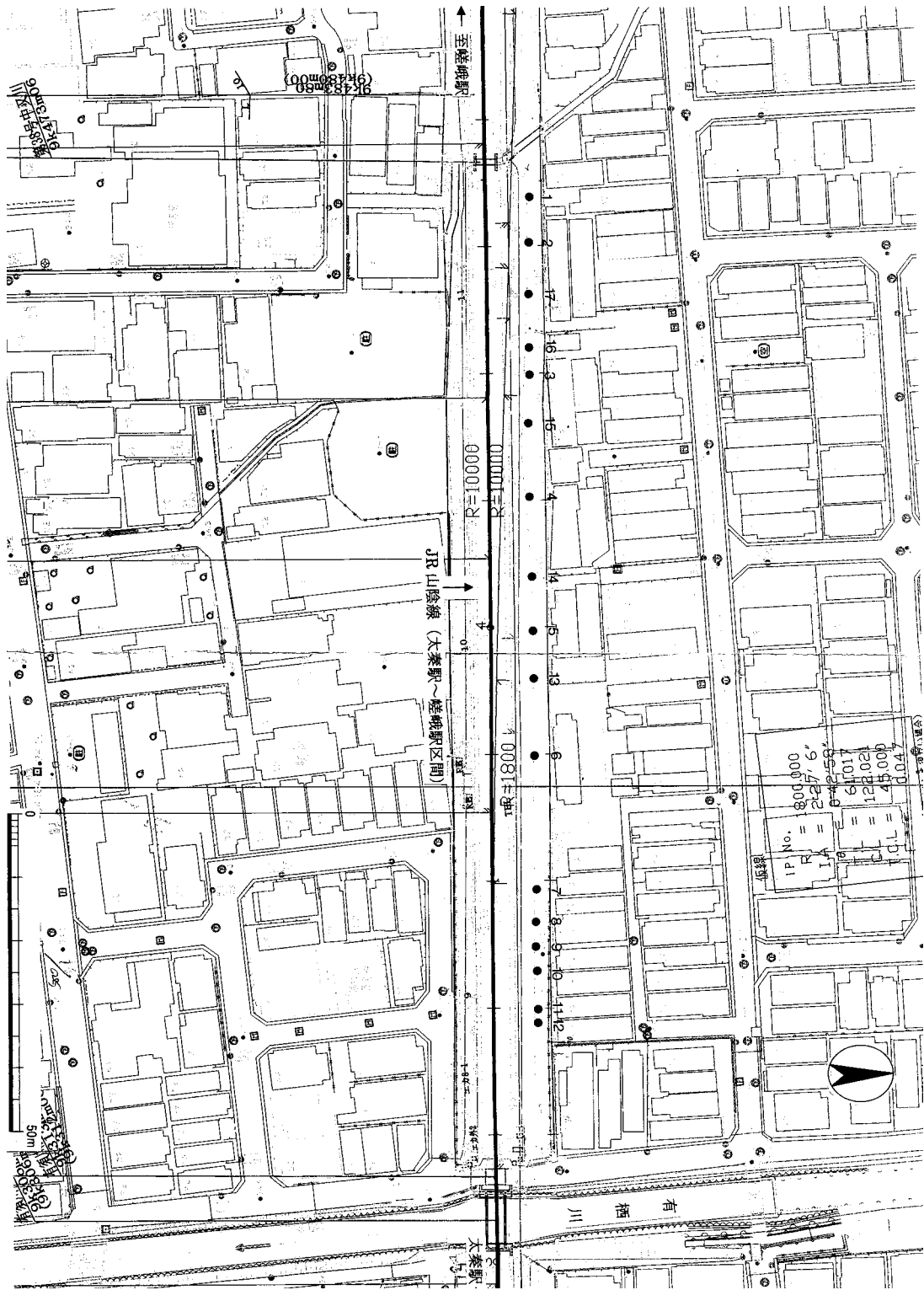


図 80 調査地点図



～3 m、深さは工事に対応し平均 1.9 mとした。17 箇所を掘削し、断面撮影および断面柱状図をそれぞれ作成した。

基本層序はNo. 15 以東と以西でやや異なっており、以東は盛土・耕作土（1～2 面）・床土・遺物包含層・黒褐色砂泥（やや粘質）層・砂礫層となる。以西は、遺物包含層以下無遺物層となり、地山以下は検出地点によって粘土、微砂、礫を含む砂泥あるいは泥砂、といった違いがあるものの、全体の広がりからみると有栖川の氾濫や溜りなどを含めた旧流れ堆積と考えられる。

遺物 遺物は耕作土から出土した近代の白磁以外はいずれも微小片の土師器である。したがってその時期確定は難しいが、No. 6－第2層・No. 8－第2層の土師器片はわずかに口縁が残存しており、その形状から平安時代後期から末期とみられる。No. 16－第6層の土師器片については、胎土の特徴などから古墳時代とみられるが、小片のため器形は不明である。

小結 わずかではあるが古墳時代および平安時代後期から末期と考えられる土師器が検出できたことから、当該調査地は古代集落の一部ではないかと推察できる。

註1 小椋山一良他『京都嵯峨野の遺跡』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1997 年

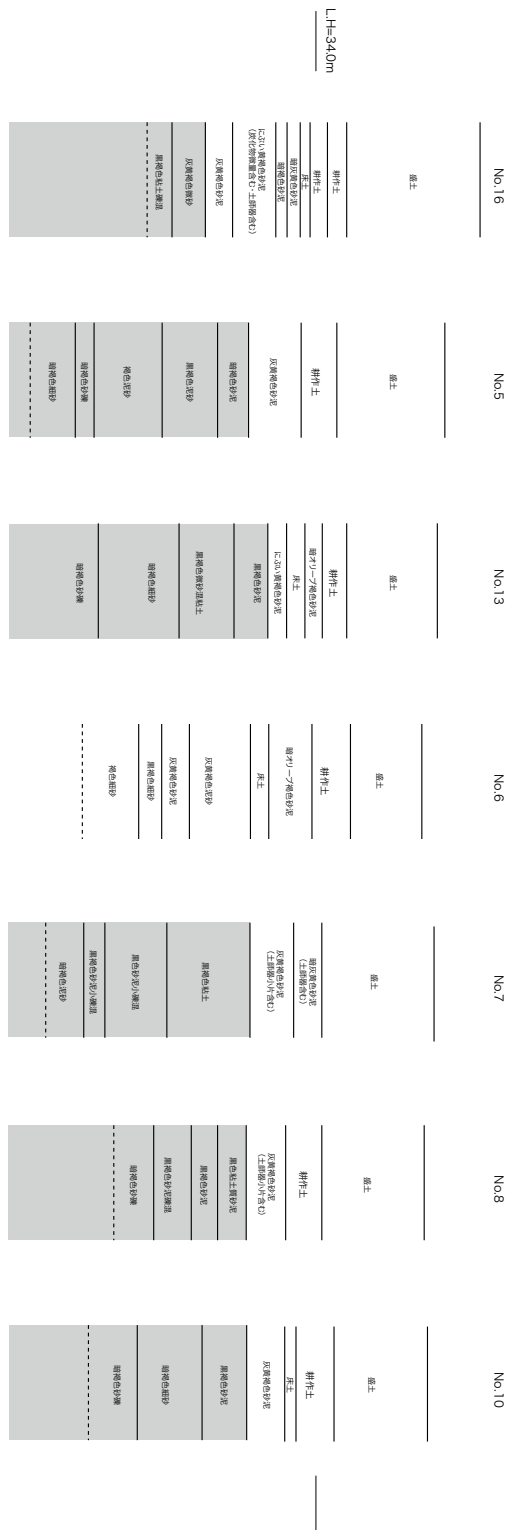


図 81 断面図

#### 4 名勝 知恩院方丈庭園

**経過** 調査は平成2年に京都市名勝として指定された知恩院方丈庭園整備工事に伴い、庭園の変遷および損傷状況を調査する目的で実施した確認調査である。方丈庭園は大方丈と小方丈の南から東側にかけて建物に沿うように、細長く作られた園池である。

調査は池の中央部に土嚢を築き北池と南池を分断して、北池と南池に分けて実施することになった。まず北池から調査を開始し池底に1トレンチを設定した。北池中央部の西側池底には洲浜状の遺構が認められ、また、東側へ高まりがのびるためトレンチの範囲を広げた。東側護岸では景石が少ないため、汀の形状を観察する目的で2～5トレンチを、石島の据え方を探るため6トレンチを設定した。

北池の東護岸部には崖面から流れ落ちた土や植栽で隠れている景石を多数検出したため、景石周囲の土を取り除き一部植栽の枝打ちを行い景石を露出させた。その結果、滝組およびその南側石橋の間に、大きな景石を用いた石組があることがわかった。

**遺構** 当池の浚渫工事が十数年前に行われ、池内の堆積土は取り除かれていた。池の汀と池底に調査区を設定したが、堆積土は少なく一部チャートの岩盤が露出している箇所も見られる。1トレンチの基本的な層序は、近現代の遺物を含む砂礫層5～10cm、その直下に黄褐色や灰色のシルト層、その下が地山となるチャートの岩盤である。シルト層上面では拳大の山石が分布し、江戸時代前期～中期の土師器皿や木簡が出土した。2～6トレンチは北池の東汀と池底に設定した。いずれも近現代の遺物を含む粗砂層が20～30cmで、木の葉や枝が多く混入している。2～3トレンチの汀肩部では砂層の下が灰色のシルト層である。

1トレンチ 北池の中央部に設定した。池の水を抜いた時点で1トレンチ付近は高く盛り上がり、西側護岸から中央部まで浚渫時と思われる碎石が敷かれてい

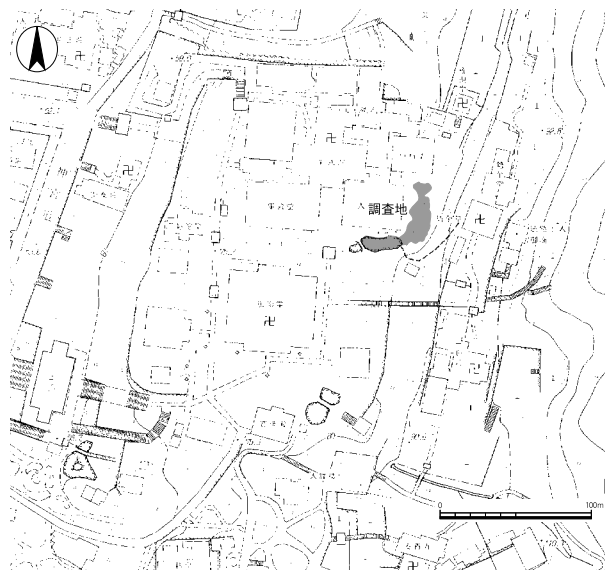


図 82 調査位置図

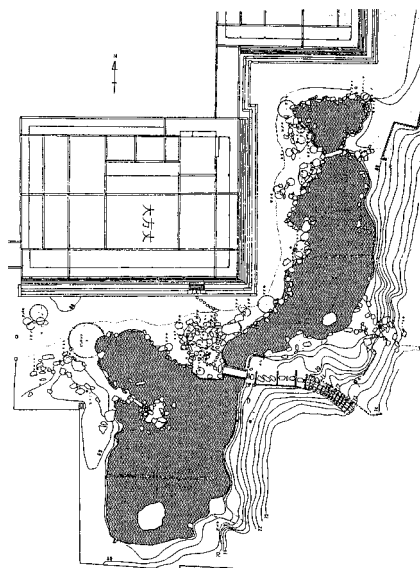


図 83 方丈庭園平面図

た。またこの部分にはチャートを主体とする角ばった山石が点々と分布していることが認められた。そのため他の池底より高い箇所にトレンチを設定し、大きめの石を原位置に残したまま碎石層を除去した。その結果、1.5～2.0mの幅で10～20cmほどの石が汀に沿って分布していることが判明した。石敷きはシルト層に張り付いたように検出され、洲浜遺構と判断される。また、この洲浜遺構は対岸の石灯笼へ向かって伸びている。1トレンチの東側では最近埋められた浄化装置の埋設管によ

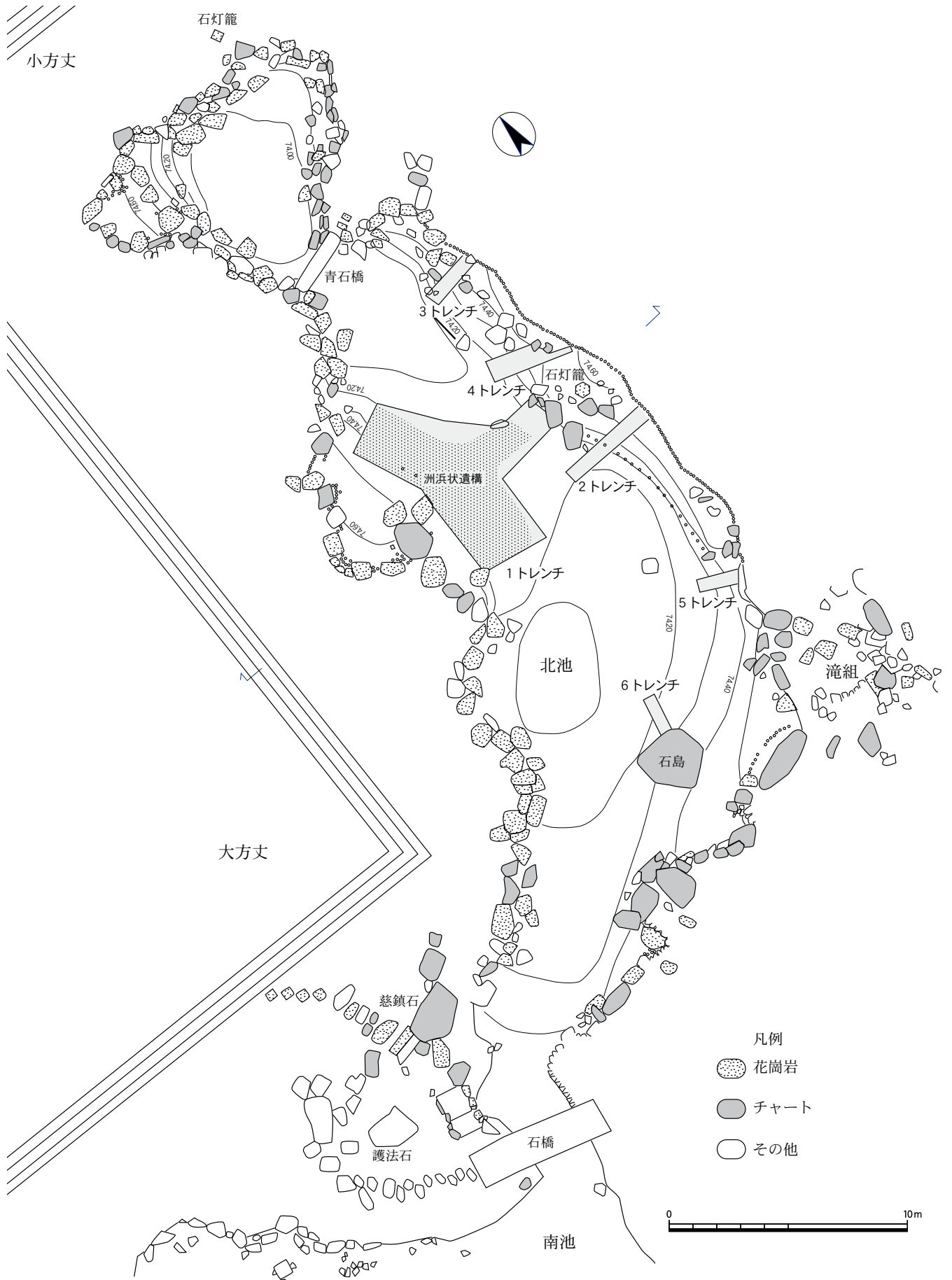


図 84 北池平面図

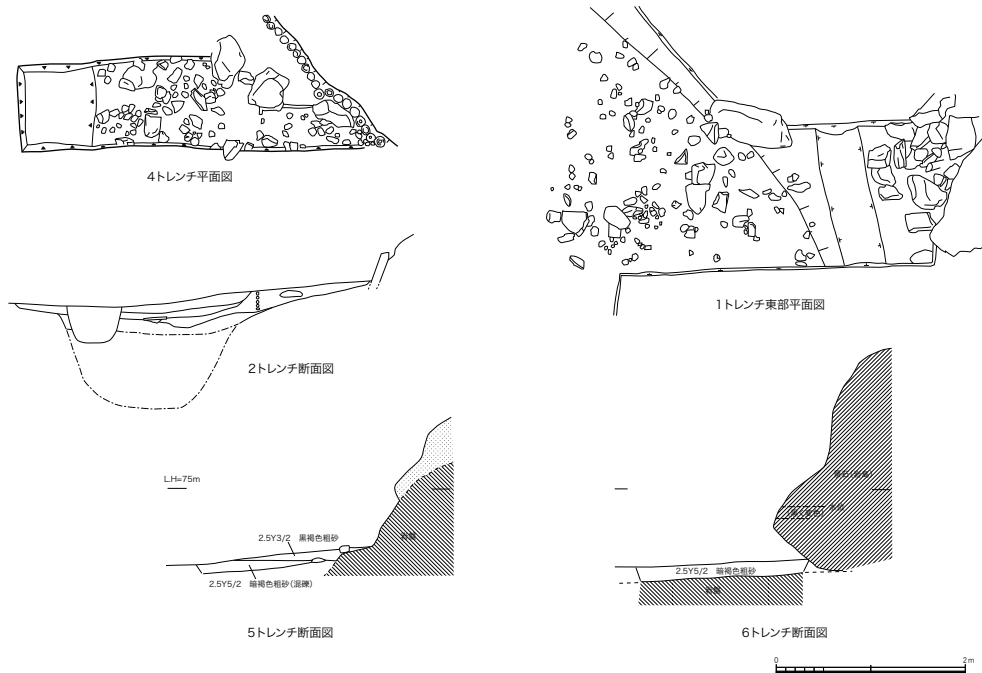


図 85 北池調査区実測図

て攪乱されている。

2トレンチ 石灯笼南側の幅 0.6 m、長さ 3.8 mの東西トレンチ。東護岸から 1.2 mの箇所に杭を打ち竹でシガラミを設けている。また、護岸から西へ 1.4 mの地点から西へ急激に落ち込む。湧水が激しいため底部まで掘り下げることができなかったが、南北方向の溝状遺構と思われる。探査棒で確認したところ、幅は 1.8 m深さ 1.0 mを測る。

3トレンチ 東汀の最も北に設けた幅 0.6 m、長さ 2.4 mのトレンチ。2トレンチのようなシガラミを設けず、素掘りのままの汀である。底部を地山層まで断ち割っていないが、肩部は黄褐色のシルト層で、地山の岩盤層に貼り付けたシルト層の可能性もある。池底は西へ向かって落ち込む。

4トレンチ 石灯笼の北側のトレンチで幅 0.9、長さ 3.5 mのトレンチである。1トレンチ東側と同じように汀肩部に 10～50cmの石が敷き詰められている。1トレンチとあわせてみると石灯笼をとりまくように景石が配され、洲浜遺構と同程度の大きさの石が密に撒かれている。西端は浄化装置の埋設管で攪乱されている。

5トレンチ 滝石組北側の岩盤が露出している箇所のトレンチ。岩盤が西へ向かって落ち込み、深さ 10cmで黄褐色シルトの混入した黄灰色砂層がみられる。その上に木の葉や枝の混入した粗砂層が堆積している。

6トレンチ 滝組の南西に据えられたチャートの巨石に接して設定した。深さ 15cmでチャートの岩盤を検出した。岩盤は平坦でこの景石は岩盤の直上に据えられていることを確認した。根石などもみられない。

東汀の滝組周辺から中央部の石橋付近にかけては、大きな景石を用いた護岸石組であることが判明した。調査前にも景石は一部露出していたが、斜面から流れてきた土で覆われ、また植栽がはびこり隠れていた。今回、植栽の枝打ちおよび草類や景石にかぶった土を取り除き石組の様子を観察できるようにした。滝組南側の石組護岸は安定しており、当初の状況を保っているが、滝組の一部と石組護岸の南半は不安定で崩落が起きかけている。石組の景石が動いた部分には 10～20cmほどの石で補修されているが、水に洗われ浮いている石が多く不安定である。

遺物 中央部の洲浜遺構から江戸時代前期～中期の遺

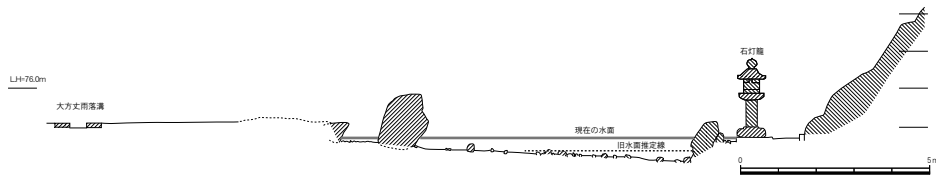


図 86 北池中央立面図

物が出土している。土師器類は厚手で見込み底部に沈線を施したもの。陶磁器類は椀や皿がみられるが、いずれも小破片である。焼締陶器には信楽焼の甕や播鉢がある。瓦類には三葉葵文軒丸瓦、鬼瓦、面戸瓦がみられる。銭貨として「寛永通宝」が一枚出土している。また、木製品として木筒が1点出土。大きさは最大幅2.5cm、長さ10.9cm、厚さ0.8cmを測る。頭部に両側から切り込みを入れ、下部は尖らしている。荷札木筒と思われる。両面に墨書が見られるが判読しがたい。

小結 知恩院は法然上人が草庵を結んだ地に、弟子源智が大谷寺を創建したのが始まりで、江戸時代になって徳川家康により、上の段（墓域）・中の段（諸堂伽藍の地域）・下の段（塔頭の地域）の三段に分かれ大伽藍が発願された。慶長八年（1603）から十五年にかけて、中の段に御影堂・衆会堂・方丈・庫裏など、下の段には20余の塔頭が整備された。元和五年（1619）には徳川秀忠によって、三門と経蔵が建立された。寛永十年（1633）には中の段が火災にあい、大方丈・小方丈・庫



図 87 荷札木筒

裏・衆会堂・御影堂・廊下が炎上した。現在の伽藍は寛永十年（1633）の焼失後に再建されたもので、庭園は寺の再建時、寛永十九年（1642）から正保二年（1645）にかけて整備されたと想定されてい

る。園池は大方丈と小方丈の東側に細長く作庭され、北庭と南庭に分かれている。北庭には東側斜面に滝石組が設けられている。南庭は池に中島が築かれ、紀州の青石が組まれている。この庭園は寛政十一年（1799）刊の『都林泉名勝図会』に4頁にわたって掲載されているため、現状と比較することができる。名勝図会では景石などの細部までは不明であるが、現在の池の形状は当時から大きな変化はみられない。しかし、中井家所蔵の知恩院絵図では北池の西側護岸石組が表されておらず、青石橋も描かれていない。中井家の絵図から名勝図会の際に庭園の改変があったことが読み取れる。

北池の護岸方法については西側から青石橋にかけて石組護岸を用い、対岸の石灯笼付近はシガラミ護岸で景石をまばらに配している。また、滝組周辺から中央の石橋の間も石組護岸である。図84の石材分布図を見ると北池はチャートと花崗岩が大部分を占めている。石材は西側護岸に花崗岩が多く用いられ、滝組から南側の護岸はチャートを主体としていることがわかる。また西側護岸に用いられている花崗岩には、石を割るときにの痕跡である矢跡が残っている石が多くみられ、形状も三角に加工したものが多く。矢跡も大型で石垣に使われる石のようである。石の据え方をみると西側護岸では花崗岩製の石を池に投げ込んだような状態のものがたくさん見られ、その上に石を積む工法である。現在の池の水位では花崗岩の大半が水没し顔を出していない。矢跡のある花崗岩は水面からは見ることはできない。滝組周辺ではチャートを横に置いたり縦にして石組を行っており、石の据え方に違いがある。北池で露出しているチャートは風化が進んでいるが、勢至堂付近のチャートは硬く、景石に用



いることが可能な石材である。石島や慈鎮石など巨大なチャートが用いられているが、知恩院境内から調達できたと思われる。境内は三段のひな壇造成が大規模に行われており、その折に掘り出された石が利用されたのではなかろうか。

北池の中央部では洲浜状遺構を検出し、作庭当初の段階では大方丈側の汀はなだらかな勾配の洲浜を形成していたと思われる。方丈の建てられていた地面も現在より低かったことが予想される。しかし、対岸の山側は西に比べ傾斜のある汀となり、小さな景石を点々と配している。山側ではチャートの岩盤が露出したり、粘土を張った直線的な汀である。その汀に人頭大の石を敷いて、景石を配し岬状に張り出した部分に石灯笼を据えている。石灯笼の竿の部分には銘が刻まれているが、風化が激しく判読しがたい状況である。今回拓本をとったところ鎌倉時代の元亨元年（1321）の年号が読み取れる。京都造形芸術大学尼崎教授によると石灯笼は部品の接合や石材の産地の違いや不具合も見られるため、組み合わせが変更されている可能性がある。

石の用い方や積み方、汀の様子から、作庭当初は方丈側の汀に洲浜を用いた浅い池であったのが盛土した後、護岸を石組に変更し水位を上昇させて深い池となったことが想定される。北池において池底の地形測量を行ったところ、中央部の洲浜状遺構の両側、青石橋周辺から北側と滝組の正面、石島の北側に底部の深い部分が認められる。二箇所とも底には腐植土が厚く堆積しているため、さらに数十センチ深くなる。石灯笼の西側は溝状に深くなるため、両方の深い部分を溝でつないでいる可能性がある。当初は全体に浅い池であったが、この深い部分も石組護岸に変更したときに掘りなおし深くしたことが予想される。石組護岸として池を深くした時期については、寛永の大火災が方丈から出火したとされており、防火のために池を深くし貯水池の役目を持たせたのではなかろうか。現在の水位は標高 74.80 m を測るが、洲浜遺構の状況から当初の池の水位は 74.40 m、今より 0.40 m



図 88 調査前全景（北から）



図 89 1 トレンチ洲浜状遺構（北から）



図 90 2 トレンチ（南から）



図 91 3 トレンチ（南から）



図 92 4 トレンチ (北から)



図 93 5 トレンチ (西から)



図 94 6 トレンチ (北から)



図 95 東岸滝組 (西から)

低かったと推定している。

滝組南側の石組ではかなり土がかぶっているため表面だけの観察であるが、石組の状況から見て登り口あるいは階段状の施設が埋まっているように見受けられる。また対岸の石組の様子からもこの部分に橋が架けられていた可能性がある。

石組の損傷状況については滝組の北側はしっかりと組まれているものの、滝組やその南側の石組は緩んでやや動いている石があるように見受けられる。滝への流水により痛んだものであろう。また、滝組と石橋の間の石組についても、樹木の根で移動し一部崩落の危険がある箇所もあり修復が必要である。他の石組については裏込めの粘土が流失している箇所もあるが、特に問題はないと思われる。

北池において予想を上回る調査成果とともにさまざまな問題点が出てきたため、今回の調査期間では南池まで調査することができなかった。知恩院および京都市文化財保護課と協議を行い、南池および北池の追加調査については次回に実施することとなった。

(前田 義明)

## 5 史跡 高台寺庭園

**経過** 高台寺では江戸時代（寛政年間）に焼失した小方丈を再建する計画が持ち上がり、確認調査を実施する運びとなった。調査地は拝観者の順路を妨げない場所に調査区を設定することとし、調査は焼失した小方丈の状況と、現状の池の変遷を明らかにする目的で、池に面して東西方向の調査区を設定した。

調査区の西側で建物の雨落ち遺構が検出されたため、雨落ちの延長に当たる北側と、調査区に近接した景石が当初から据えられたものかを確認するために、2箇所の調査区を追加した。今回検出した遺構については確認調査のため、保存することとし下層の断割り作業は最小限で行った。調査で発生した残土は土嚢につめて仮置きした。

**遺構** 調査区の基本層位は上から表土層 5cm、にぶい黄橙色（10YR6/4）細砂層が 10cm、整地層と思われるにぶい褐色（7.5YR5/4）細砂と褐色（7.5YR4/4）極細砂が 30cm、その下が地山層のにぶい黄褐色（10YR5/4）細砂（φ 3～5cm の石が多量に混入し硬くしまる）となる。整地層からは瓦や土師器が混入している。地山層の上面はほぼ水平である。

1 調査区の西側では完形の丸瓦を玉縁部が下になるように立て、瓦の小口を南北方向に並べた遺構を検出した。その瓦列の西側には拳大の川原石を幅 60cm で敷き詰めており、雨落ち遺構と考えられる。川原石はまぐろ石と呼ばれる黒灰色の石を用いている。瓦列は敷石を縁取るために設置されたものである。3 調査区でも瓦列と敷石は検出されたが、3 調査区内で瓦列と敷石はとぎれる。最北端の丸瓦の向きが西へ変わるためここで西へ折れ曲がると思われる。平面では検出できなかったが、断割り断面から瓦の抜き穴状のピットを検出した。敷石は 1 調査区と合わせて長さ 10 m を測

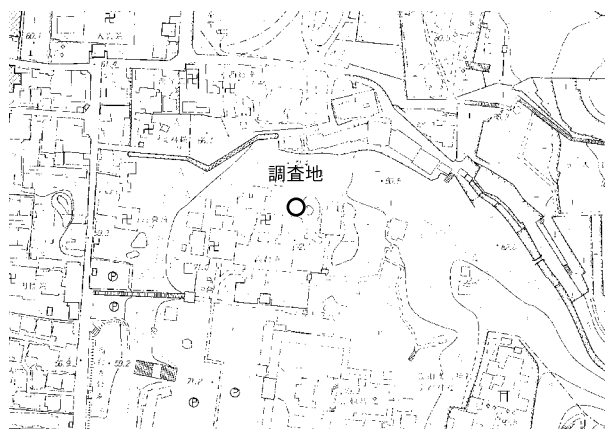


図 96 調査位置図

るが、さらに 1 調査区の南側へのびている。また、1 調査区では敷石・瓦列の西側および東側で 0.5～1.0 m ほどの幅で、赤く変色し火を受けた部分が認められた。炭化物は多くはないが、火災に遭った痕跡と思われる。

1 調査区の東側では上面が平らな礎石らしき方形の石

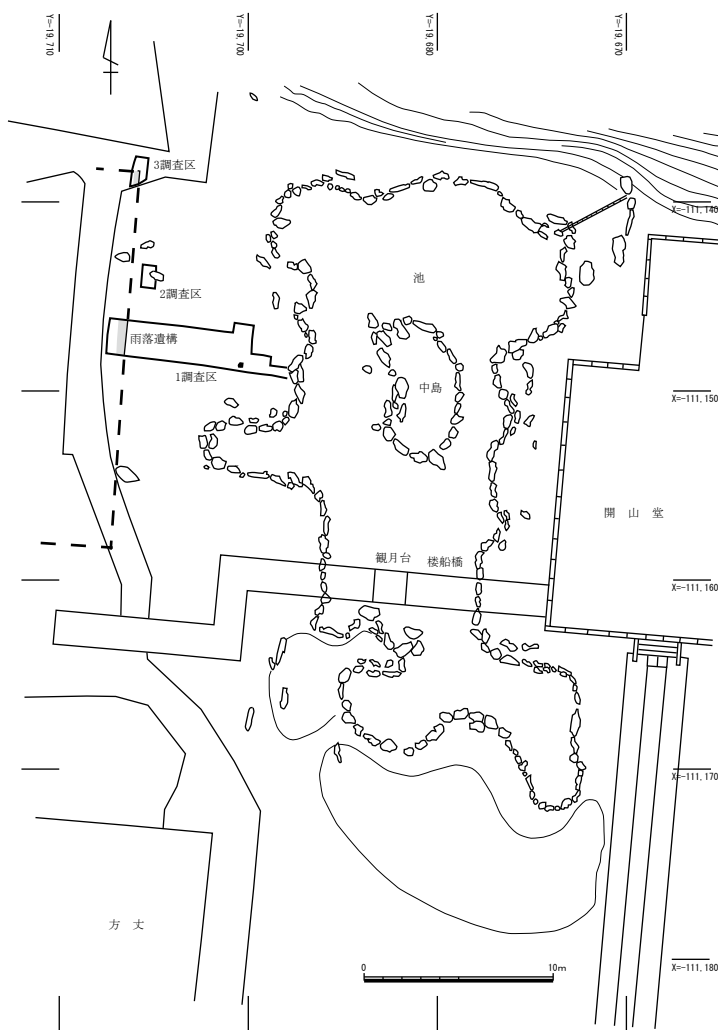


図 97 調査区配置図

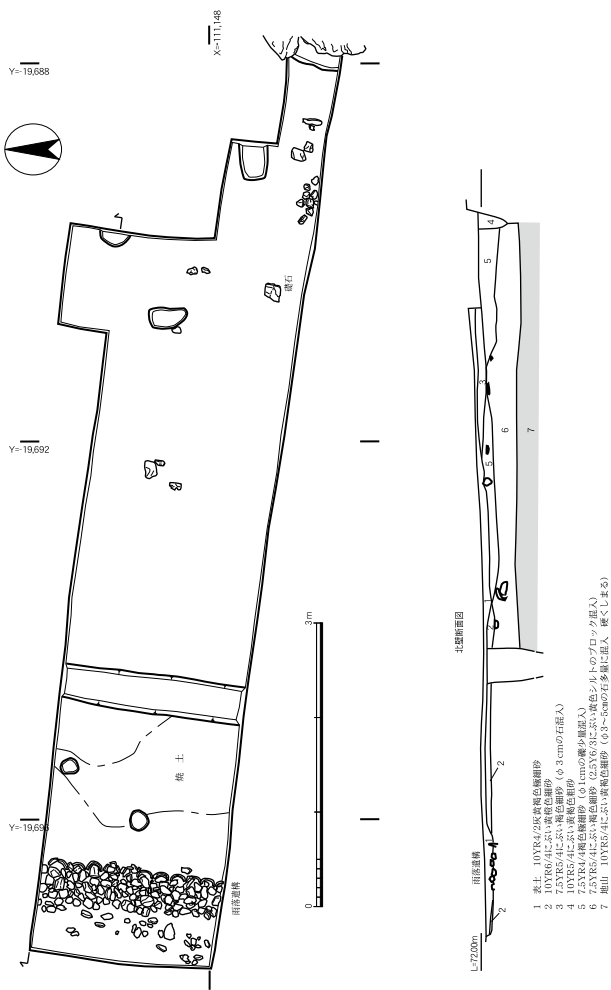


図 98 1 調査区実測図

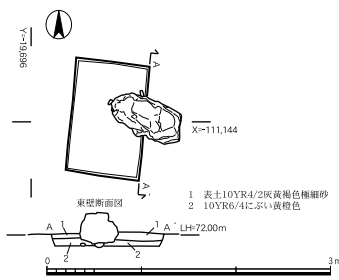


図 99 2 調査区実測図

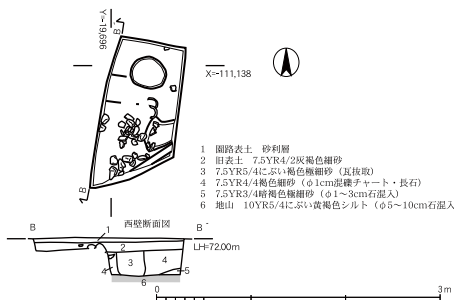


図 100 3 調査区実測図

を検出した。礎石はチャート製で1辺15cmと小さいため、小規模建物の礎石や束石と思われる。この石に対応する梁行・桁行の地点で精査したが、礎石や抜き穴の痕跡は認められなかった。

2 調査区では景石の周囲を断割るように掘り下げたが、断面観察によると景石は雨落ち遺構を検出した上面に据えられており、景石は建物廃絶後に新しく設置されたことが判明した。

遺物 江戸時代の遺構面を検出したが、地表面から浅いため遺物の出土量は少ない。土器類は小破片ばかりで時期を明確にできるものは少ない。鎌倉時代から室町時代の土器は整地層から出土し、輸入青磁碗・灰釉陶器壺・瓦器碗・土師器皿が小片でみられる。土師器皿は時期の判定が困難なほど小片である。桃山時代から江戸時代前期の瓦が多くみられ、刻印付の丸瓦、面戸瓦が1点ずつある。刻印丸瓦は雨落ち遺構の瓦列に用いられていた。刻印は五弁を表した花文を丸瓦凸面、玉縁のやや下位に付けている。桃山時代から江戸時代前期の土器には陶器(瀬戸碗・天目碗)・焼締陶器(壺)・土師器皿があり、銅製飾り金具1点出土している。

小結 高台寺は慶長三年(1598)に没した豊臣秀吉の菩提を弔うために、夫人の北政所により慶長十年(1605)に建立された寺院である。徳川家康の援助を得て大規模な伽藍が造営された。寛政元年(1789)、文久三年(1863)、明治十八年(1885)の3回の火災によって、仏殿大方丈・小方丈・庫裏などが焼失した。大正元年(1912)に方丈の再建、大正十五年(1926)に客殿の改築が行われている。現在は表門・開山堂・霊屋・傘亭・時雨亭・観月台が現存し、いずれも重要文化財に指定されている。そのうち表門・傘亭・時雨亭・観月台が伏見城から移建されたと伝えられている。開山堂は秀吉所用船材と北政所愛用の御所車を使用したと伝え、霊屋は慶長の移建以来の建物と伝える。高台寺所蔵の古絵図によると、調査地周辺には南から大方丈、小方丈と東西棟が南北に2棟並んで建てられていたが、寛政元年に





図 101 1 調査区全景（北西から）



図 102 2 調査区全景（南西から）



図 103 3 調査区 雨落ち遺構（東から）

焼失している。大方丈は大正元年に再建されたが、小方丈は再建されず、このたび再建計画が立案された。さらに古絵図では小方丈の東側に接して書院と御囲(茶室)がみられ、1 調査区は小方丈の東側と書院部分に相当する位置にあたる。

調査前には池が調査区付近まで広がっていた可能性があるとの意見があった。しかし、調査区の堆積状況は、礫を多く含み岩盤のように硬い地山層が地表面から 40～50cm の深さで汀の景石付近まで水平に堆積してい

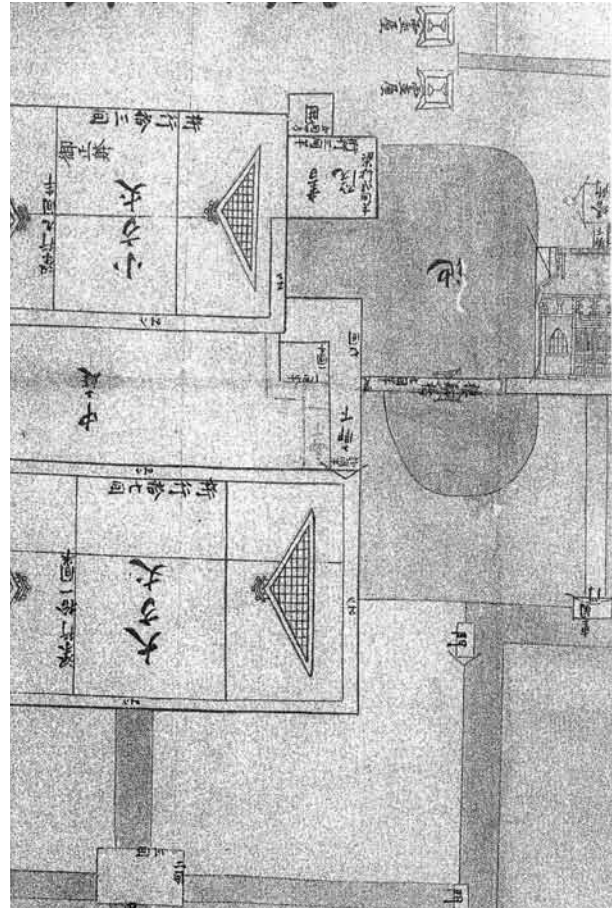


図 104 高台寺所蔵古絵図

る。地山層の上面は池底より高く、調査地まで池は広がっていないことを確認した。北岸の石材や大きさの不揃いからみて、景石の据え替えが行われた可能性はあるものの、池の形状は当初の形をほぼ保っていると思われる。

遺構の検出面は地表下 10cm と非常に浅いが、池が当初の形を残しているとする、遺構検出面も創建当初の面を維持していると思われ、敷石遺構は古絵図に描かれた状況を示している可能性が高い。1 調査区で検出した敷石遺構が小方丈の雨落ちであれば、古絵図に記されている梁行の寸法（古絵図では梁行九間半、桁行十三間とあり、1 間を六尺五寸・1.95 m と計算して梁行は 18.525 m）から、屋根の軒の出まで含めて 20 m 前後と想定される。古絵図に示されている小方丈と楼船橋の位置関係から見て矛盾せず、今後の調査の目安となろう。また、敷石周辺の焼土層の検出は、寛政年間の火災を物語っていると思われる。



雨落ち遺構の年代については瓦列に用いられていた刻印付丸瓦が参考となる。この刻印瓦は京都御苑内公家町の調査で類似品が出土している。刻印の形状や押された位置が類似しているため、同時代の同じ製作地の可能性がある。瓦の製作年代と雨落ち遺構の年代が一致するわけではないが、報告書では刻印瓦が出土した遺構の年代を江戸時代前期とされていることから、小方丈の雨落ち遺構は創建当初までさかのぼる可能性が高い。

古絵図によれば礎石を検出した部分は書院と御圍（茶室）が描かれている場所にあたり、書院の一部に想定できる。古絵図と現在の池の形状とは一致していないが、池が創建から変化していないことから、現在の地形図をみると書院が池に接して建てられていることを予測できる。しかし、調査では礎石1個だけの検出だったため建物の細部まで明らかにすることはできず、今後も小方丈を含め広範囲に調査することによって、高台寺の歴史が明確にされることと思われる。

高台寺創建に行われたと想定している整地層からは、わずかながら鎌倉時代・室町時代の土器が出土している。高台寺造営以前の遺跡は『京都市遺跡地図台帳』や『京都市の地名』（日本歴史地名大系 27 平凡社）によると、高台寺辺りに雲居寺・金仙院・岩栖院が想定されている。平安時代前期に雲居寺の寺地があったらしく、平安時代後期から室町時代には雲居寺内に金仙院が建てられ、室町時代から高台寺造営まで岩栖院があった。少量の遺物ではあるものの、これらの遺跡の手がかりとなろう。

（前田 義明）

## 6 史跡・名勝 嵐山

**経過** この調査は、建物建築工事に伴う試掘調査である。調査地は、桂川左岸の史跡・名勝嵐山の範囲内に位置する。

当地は、建長年間（1249～1256）に造営された後嵯峨上皇の院御所である亀山殿と、その跡地に1342～1345年にかけて建立された天龍寺境内の南東部隣接地および塔頭跡地と考えられる。また、周辺での発掘や立会調査では、平安時代の遺構や縄文土器の出土などが報告されている。特に、今回調査地の西に隣接する敷地で2004年度に実施された発掘調査では、亀山殿の STACKED 地業や天龍寺の霊庇廟東限などが検出されていることから、関連する遺構の検出が想定された。

試掘調査は、主に敷地内での各時期の遺構面の深さと遺構の遺存状況についての情報を得ることを目的とした。京都府・京都市の文化財保護課の指導により、幅3mで東西34mのトレンチと、これに直交する南北10mのトレンチ3本が試掘トレンチとして設定された。原則的には遺構は平面的な検出にとどめ、掘下げは行わないこととした。

**遺構 基本層序** 近現代の盛土層は厚さ約1.2～1.5mである。この盛土は、前建物の時期とそれ以前の時期に分けられる。その下に、江戸時代後期以降とみられる黒褐色砂泥の整地層が広がり、この面で掘下げを止めた。西側はにぶい黄褐色の砂礫層となる。遺構面は、周辺地

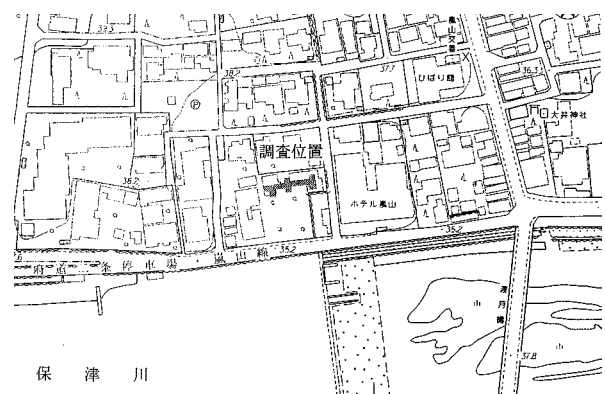


図 105 調査位置図

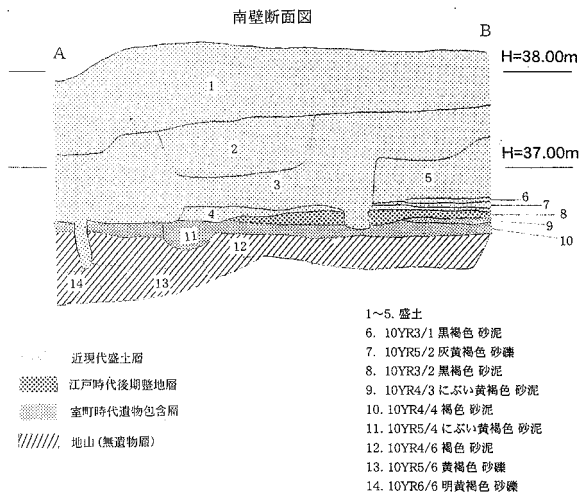


図 106 基本層位図

形と同様に北側でやや高くなる傾向がある。東部では、広い範囲で地山層に達する深い攪乱層がある。

検出した遺構 江戸時代から室町時代の柱穴、石列、土壇、溝、焼瓦溜まり、整地層、遺物包含層などがある。

中央南部の石列 45 は、南側に面をもち、方位は東側で北に振れる。漆喰層 28 は、上面が平坦であることから土間と考えられる。石列 45 とともに建物に関連する遺構の可能性はある。瓦溜まり 27 は、室町時代の軒瓦などの焼瓦が充満している。部分的な検出であり形状が不明であるが、南北方向の溝の可能性もある。西部の砂礫層上面で検出した柱穴(4・13・18・20)は、直径0.5 mで約 1.5 m間隔で並ぶ。この柱列の方位は、北側

で西に振れており、当地の鎌倉時代の地割りと合致するとみられる。

攪乱層西壁の断面観察から、江戸時代後期の整地層の下には室町時代以前の遺構や遺物包含層が遺存していることが確認できた。

遺物 基本的に遺構の掘下げを行っていないため遺物量は少ない。出土した遺物のほとんどは重機掘削中のものである。江戸時代の遺物は、整地層から出土した陶磁器類が主である。室町時代の遺物は、瓦溜まり 27 上面からコンテナ 1 箱分の焼け瓦が出土している。中には巴文軒丸瓦片や瓦質土器鍋が含まれる。室町時代の土師器は包含層からの出土で、小片である。

小結

今回検出した江戸時代から室町時代の遺構面は標高約 36.8 mであった。西に位置する 2004 年調査地<sup>註1</sup>では、標高約 38.5 mと約 37 mの 2 段の地形が検出されていた1)が、今回は低い方に相当する遺構面となった。敷地北端部では、遺構面をやや高い位置で確認しており、周辺の地形と同様に北に向かって高くなることがわかった。

調査では、江戸時代後期、室町時代およびそれ以前の遺構を検出した。

江戸時代後期の建物は、大堰川北岸に並ぶ宅地に関連

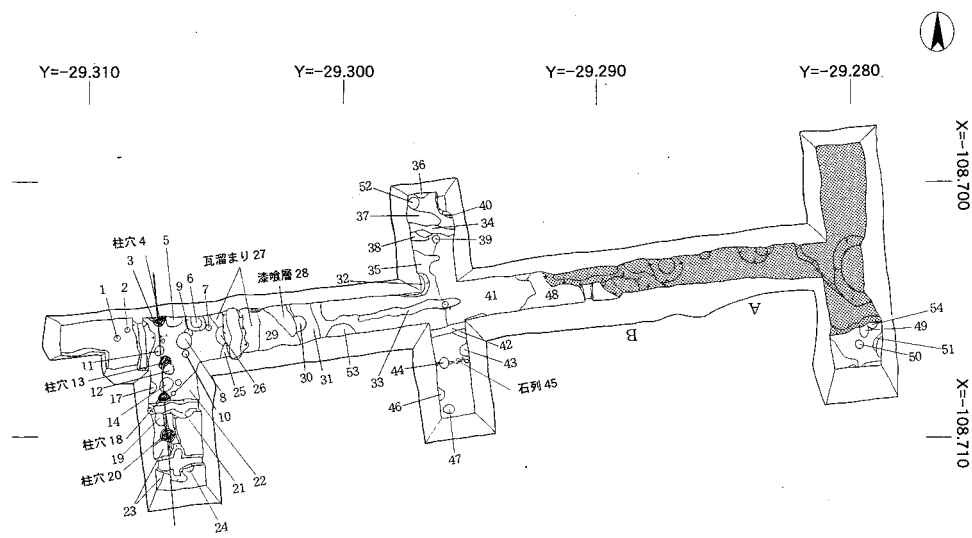


図 107 遺構平面図



図108 調査区全景（西より）

する可能性がある。「明治期の地籍図」には、この地点周辺にも京都特有の短冊形地割りがみられることも傍証となろう。

室町時代の焼瓦溜まりは、位置的にみて『山城国嵯峨諸寺応永鈞命絵図』中の「禅度院」に関連するものとみられる。天龍寺は応仁の乱を含め多くの火災に見まわられており、周辺の調査でも多量の焼瓦が出土している。当地にも同様な状況で瓦葺きの建物があつたとみられる。

西部で検出した柱穴列は、北で西側に振れる方位である。この方位は、2004年調査で検出している鎌倉時代の遺構と同様の傾きであり、この時期の地割りに規制された可能性がある。さらに北側に延長するとみられる。

以前、東側道路では立会調査で平安時代の遺構や遺物を検出していたが、今回これに関連するものは確認できなかった。

調査地の標高は、東端が東側道路と同様の約36.5mであり、それ以外のほとんどの部分は38m前後と約1.5mの高まりをみせていた。この盛り上がりは、近代になってからの盛土であることが判明した。南側には名勝である嵐山や大堰川があることから、南への眺望をより良くするために高く盛土を行ったものとみられる。

（小檜山 一良）

註1 『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-11

## 第2章 資料整理

### I 保存処理

#### 1 出土木製品の受入れ状況

本年度の木製品の受入れ状況は、合計9現場であった。内訳は平安京右京三条一坊七町(02HK-RS002)、平安京左京三条四坊十町・烏丸御池遺跡(03HK-RC002)、平安京左京八条四坊七町(03HK-BQ004)、平安京右京三条四坊十三町・無差小路(03HK-IR011)、平安京右京三条四坊十三町・三条大路・無差小路(03HK-IR012)、平安京右京三条一坊(04HK-YU001)、平安京右京六条三坊六町(04HK-OM001)、鳥羽離宮跡(03TB-TB148)・(04TB-TB150)である。

#### 2 木製品保存処理

3m含浸槽では前年度処理を開始したものを、取上げ・乾燥・収納し、本年度より保存処理を開始し、現在処理を継続中のものがある。

表3 保存処理木製品一覧表

遺跡名	調査記号
平安京右京八条二坊二町	93HK-YC003
下三栖遺跡	98FD-SS004
平安京右京一条四坊十三町	96HK-SB001
大藪遺跡	98MK-OG
平安京右京三条一坊三町	96HK-UP002
六波羅政庁跡	99RT-AA004
平安京左京八条二坊十四町	97HK-EP
平安京右京六条三坊二町	03HK-QO001
平安京右京三条一坊二町	97HK-UI013
平安京左京八条二坊十一町	03BB-HL311
平安京右京三条一坊三町・六町	98HK-UI014

#### 3 金属製品の受入れと保存処理

本年度の金属製品の受入れ状況・処理は5現場であった。白河街区・岡崎遺跡(04KS-OJ001)は鉄製品・銭貨9点、平安京左京一条四坊九町(05HK-OO001)は鉄釘・飾り金具・キセル・銭貨14点、北白川廃寺(05KS-RS002)は鉄釘2点、山科本願寺跡(05RT-HG009)は鉄製品76点、山科本願寺跡(05RT-HG010)は鉄製品172点を受入れ処理をした。

#### 4 ガラスの比重測定

本年度のガラス製品の受入れ状況は3現場であった。平安京左京三条四坊十町・烏丸御池遺跡(03HK-RC002)は簪・玉・その他8点、平安京左京六条三坊五・六町(04HK-WD002)は簪・ワインボトル5点、山科本願寺跡(05RT-HG010)は玉102点をアルカリガラスと鉛ガラスに大別するため比重測定した。

#### 5 骨の受入れと保存処理

平安京左京六条三坊五・六町(04HK-WD002)はウシ・ウマ、白河街区・岡崎遺跡(04KS-OJ001)鳥類・魚類、平安京左京一条四坊九町(05HK-OO001)は貝類・魚類を受入れた。

#### 6 遺構・遺物の取上げ

本年度は遺構・遺物の取上げを1現場で行った。遺物は、平安京左京六条三坊五・六町(04HK-WD002)で楊梅小路の平安時代後期の路面から多量のウシ・ウマの骨を取上げた。

#### 7 土サンプルの洗浄

本年度は白河街区・岡崎遺跡(04KS-OJ001)の井戸、平安京右京七条二坊四町(05HK-YK001)の溝・土壙から種実等、史跡下鴨神社(04RH-UU004)の祭祀遺構から炭・鍛造関連遺物(図105参照)を同定をした。

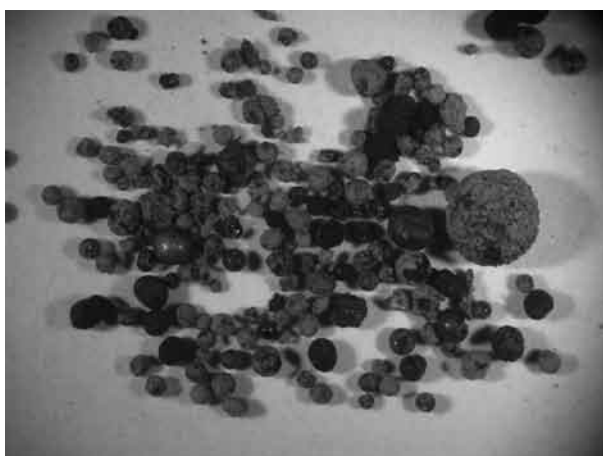


図 109 下鴨神社で出土した鍛造剥片と粒状滓

## 8 修羅の保存処理

本年度修羅大・小は、温湿度の管理をしながら経過観察している。

## 9 受託事業

本年度は、昨年から継続している長崎県和蘭商館跡(出島)の木製品22点の保存処理を完了した。東京大学から受託した本郷構内出土の板材約25点を保存処理し完了した。(竜子 正彦)

## II 復元彩色

本年度の復元彩色は総数275点で、内訳は下表の通りである。発掘調査概報の為の復元が主である。

(出水 みゆき)

表4 彩色復元一覧表

内容	調査記号他	点数
調査概報・展示	04RH-SH4	27
調査概報	04UZ-RG2	19
調査概報	04RH-UU4	1
調査概報	04HK-YU	11
調査概報	04RT-NK82	3
調査概報	03・04NG-YE2・3	22
調査概報	04UZ-OH2	19
調査概報	04RT-HG6	10
調査概報	04FD-TK	14
調査概報	05RT-HG8	8
国庫補助	05RT-HG9	24
調査概報	04HK-QP1	38
調査概報	05HK-ER001	19
国庫補助	05RT-RS001	1
国庫補助	04BB-HR304	14
国庫補助	05KS-SR2	2
国庫補助	05HK-CM6	7
展示	BB-HL234 他	28
展示	BB-HL234 他	2
展示	BBHL-104	1
展示	87HK-FK 他	3
展示		1
貸出・展示		1
合計		275



## 第3章 普及啓発事業等報告

### I 普及啓発事業報告

#### 1 文化財講演会の開催

日時 平成17年11月5日(土)  
場所 京都アスニー 4階ホール  
講師 森 郁夫氏(帝塚山大学教授)  
演題 奈良・平安時代の緑釉瓦  
参加者 約250名

#### 2 「2005年 発掘調査成果写真展」の開催

日時 平成17年 6月18日～29日  
場所 ペアール京都 ロビー  
参加者 一般観覧者

#### 3 重要文化財指定「平安宮豊楽殿跡出土品」写真展の開催

日時 平成17年11月14日～25日  
場所 京都市役所玄関ロビー  
参加者 一般観覧者

#### 4 現地説明会の開催, 他

- (1) 平成17年 4月16日 「平安京右京五条三坊三町跡」 (地元向説明会)  
参加者: 250名
- (2) 平成17年 4月23日 「平安京左京六条三坊五町跡」 (第2回目)  
参加者: 700名
- (3) 平成17年 6月 4日 「白河街区跡・岡崎遺跡」  
参加者: 350名
- (4) 平成17年 9月10日 「平安京左京二条二坊十町「高陽院」」  
参加者: 550名

(5) 平成17年11月12日 「上里遺跡」  
参加者: 150名

(6) 平成17年12月 3日 「北白川廃寺」  
参加者: 220名

(7) 平成17年12月10日 「山科本願寺跡」  
参加者: 200名

(8) 平成18年 2月11日 「長岡京右京二条三坊九町・十六町跡」  
参加者: 200名

(9) 平成18年 3月11日 「伏見城跡(城下町)」  
参加者: 350名

(広報発表のみ)

(1) 平成17年 6月23日 「山科本願寺跡」  
(7社)

(2) 平成17年12月14日 「鹿苑寺方丈修理に伴う発掘調査の報告」 (11社)

(3) 平成18年 3月27日 「常盤仲之町遺跡」  
(4社)

#### 5 報告書の刊行

(1) 平成17年度 京都市内遺跡発掘調査報告

(2) 平成17年度 京都市内遺跡立会調査報告

(3) 平成17年度 京都市内遺跡分布調査報告

(4) 平成15年度 財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報

(5) 発掘調査概報 醍醐寺子院跡

(6) 発掘調査概報 長岡京右京一条四坊十五町跡

(7) 発掘調査概報 史跡旧二条離宮(二条城)・平安宮廩院跡

(8) 発掘調査概報 平安京右京六条三坊六町跡

(9) 発掘調査概報 上京遺跡

(10) 発掘調査概報 平安京右京三条二坊十三町跡

(11) 発掘調査概報 平安京右京三条一坊二町跡

(12) 発掘調査概報 平安京右京一条四坊十三町跡

- (13) 発掘調査概報 平安京右京三条一坊四町跡 調査業務 上村 和直, 他
- (14) 発掘調査概報 史跡・名勝嵐山 (2) 平成17年1月12～14日
- (15) 発掘調査概報 白河街区跡・岡崎遺跡 於：大津市(びわろ 淡海 県民交流センター)
- (16) 発掘調査概報 平安京左京八条二坊十五町跡 「平成17年度埋蔵文化財担当者等講習会」(文化庁主催)
- (17) 発掘調査概報 松ヶ崎廃寺跡 担当係長 吉崎 伸
- (18) 発掘調査概報 平安京左京三条四坊四町跡 総務係長 金島 恵一
- (19) 発掘調査概報 中臣遺跡
- (20) 発掘調査概報 平安京右京三条二坊十五町・三坊三町跡 (3) 平成18年1月14・15日
- (21) 発掘調査概報 平安京右京五条三坊三町跡 於：西宮市(大手前大学)
- 6 「リーフレット京都」(No.195～No.206)の発行 「関西陶磁史研究会」
- ・No.195 発掘ニュース67 「本院大臣・時平の邸宅」 主任 小檜山 一良
- ・No.196 仏教・寺院7 「鹿苑寺不動堂石室の文字」 主任 能芝 勉
- ・No.197 発掘ニュース68 「淀城の米蔵跡」 (4) 平成17年6月12日, 9月18日, 18年1月8日
- ・No.198 考古アラカルト33 「小さくても大判」 於：佐倉市(国立歴史民俗博物館)
- ・No.199 発掘ニュース69 「伏見城北曲輪 伏見桃山城キョウリョウト跡地の調査」 「国立歴史民俗博物館展示プロジェクト委員会」
- ・No.200 考古アラカルト34 「平安宮豊楽殿出土品重要文化財指定を受けて」 主任 網 伸也
- ・No.201 発掘ニュース70 「呪詛の人形」 (5) 平成17年9月3・4日
- ・No.202 遺跡を訪ねて8 「鳥羽離宮跡を歩く」 於：京都市(花園大学)
- ・No.203 発掘ニュース71 「上京遺跡-細川典厩邸跡の調査」 「中世都市研究会2005京都大会」
- ・No.204 考古アラカルト35 「京北の遺跡」 統括主任 上村 和直
- ・No.205 考古アラカルト36 「特別展示 発掘された瓦窯」 主任 山本 雅和
- ・No.206 発掘ニュース72 「発掘成果をふりかえって2005」
- 7 研究会等への派遣
- (1) 平成17年4月～18年3月(毎月開催) 8 全国埋蔵文化財法人連絡協議会への参加
- 於：向日市(京都府埋文調査研究センター) 「第26回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会」
- 「長岡京連絡協議会」 専務理事 吉田 正和
- (1) 平成17年6月9・10日 館長 永田 信一
- 於：富山県(富山県民会館)
- (2) 平成17年7月8日 「平成17年度第1回近畿ブロック主担当学会議」
- 於：京都市(ルビノ京都堀川) 調査課長 鈴木 久男
- 「平成17年度第1回近畿ブロック主担当者会議」 資料課長 長宗 繁一
- (2) 平成17年7月22日 (3) 平成17年7月22日

Ⅰ 普及啓発事業報告

於：向日市（（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター）

「平成17年度第1回近畿地区OA委員会」

資料業務 宮原 健吾

（4）平成17年10月7日

於：奈良市（奈良県文化会館）

「第11回近畿ブロック埋文研修会」

担当係長 前田 義明

統括主任 加納 敬二

同 木下 保明

主任 山本 雅和

調査研究技師 近藤 奈央

（5）平成17年10月20・21日

於：北九州市（九州厚生年金会館）

「平成17年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会」

資料課長 長宗 繁一

総務係長 金島 恵一

（6）平成17年11月2日

於：和歌山市（アハロム紀の国）

「第20回近畿ブロック事務担当者会議」

総務係長 金島 恵一

主任 西大條 哲

（7）平成17年11月25日

於：堺市（（財）大阪府文化財センター）

「平成17年度第2回近畿地区OA委員会」

資料業務 宮原 健吾

（8）平成18年2月10日

於：京都市（当財団本部）

「平成17年度第2回近畿ブロック主担当者会議」

専務理事 吉田 正和

調査課長 鈴木 久男

資料課長 長宗 繁一

（9）平成18年2月17日

於：大津市（滋賀県立県民交流センター）

「平成17年度近畿ブロック会議」

次 長 小西 一郎

総務係長 金島 恵一

（10）平成18年2月24日

於：京都市（当財団本部）

「平成17年度第3回近畿地区OA委員会」

資料業務 宮原 健吾

9 講師等の派遣

大学等への派遣を実施した。（表5参照）

10 実習生の受入れ

実習生の受け入れを実施した。（表6参照）

11 ホームページアクセス件数

今年度のホームページへのアクセス件数は、29,105件であった。

表5 講師等派遣一覧表

No.	件名	機関名	氏名	日時	備考
1	非常勤講師の委嘱 (考古学実習A・B)	帝塚山大学	上村 和直	17.4.1.～18.3.31	1週2時間担当 (木曜日)
2	非常勤講師の委嘱 (考古学調査実習)	立命館大学	高橋 潔	17.4.1.～18.3.31	1週2時間担当 (水曜日)
3	非常勤講師の委嘱 (考古学GA・GI)	立命館大学	山本 雅和	17.4.1.～18.3.31	1週2時間担当 (水曜日)
4	非常勤講師の委嘱 (考古学実習I・II)	花園大学	南 孝雄	17.4.1.～18.3.31	1週2時間担当 (土曜日)
5	非常勤講師の委嘱 (日本考古学A・B)	近畿大学	網 伸也	17.4.1.～18.3.31	1週2時間担当 (土曜日)
6	非常勤講師の委嘱 (日本史特殊講義I・II)	立命館大学	永田 信一	17.4.1.～18.3.31	月曜日 19:40～21:10
7	非常勤講師の委嘱 (考古学実習II・IV)	奈良大学	辻 純一	17.10.1.～18.3.31	1週4時間担当 (火曜日)
8	非常勤講師の委嘱 (京都の歴史と考古Z)	仏教大学	南出 俊彦	17.4.1.～18.9.19	1週2時間担当 (土曜日)
9	非常勤講師の委嘱 (日本史特論)	府立朱雀高等学校	辻 裕司	17.4.1.～18.3.31	金曜日 19:35～21:10
10	非常勤講師の委嘱 (古代文化論)	京都造形芸術大学	前田 義明	17.4.1.～18.3.31	通信教育のため 出講せず
11	非常勤講師の委嘱 (古代文化論)	京都造形芸術大学	丸川 義広	17.4.1.～18.3.31	通信教育のため 出講せず
12	出前授業(総合学習)	市立小野小学校	辻 純一, 吉崎 伸, 他	17.5.24.31	
13	出前授業(総合学習)	市立大塚小学校	辻 純一, 吉崎 伸, 他	17.6.21.28	
14	出前授業(総合学習)	市立陵ヶ岡小学校	辻 純一, 吉崎 伸, 他	17.9.11, 11.1, 18.2.7	
15	出前授業(総合学習)	市立音羽川小学校	辻 純一, 吉崎 伸, 他	18.3.10	
16	「山科の歴史」の講師	市立音羽川小学校	辻 純一	18.2.3	5年生(85名)対象の講演
17	地域教育主任会「埋蔵文化財から見る山科」の講師	京都市校長会山科支部	辻 純一	17.8.19	各学校地域教育主任を対象
18	平成17年度「歴史文化講習会」の講師	京都市右京中央老人福祉センター	永田 信一	17.5.23・30 10.31,11.7	
19	「市民大学講座」の講師	帝塚山大学	上村 和直	17.4.16	
20	「座談会・糺の杜を掘るー蘇る古代祭祀の諸相」の講師	淡交社	鈴木 久男 櫻井みどり	17.7.13	
21	「公開講座」の講師	帝塚山大学	鈴木 久男	17.9.10	
22	「原始古代の土器と生活」の講師	障害者ボランティア団体「SNOW ネット」	吉崎 伸	17.10.22	
23	「可児市史発刊記念講演会」の講師	可児市教育委員会他	永田 信一	17.11.27	
24	公開講座伏見学『2005』の講師	聖母女学院短期大学	前田 義明	17.12.3	
25	「醍醐寺修証・三宝院庭園研究会」の講師	文化財庭園保存技術者協議会	鈴木 久男	18.1.21	
26	平成17年度「陶磁器調査過程(中世陶磁器)」	奈良文化財研究所	永田 信一	18.2.8	
27	「フライトでみるおとくへの発掘」の講師	乙訓文化財事務連絡協議会(長岡京市教育委員会)	上村 和直	18.3.5	

表6 実習生の受入れ

氏名	内容	学校名
赤松 佳奈	「イロハ丸」出土遺物の整理補助	奈良大学大学院(修士課程)
水野 恵利子	「イロハ丸」出土遺物の整理補助	奈良大学大学院(修士課程)

## II 京都市考古資料館状況

### 1 速報展の実施

ア 速報展「山科本願寺・御本寺曲輪の出土品」(17.12.10～12.18) 山科本願寺は、蓮如上人によって造営され、近江守護六角氏と法華宗・延暦寺の連合軍による焼き討ちを受けるまで、活動の中心地として栄え、寺院としての機能だけでなく防御施設として堀と土塁を3重に巡らせた総面積約80haもある環壕城塞都市であった。平成17年11月～12月の調査で礎石建物・庭園遺構などを発見し、遺構の中には山科本願寺が焼き討ちにあったことを物語る焼土層も検出した。

また、豆彩など中国明代の陶磁器や漆製品、ガラス玉などが数千点出土し、山科本願寺の経済力の強さやこの付近に本願寺の中核をなす建物の存在が明らかとなった。速報展では、豆彩等の陶磁器類、大小のガラス製小玉、金銅製飾り金具等を展示した。

#### イ 速報展「温石」開催(18.2.10～2.19)

旧尚徳中学校の発掘調査により出土した中世の温石を京都御所公家町跡から出土したものと併せて展示を行った。

### 2 特別展示の実施

ア 特別展示「桃山文化の陶磁器～つちの中から～2」(17.4.1～8.31)

前回の特別展示が好評であったため、引き続き一部の展示品を入れ替え、特別展示「桃山文化の陶磁器～つちの中から～2」として開催した。

展示では、今回のテーマに関係する京都市内の各遺跡から出土した陶磁器類を展示した。(展示遺物 343点)

イ 特別展示「発掘された瓦窯」(17.10.4～継続中)

京都市内には、多数の古代の瓦窯跡があり、当研究所は昭和51年の設立以来平安京の造営と深く関わりのあ

る栗栖野瓦窯跡をはじめ、平安京以前の寺院に関係する瓦窯跡の発掘調査を実施してきた。

今回、こうした窯跡の資料を一同に介して展示することにより、京都の窯跡の変遷を紹介することを目的に、特別展示「発掘された瓦窯」を開催した。

展示では、15箇所の瓦窯跡、計36基の窯跡を扱い、窯跡の写真パネルと出土瓦で窯跡との関係わかるように展示を行った。

(展示遺物 226点 写真パネル類 35枚)

3 平安宮豊楽殿跡出土品重要文化財指定に伴う記念展示の実施(17.7.5～継続中)

平成17年6月9日、平安宮豊楽殿跡出土品が京都市所有の「考古資料」として初めて国の重要文化財に指定された。

指定品674点は、発掘出土品に加え地元の吉田英夫氏からの寄贈品、豊楽殿北方の試掘調査で出土した緑釉瓦のほか、土器や金属、ガラス製品などであり、指定を機に「テーマ展示コーナー」及び「時代別展示コーナー」の平安時代コーナーで展示を行った。

### 4 第26回小・中学生夏期教室の開催

期 間 平成17年8月18日～19日

対 象 小学5・6年生及び中学生とその保護者

第1日 9:30～11:30 資料館見学, ドロメ  
ンコ作り, 瓦の拓本実習

第2日 9:30～12:00 御堂ヶ池1号墳, 蛇  
塚古墳等の見学及び出土

参加者 24名遺物の説明

### 5 文化財講座の開催

※ 申込者総数 541名 受講者総数 469名  
表7参照)

- 6 考古資料の貸出 (表8 参照) 京都市教育委員会が中学生を対象として行っている
- ア 継続貸出分 34件 830点 (前年度以前からの継続貸出分) 「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業を受け入れ、次のとおり実施した。なお、17年度から文部科学省が提唱する子供たちに職業感や勤労観を育成する「キャリア教育」の一環として、中学校を中心に5日間以上の職業体験が全国で実施されることから、チャレンジ体験も原則5日間に拡充されるため、これに沿った日数で実施した
- イ 新規貸出分 17件 433点
- 7 博物館学芸員課程実習生の受入れ (表9 参照)
- 8 生き方探求・チャレンジ体験 (表10 参照)

表7 文化財講座一覧表

回数	月日	演 題	講 師 名	人数
第171回	4/23	小野瓦窯の発掘調査	調査業務 吉崎伸	43
		だるま窯の話	浅田製瓦工場 浅田晶久	
第172回	5/28	平安京左京三条四坊十町の発掘調査	調査業務 上村和直	49
		京都の文化財シリーズ 第5回庭園の系譜 ～平安から大正時代まで～	京都市文化財保護課 今江秀史	
第173回	6/25	2005年 発掘調査成果写真展をめぐって	調査課長 鈴木久男	46
第174回	7/23	平安京左京四条二坊十四町の発掘調査	調査業務 平尾政幸	55
		京都市内出土の指定文化財について －平安宮豊樂殿跡出土品を中心として－	市埋文調査センター 長谷川行孝	
第175回	9/24	現地講座 (遺跡めぐり) 伏見城下町の遺跡	考古資料館 永田信一	62
第176回	10/22	特別展示 発掘された瓦窯をめぐって	考古資料館 原山充志	43
第177回	1/28	謎解き・洛中洛外凶遺跡	同志社大学助教授 鋤柄俊夫	49
第178回	2/25	瓦と瓦窯	立命館大学教授 高正龍	52
第179回	3/25	平安京跡発掘史 ー市街地における遺跡調査法を通じてー	考古資料館 永田信一	70

表8 新規貸出一覧表

No	件 名	貸 出 先	貸 出 期 間	点 数
1	企画展「田中吉政とその時代」	市立長浜城歴史博物館・岡崎市美術博物館	9.1～12.14	12
2	「茶陶の源流－和のうつわ誕生－」	(財)出光美術館	4.23～6.26	53
3	京都地方裁判所ロビーにて展示	京都地方裁判所	4.11～3.31	13
4	「音と人の風景」	東北歴史博物館	6.10～8.10	1
5	「こども考古学教室」	市立朱雀第八小学校	5.18～5.27	81
6	「平安の仮名・鎌倉の仮名－時代を映す書のかたち」	(財)出光美術館	11.5～12.18	1
7	開館10周年記念夏季特別展「考古学者になろうよ 2005」	城陽市歴史民俗資料館	7.1～9.30	17
8	「歴史体験隊」	(財)大阪府文化財センター	6.30～7.26	1
9	特別展「高取焼」	(財)根津美術館	9.15～12.31	18
10	院内1階ホールにて展示	(財)泉谷病院	8.25～3.31	10
11	「築城400年記念展示・収蔵館」	元離宮二条城事務所	10.10～3.31	38
12	企画展「発掘された明石の歴史展～直良信夫と明石～」	明石市立博物館	11.16～12.27	4
13	右京ふれあい文化会館 常設展示	(財)京都市音楽芸術文化振興財団	9.29～3.31	15
14	「十二月展」『香りの文化史～におい事情いまむかし～』	龍谷大学文学部	11.24～12.6	21
15	企画展「近世陶磁の消費遺跡－江戸・名古屋・京・大阪－」	(財)瀬戸市文化振興財団	12.1～3.31	68
16	特別展「天下人とやきもの」	土岐市美濃陶磁歴史館	1.13～18.5.31	72
17	発掘された日本列島2006－新発見考古速報展－	発掘された日本列島展実行委員会	1.20～19.3.10	8



II 京都市考古資料館状況

9 修学旅行生の発掘調査体験学習の受入れ

3) 富山県朝日町立朝日中学校  
5名 5月12日 発掘調査・土器洗い体験

1) 岩手県花巻市立宮野目中学校

11名 4月14日 発掘調査体験

2) 長野県松川町立松川中学校

3名 4月22日 発掘調査体験

10 教育機関の学外授業等の受入れ(表11参照)

小学校や大学等の課外授業の受入れを行った。

表9 博物館実習受入れ一覧表

No	大学名	人数	期間	内容
1	大東文化大学	1	8.30~9.2	京都市の埋蔵文化財について、資料館業務、写真撮影、保存処理業務等についての講義及び実習
2	京都教育大学	1		
3	京都女子大学	1		
4	京都造形芸術大学	1		
5	立命館大学	2		
6	ノートルダム女子大学	1		
7	京都橘大学	2		
8	京都精華大学	1		
9	愛媛大学	1		
10	京都文教大学	1	9.6~9.9	
11	京都教育大学	1		
12	京都女子大学	1		
13	京都造形芸術大学	1		
14	立命館大学	1		
15	ノートルダム女子大学	1		
16	京都橘大学	3		
17	京都精華大学	1		
18	京都女子大学	2	9.13~9.16	
19	京都造形芸術大学	2		
20	立命館大学	2		
21	京都橘大学	4		
22	京都精華大学	1		
23	京都府立大学	30	5.18	
24	仏教大学	78	5.29	

表10 市内中学生チャレンジ体験受入れ一覧表

No	学校名	人数	日時	内容
1	修学院中学校	2	5.31~6.3	京都市内で実施している、埋蔵文化財の発掘調査事業につき、現場での発掘調査から、その後の出土遺物の整理作業及び考古資料館での展示公開までの一連の作業内容を体験。 (1) 発掘調査の体験(発掘調査の解説、実際の発掘調査現場での調査体験) (2) 出土遺物の整理作業の体験(出土遺物の水洗い、拓本作業や保存処理作業など) (3) 考古資料館業務の体験(学校内の発掘調査や京都の遺跡の解説展示見学、ワークシート作りなど)
2	桃陽総合養護学校	3	6.7~9	
3	北野中学校	3	6.7~10	
4	向島東中学校	4	6.7~10	
5	春日丘中学校	2	7.5~7	
6	七条中学校	4	10.25~27	
7	下鴨中学校	5	10.25~28	
8	烏丸中学校	1	11.8~10	
9	上京中学校	2		
10	松原中学校	4	11.8~11	
11	桂川中学校	3		
12	朱雀中学校	6	11.15~18	
13	近衛中学校	1		
14	深草中学校	2	11.29~12.2	
15	大枝中学校	3	1.18~20	
16	安祥寺中学校	4	1.25~27	
17	桂中学校	4	18.1.31~2.3	
18	山科中学校	1		
19	太秦中学校	4	18.2.7~2.10	
計		58	男子49名・女子9名	

## 11 関係機関等への協力（表12参照）

施設見学や展示解説の受け入れを実施した。

## 12 入館状況（表13参照）

表11 教育機関の学外授業等の受入れ一覧表

No	機 関 名	人 数	日 時	内 容
1	二条城北小学校	101	5.19	校内の発掘調査や周辺遺跡についての説明、遺物見学"
2	立命館大学	20	5.28	展示概要及び方法等の解説
3	西陣中央小学校（6年生）	119	6.1	土器作りについての講義、展示見学
4		118	6.2	展示見学、ワークシート
5	京都橘大学	8	6.2	展示概要及び方法等の解説
6	京都女子大学	89	6.4	展示概要及び方法等の解説
7	立命館大学	10	6.24	展示概要及び方法等の解説
8	堀川高校	13	7.15	校内の発掘調査について解説
9	松尾小学校	11	7.21	展示解説
10	西陣中央小学校（6年生）	37	8.31	展示解説
11		79	9.1	展示解説
12	堀川高校	18	9.21	校内の発掘調査について解説
13	朱雀高校	22	9.30	展示解説
14	京都造形芸術大学	57	10.15	展示概要及び方法等の解説
15	待鳳小学校	43	11.1	展示見学
16	大分県杵築中学校	5	11.2	展示見学
17	京都橘大学	96	11.19	展示概要及び方法等の解説
18	京都女子大学	80	11.19	展示概要及び方法等の解説
19	京都橘大学	10	12.15	展示概要及び方法等の解説
20	帝塚山大学歴史考古学研究会	30	12.18	展示見学
21	第四錦林小学校オリエンテーリング	44	3.14	展示見学
計		1,010		

表12 関係機関等への協力一覧表

No	件 名	機 関 名	日 時	備 考
1	京都新聞「クイズみやこの歴史」連載	京都新聞社	通 年	第34回～第56回連載
2	展示解説	NPO平安京	4.17	30名受入
3	施設見学	京都市議会文教委員会共産党委員	4.21	6名受入
4	展示解説	NPO平安京	4.28	20名受入
5	展示解説	愛知県陶芸グループ	5.22	15名受入
6	展示解説	大阪史跡友歩会	7.20	15名受入
7	けいはん沿線探訪展示見学	京阪電気鉄道株式会社	9.27	125名受入
8			9.29	124名受入
9			9.30	82名受入
10	施設見学	松山東社会保険委員会	10.7	8名受入
11	施設視察	岩手県陸前高田市市会議員団	1.21	9名受入
12	専門研修「陶磁器調査課程」研修生受入	奈良文化財研究所	2.8	33名受入
13	展示解説	ユウユウクラブ	2.16	22名受入
14	平安京跡について解説	洛陽交通(株)ラクヨー郷土・史跡研究会	2.21・2.22	33名受入
15	展示解説	西陣文化倶楽部(NPO平安京)	2.26	21名受入
16	展示解説	NHK大阪文化センター	3.9	31名受入
17	展示解説	筑紫古代文化研究会	3.17	18名受入
18	展示解説	大阪いちょう大学	3.18	69名受入

III 組織構成

表 13 入館者数一覧表

月	開館日数	一 般			団 体			合 計	一日平均
		12才以上	12才未満	小 計	12才以上	12才未満	小 計		
	日	人	人	人	人	人	人	人	
4	26	1,336	68	1,404	93	0	93	1,497	57.6
5	26	1,402	71	1,473	184	94	278	1,751	67.3
6	26	1,439	54	1,493	142	230	372	1,865	71.7
7	27	1,292	78	1,370	78	0	78	1,448	53.6
8	26	1,303	125	1,428	1	36	37	1,465	56.3
9	26	1,227	70	1,297	464	77	541	1,838	70.7
10	26	1,472	59	1,531	151	0	151	1,682	64.7
11	26	1,390	36	1,426	178	41	219	1,645	63.3
12	23	1,218	41	1,259	30	0	30	1,289	56.0
1	24	1,211	45	1,256	79	0	79	1,335	55.6
2	24	1,492	43	1,535	149	0	149	1,684	70.2
3	27	1,562	59	1,621	272	38	310	1,931	71.5
計	307	16,344	749	17,093	1,821	516	2,337	19,430	63.3

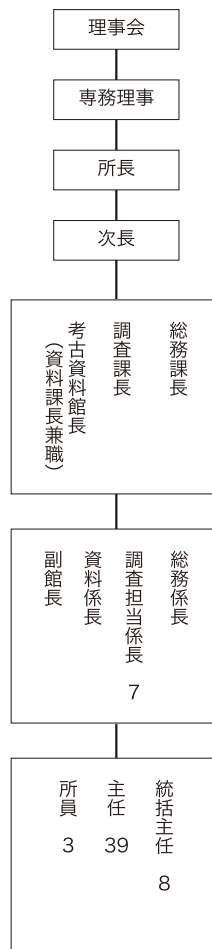
※ 参考 平成 15 年度 開館日数 308 日 総入館者数 19,836 人 (一日平均 64.4 人)  
 平成 16 年度 開館日数 305 日 総入館者数 20,896 人 (一日平均 68.5 人)

III 組織構成

表 14 役員名簿

役 職 名	氏 名
理 事 長	柴 田 重 徳
専務理事	吉 田 正 和
理 事	水 口 重 忠
理 事	石 崎 了
理 事	浅 野 保 夫
理 事	井 上 満 郎
理 事	上 田 正 昭
理 事	川 上 貢
理 事	田 辺 昭 三
理 事	角 田 文 衛
理 事	西 川 幸 治
理 事	村 井 康 彦
理 事	和 田 晴 吾
監 事	廣 瀬 伸 彦
監 事	川 脇 純 一

表 15 組織構成表



うち 10名 (財)大阪府文化財センターへ出向  
 2名 (財)富山県埋蔵文化財調査事務所へ出向



平成 17 年度  
財団法人京都市埋蔵文化財研究所年報

発行日 2008 年 2 月 29 日

編 集  
発 行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

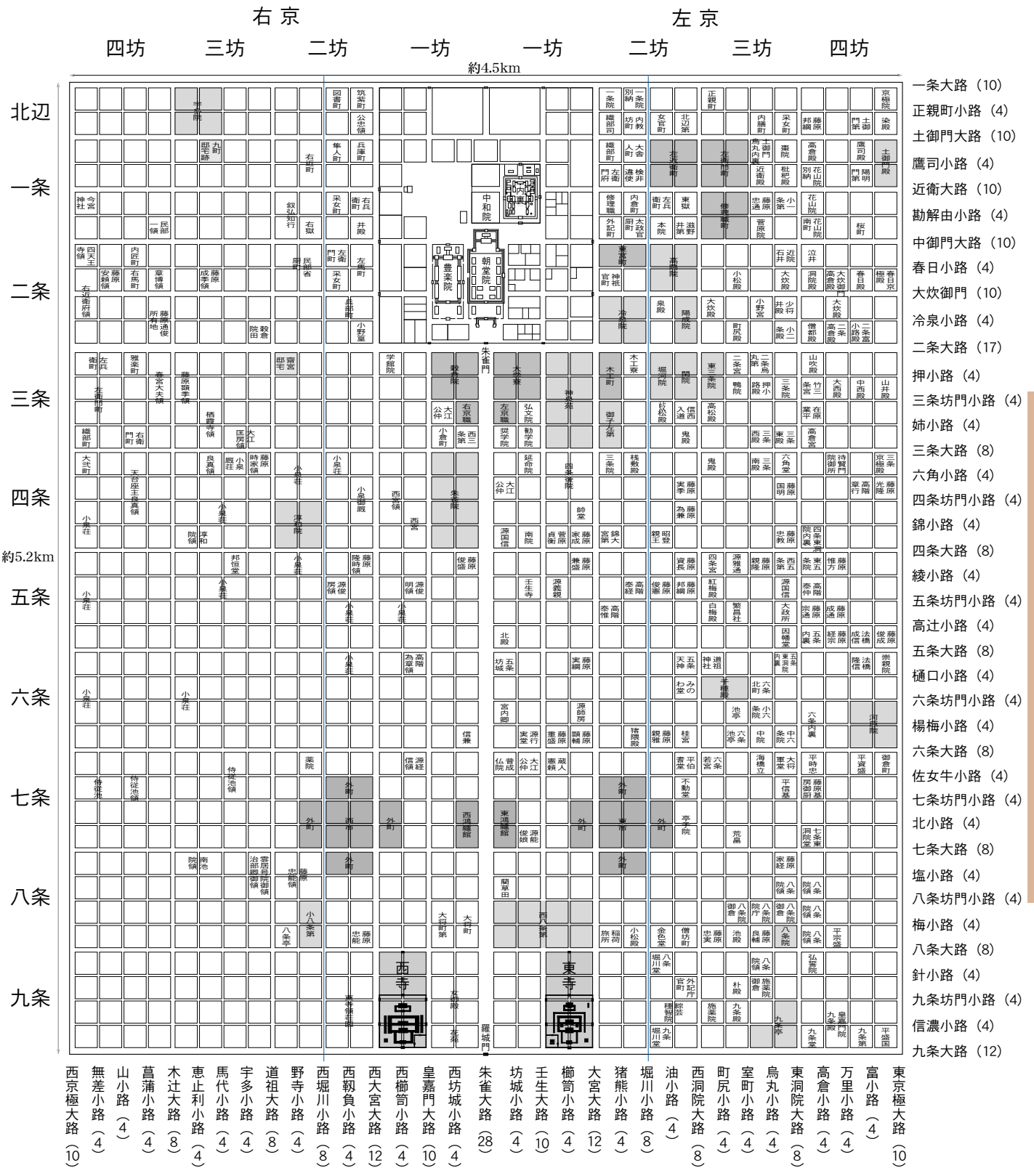
住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265 番地の 1  
〒 602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷 (有) 関西プロセス





# 平安京図



凡例  
 図中に示した諸司厨町や邸宅名は、『平安京提要』1994年 角川書店（第三章「左京と右京」 山田邦和）より引用し一部追加した。  
 (数字)：丈数を示す。

平安京図

表紙図：平安宮豊楽殿跡出土鬼瓦（重文）